

平成22年度

農作物有害動植物発生予察事業年報

和歌山県農作物病虫害防除所

# 目 次

I. 事業目的	1
II. 事業実施方針	1
III. 対象病害虫の種類	1
IV. 職員	4
V. 病害虫発生予察情報の提供	
1. 発生予察情報の提供回数	5
2. 発生予察特殊報・注意報の内容	7
3. 発生予報の内容	15
4. 病害虫の診断・同定の件数	69
VI. 病害虫の発生経過の概要	70
VII. 水稻病害虫の発生状況調査	
1. 水稻の生育概況	79
2. 県予察ほ場などにおける定点調査	81
3. 水稻巡回ほ場調査	82
1) ほ場における病害虫の発生状況	83
2) 主要病害虫の発生程度別面積	95
4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況	103
VIII. 野菜・花き病害虫の発生状況調査	
1. 巡回調査における発生状況	109
2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況	117
3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況	126
IX. 果樹病害虫の発生状況調査	
1. 予察ほ場における調査成績	127
2. 巡回調査結果	145

# 平成22年度農作物有害動植物発生予察事業年報

## I. 事業目的

農作物に発生する有害動植物（以下「病害虫」という）の防除を的確かつ経済的に行うために、病害虫の発生、増殖、気象、農作物の生育状況等を調査して、病害虫の発生時期、発生量、発生地域、農作物が受ける損害の程度を予測し、関係者に迅速かつ適期に情報を提供して、防除効果の向上に資することを目的とする。

## II. 事業実施方針

農作物有害動植物発生予察事業調査実施基準に基づいて、定点における定期調査と巡回による病害虫の発生状況調査を重点的に実施し、定期または適期に病害虫防除員や関係機関に発生予察情報を提供して、適切な防除の推進を図る。その他、県内で問題となる病害虫や侵入害虫、新規発生病害虫に関する調査なども重点に事業を実施する。

## III. 対象病害虫の種類

作物名	対象病害虫
水 稲	(指 定) いもち病、紋枯病 ヒメトビウンカ、トビイロウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、ニカメイガ、コブノメイガ、斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ）、イネミズゾウムシ (指定外) 白葉枯病、萎縮病、縞葉枯病、ばか苗病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、苗立枯病、稲こうじ病、内穎褐変病 イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イネクロカメムシ、イネハモグリバエ、コバネイナゴ、フタオビコヤガ、イネヨトウ、アワヨトウ、イネシンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ
麦	(指 定) 赤かび病、うどんこ病
バレイショ	(指 定) 疫病
大 豆	(指 定) 吸実性カメムシ類（ホソヘリカメムシ、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシ、イチモンジカメムシ、ブチヒメカメムシ、クサギカメムシ）
キャベツ	(指 定) 黒腐病、菌核病 コナガ、ハスモンヨトウ、アブラムシ類（ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ） (指定外) モンシロチョウ、ヨトウガ
ハクサイ	(指 定) アブラムシ類（ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナガ、ハスモンヨトウ (指定外) べと病、黒斑病、軟腐病、キュウリモザイクウイルス病、カブモザイクウイルス病、カリフラワーモザイクウイルス病、根こぶ病、白斑病 ハイマダラノメイガ

作物名	対象病害虫
ダイコン	(指 定) ハスモンヨトウ、コナガ (指定外) 黒斑細菌病、キュウリモザイクウイルス病、カブモザイクウイルス病 キスジノミハムシ、モンシロチョウ、ハイマダラノメイガ
レタス	(指 定) 菌核病、灰色かび病 (指定外) キュウリモザイクウイルス病、レタスモザイクウイルス病
タマネギ	(指 定) さび病 (指定外) 白色疫病、べと病、葉枯病、ネギアザミウマ
ネギ	(指 定) さび病
スイカ	(指 定) アブラムシ類(ワタアブラムシ) (指定外) つる枯病、うどんこ病、疫病、キュウリ緑斑モザイクウイルス病、 キュウリモザイクウイルス病、カボチャモザイクウイルス病、炭そ病 カンザワハダニ、ナミハダニ、シロイチモジヨトウ、ウリハムシ
キュウリ	(指 定) べと病、うどんこ病、灰色かび病 アブラムシ類(ワタアブラムシ) (指定外) 斑点細菌病、疫病、キュウリ緑斑モザイクウイルス病、キュウリモザイ クウイルス病、カボチャモザイクウイルス病 ナミハダニ、カンザワハダニ、ミナミキイロアザミウマ、オンシツコナ ジラミ、ワタヘリクロノメイガ、トマトハモグリバエ
ナス	(指 定) うどんこ病、灰色かび病 アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、ハスモンヨトウ (指定外) 青枯病 ナミハダニ、カンザワハダニ、オンシツコナジラミ、ミナミキイロアザ ミウマ、ミカンキイロアザミウマ、トマトハモグリバエ、ダイズウスイ ロアザミウマ、ネギアザミウマ
トマト	(指 定) 灰色かび病、疫病 ハスモンヨトウ (指定外) キュウリモザイクウイルス病、タバコモザイクウイルス病 オンシツコナジラミ、タバココナジラミ、トマトハモグリバエ
ピーマン	(指 定) うどんこ病 アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)
エンドウ	(指 定) ハスモンヨトウ (指定外) 褐紋病、褐斑病、うどんこ病、灰色かび病、つる枯細菌病 ナミハダニ、カンザワハダニ、ウラナミシジミ、ナモグリバエ、 シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ

作物名	対象病虫害
イチゴ	(指定) 灰色かび病 アブラムシ類 (ワタアブラムシ) (指定外) うどんこ病、ナミハダニ、カンザワハダニ、ミカンキイロアザミウマ
キク	(指定) 白さび病 (指定外) 黒斑病、褐斑病 カスミカメムシ類 (ウスモンミドリカスミカメ)、ミカンキイロアザミウマ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナミハダニ
カンキツ	(指定) かいよう病、黒点病、そうか病 ミカンハダニ、カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)、ハマキムシ類 (指定外) 灰色かび病 ミカンサビダニ、ヤノネカイガラムシ、ロウムシ類 (ツノロウムシ、ルビーロウムシ)、チャノキイロアザミウマ、アブラムシ類 (ワタアブラムシ、ミカンクロアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ)、ゴマダラカミキリ、ナシマルカイガラムシ、クワゴマダラヒトリ、ミカンハモグリガ
カキ	(指定) ハダニ類、カキノヘタムシガ、カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)、ハマキムシ類 (指定外) 炭そ病、うどんこ病、灰色かび病、角斑落葉病、円星落葉病 チャノキイロアザミウマ、カキクダアザミウマ、フジコナカイガラムシ
モモ	(指定) せん孔細菌病 シンクイムシ類 (ナシヒメシンクイ)、ハダニ類 (ミカンハダニ、カンザワハダニ)、カメムシ類 (ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ)、ハマキムシ類 (指定外) 黒星病、灰星病 モモハモグリガ、コスカシバ、アブラムシ類 (モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ)、カイガラムシ類 (ウメシロカイガラムシ)
ウメ	(指定外) かいよう病、黒星病、すす斑症 アブラムシ類 (モモアカアブラムシ、オカボノアカアブラムシ、ウメクビレアブラムシ)、ウメシロカイガラムシ、カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)
ブドウ	(指定外) 黒とう病、晩腐病

#### IV. 職員

区 分	所 在 地	職 名	氏 名
本 所	和歌山県紀の川市貴志川町高尾160 (農業試験場内) TEL0736(64)2300 FAX0736(65)2016	所 長 主 査 主 査 主 査 副主査 副主査	辻 和良 山田 顕史 井口 雅裕 小山 昌志 岡本 晃久 衛藤 夏葉
有田川 駐在	和歌山県有田郡有田川町奥751-1 (果樹試験場内) TEL0737(52)4320 FAX0737(53)2037	主 査 技 師	間佐古将則 井沼 崇
紀の川 駐在	和歌山県紀の川市粉河3336 (果樹試験場かき・もも研究所内) TEL0736(73)2274 FAX0736(73)4690	副主査 副主査	森本 涼子 大谷 洋子
みなべ 駐在	和歌山県日高郡みなべ町東本庄 1416-7 (果樹試験場うめ研究所内) TEL0739(74)3780 FAX0739(74)3790	副主査 技 師	菱池 政志 武田 知明

## V. 病害虫発生予察情報の提供

### 1. 発生予察情報の提供回数

種 類	対象作物	病 害 虫 名 と 提 供 回 数
注 意 報	水稻	イネ縞葉枯病（紀北地域）：注意報第1号 （発表日：平成22年4月12日）
	ウメ、カンキツ	果樹カメムシ類（日高、西牟婁地域）：注意報第2号 （発表日：平成22年5月13日）
	水稻	セジロウンカ（県内全域）：注意報第3号 （発表日：平成22年7月16日）
	カキ	果樹カメムシ類（紀北地域）：注意報第4号 （発表日：平成22年7月20日）
発生予報	水稻	いもち病5回、ばか苗病1回、縞葉枯病4回、紋枯病4回、白葉枯病2回、褐条病1回、もみ枯細菌病による苗腐敗症1回、ツマグロヨコバイ5回、ニカメイガ3回、ヒメトビウンカ5回、セジロウンカ3回、トビイロウンカ4回、コブノメイガ3回、イネミズゾウムシ2回、イチモンジセセリ2回、斑点米カメムシ類2回
	タマネギ	白色疫病1回、べと病2回、灰色かび病2回、軟腐病1回、
	エンドウ	褐斑病3回、褐紋病3回、うどんこ病3回、つる枯細菌病2回、ナモグリバエ1回、ハダニ類1回、シロイチモジヨトウ2回、オオタバコガ1回
	ウリ類	モザイク病2回、斑点細菌病1回、うどんこ病2回、疫病2回、べと病2回、つる枯病2回
	キャベツ	コナガ1回、アオムシ1回
	ダイコン ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病1回、コナガ2回、ヨトウガ1回、アブラムシ類1回
	トマト、ナス ピーマン	疫病1回、モザイク病1回
	トマト ミニトマト	黄化葉巻病2回
	野菜全般	ウイルス病1回、疫病1回、モザイク病1回、灰色かび病1回、アブラムシ類5回、ハダニ類5回、ハスモンヨトウ2回、シロイチモジヨトウ3回、コナガ1回、ミナミキイロアザミウマ4回、ミカンキイロアザミウマ6回
	野菜・花き 全般	アブラムシ類1回、コナジラミ類1回、ハダニ類1回、ハスモンヨトウ2回、オオタバコガ1回、ミナミキイロアザミウマ1回、ミカンキイロアザミウマ1回、ハモグリバエ類1回

種 類	対象作物	病 害 虫 名 と 提 供 回 数
発生予報	カンキツ	黒点病 5 回、かいよう病 6 回、そうか病 2 回、灰色かび病 1 回、 果実腐敗病 1 回、ヤノネカイガラムシ 4 回、ミカンハダニ 8 回、 チャノキイロアザミウマ 5 回、ゴマダラカミキリ 2 回、 アブラムシ類 1 回、カメムシ類 1 回
	カキ	炭そ病 3 回、うどんこ病 6 回、円星落葉病 5 回、角斑落葉病 5 回、 フジコナカイガラムシ 4 回、カキクダアザミウマ 1 回、 チャノキイロアザミウマ 1 回
	ウメ	かいよう病 1 回
	モモ	せん孔細菌病 2 回
	果樹全般	カメムシ類 7 回



## 2. 発生予察特殊報・注意報の内容

### 注意報第1号（発表日：平成22年4月12日）

1. 病害虫名：イネ縞葉枯病
2. 対象作物：水稲
3. 発生地域：紀北地域
4. 発生予想量：多
5. 注意報発令の根拠

（1）和歌山市3地点におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率はいずれも10%以上で前年に引き続き高かった。かつらぎ町における保毒虫率は19.1%と前年に比べて高かった（表1）。これらの保毒虫率は、平成3～12年の平均（2.8～3.4%、表2）より高い。

（2）平成21年8月の紀北地域の本田におけるイネ縞葉枯病発病株数は、25株あたり0.6株（平年0.04株）と平年に比べて多かった。

（3）休閑田における4月上中旬のヒメトビウンカ生息数は、紀の川市では8.0頭（平年9.6頭）、かつらぎ町では4.8頭（平年6.5頭）と、共に平年並である（表3）。

表1. ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率<sup>a)</sup>

平成22年 <sup>b)</sup>			平成21年 <sup>c)</sup>		
調査地点	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	調査地点	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
和歌山市 小倉	78	10.3	和歌山市 小倉	55	14.5
和歌山市 川永	51	15.7	和歌山市 川永	48	16.7
和歌山市 平尾・明王寺	105	20.0	和歌山市 明王寺	50	22.0
かつらぎ町 窪	115	19.1	かつらぎ町 窪	62	11.3

a)検定方法:高比重ラテックス凝集反応法

b)調査日:平成22年4月5～8日

c)調査日:平成21年4月13～17日

表2. ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率の推移(平成3～12年)

(単位: %)

調査地点	平成 12年	平成 11年	平成 10年	平成 9年	平成 8年	平成 7年	平成 6年	平成 5年	平成 4年	平成 3年	平均
和歌山市小倉	0.6	2.0	2.3	4.7	0.0	3.0	—	7.2	—	—	2.8
かつらぎ町窪	—	2.4	2.0	2.3	—	6.6	3.4	2.0	3.0	5.1	3.4

注)ヒメトビウンカ採集および検定実施日は3月下旬～4月上旬。検定虫数が80頭以下の調査結果は除く。

検定方法:ラテックス凝集反応法

表3. 休閑田におけるヒメトビウンカの生息数(単位:頭)

調査時期		平成22年	平年
3月中下旬	和歌山市	0.0	2.8
	紀の川市	21.3	4.6
	かつらぎ町	0.7	1.4
4月上中旬	和歌山市	1.3	10.0
	紀の川市	8.0	9.6
	かつらぎ町	4.8	6.5

注)すくい取り調査(捕虫網20回振り)

## 6. 防除対策

(1) イネ縞葉枯病はヒメトビウンカによって媒介される。越冬世代のヒメトビウンカは休閑田や圃場周辺の雑草に生息し、3月中旬頃から成虫になる。第1世代幼虫は4月下旬～5月上旬にふ化するので、この時期までに休閑田の耕起、圃場周辺の除草を行ってヒメトビウンカの生息密度を低下させる。

(2) イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。

(3) 窒素過多はイネ縞葉枯病の発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。

(4) 田植え時はヒメトビウンカに効果がある箱施薬剤を処理する。

(5) 第1世代成虫は6月下旬頃に水田へ飛来し、第2世代幼虫の発生最盛期は7月上旬と考えられることから、前年にイネ縞葉枯病の発生が認められた地域では、この時期の幼虫を対象に追加防除を行う。

(6) 本県の水稲奨励品種のうち、ハナエチゼン、イクヒカリ、キヌヒカリはイネ縞葉枯病に罹病しやすいので、とくに注意する。

(7) 農薬については、最新の登録情報 (<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html> 農林水産消費安全技術センター HP 農薬登録情報検索システム) を参照し、適正に使用する。

注意報第2号（発表日：平成22年5月13日）

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ越冬成虫）
2. 対象作物：ウメ、カンキツ
3. 発生地域：日高、西牟婁地域
4. 発生量：多
5. 加害期間：5月中旬～
6. 注意報発令の根拠：
  - (1) 昨年のスギ、ヒノキの球果量がやや多かったことから、チャバネアオカメムシの越冬量は比較的多かった（表1）。日高郡、田辺市、西牟婁郡の9調査地点中3地点で合計5頭の越冬成虫が確認された（過去10年平均1.8地点で3.1頭）。紀中、紀南地域では、越冬期に中晩柑園でツヤアオカメムシが多く認められたことから、越冬密度は高いと推定される。
  - (2) 病害虫防除所みなべ駐在（みなべ町東本庄）に設置された予察灯での果樹カメムシ類の誘殺数は、5月5日138頭、5月6日335頭と多く、ツヤアオカメムシ主体である。また、みなべ町岩代に設置された予察灯でも5月7日に100頭のツヤアオカメムシが誘殺されている（表2）。

表1 日高郡、田辺市、西牟婁郡におけるチャバネアオカメムシの越冬調査結果

	調査 地点数	2010年		過去10年平均	
		越冬成虫 確認地点数	越冬 成虫数	越冬成虫 確認地点数	越冬 成虫数
日高郡	5	2	2	1.0	1.3
田辺市・西牟婁郡	4	1	3	0.8	1.8
合計	9	3	5	1.8	3.1

表2 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数(2010年)

		5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11
みなべ町東本庄 (みなべ駐在)	ツヤアオ	1	0	52	91	298	70	5	5	13	2
	チャバネ	0	0	11	47	37	2	1	1	0	0
みなべ町岩代	ツヤアオ						100				100
	チャバネ						0				0

注)みなべ町岩代の予察灯調査は、日高果樹技術者協議会による。

みなべ町東本庄で4月1日から、みなべ町岩代で5月6日から予察灯を点灯。

みなべ町岩代の5月11日の誘殺数は、5月7日からの累積。

ツヤアオ:ツヤアオカメムシ    チャバネ:チャバネアオカメムシ

7. 防除上の注意事項

- (1) 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きいので、園内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。また、ウメの被害には品種間差が大きく、小梅類等の

収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。カンキツでは蕾、花を加害するので、被害状況を観察して防除する。

- (2) 各地域での発生状況に関する情報を参考にし、対応する。
- (3) 農薬については最新の登録情報 (<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html> 農林水産消費安全技術センター HP 農薬登録情報検索システム) を参照し、適正に使用する。

注意報第3号（発表日：平成22年7月16日）

1. 病害虫名：セジロウンカ
2. 対象作物：水稻
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 注意報発令の根拠

(1) 4月1半旬～7月2半旬の期間の予察灯による誘殺数は、紀の川市 593 頭、上富田町 627 頭、那智勝浦町 424 頭で、いずれも平年と比べて多い（第1表）。

(2) 7月3半旬現在の発生ほ場率は100%であった。25株あたり平均生息虫数は紀北地域 215.3 頭、紀中地域 108.7 頭、紀南地域 225.0 頭で、紀北地域と紀南地域は平年より多かった（第2表）。

(3) 要防除水準（成幼虫が1株あたり10頭）を超える圃場は、紀北地域で12%、紀中地域で14%、紀南地域で50%であった（第2表）。

6. 防除上の注意事項

(1) 圃場を見回り、成幼虫が1株あたり平均10頭を超える場合は早急に薬剤防除を実施する。

(2) 農薬の使用基準を遵守し、危害防止に努めること。

(3) 本年はコブノメイガの発生もやや多い。セジロウンカの発生が少ない圃場（1株あたり平均10頭未満）では急いで防除せず、コブノメイガの防除適期に両種に登録がある薬剤で同時防除を図ると効率的である。なお、紀南地域の早期水稻ではコブノメイガの防除の必要性は低い（病害虫防除技術情報第1号参照）。

(4) 紀南地域の早期水稻ではカメムシ類にも登録がある薬剤を選択し、出穂後の斑点米カメムシ防除と兼ねると効率的である。

第1表 予察灯によるセジロウンカ誘殺数（2010年）

（単位：頭）

	紀の川市		上富田町		那智勝浦町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4月～5月	0	1.6	0	3.2	0	2.5
6月1半旬	0	2.0	0	0.3	0	5.0
2半旬	0	3.6	0	46.9	0	11.7
3半旬	7	7.4	0	86.5	16	57.7
4半旬	238	4.1	211	41.4	68	23.2
5半旬	251	10.2	229	15.6	0	30.5
6半旬	26	51.5	27	47.1	9	51.5
7月1半旬	67	86.7	151	57.0	148	37.6
2半旬	4	15.4	9 <sup>a)</sup>	45.9	183	51.3
合計	593	182.6	627	343.9	424	271.0

a) 上富田町の7月2半旬は、7月9日までの値。

第2表 圃場におけるセジロウンカの発生状況（2010年7月3半旬）

地域	調査圃場数	発生圃場率	25株あたり平均生息虫数(頭)		要防除 <sup>a)</sup> 圃場率
			本年	平年	
紀北	17	100%	215.3	89.5	12%
紀中	7	100%	108.7	117.7	14%
紀南	6	100%	225.0	52.0	50%

a) 要防除圃場率…1株あたり10頭以上の成幼虫の発生が認められる圃場の率。

注意報第4号（発表日：平成22年7月20日）

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシなどの成虫）

対象作物：カキ

発生地域：紀北地域

発生量：多

加害期間：7月下旬～

注意報発令の根拠

7月中旬の巡回調査園における被害果率は「刀根早生・平核無」、「富有」とともに0%であったが（第1表）、紀の川市粉河における予察灯誘殺数は多発年の2006年、2008年と比べて多くなっており、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ主体である（第2表）。ヒノキ花粉飛散数比（本年／前年）は0.16であり、カメムシの発生量に対して餌となる球果の量が不足気味となるため、7月下旬以降、被害が増加すると考えられる（第1図）。山間部などの一部のカキ園では果樹カメムシ類の被害がみられている。

防除上の注意事項

カメムシ類の飛来量・時期は園地間差が大きく、特に山林に隣接するカキ園ではカメムシ類の飛来時期が早いので、園内での発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。また、モモの晩生品種やナシなど他の果樹類での被害も懸念されるので園内での発生に注意し、早めの防除を行う。

予察灯による誘殺数の推移は、和歌山県農林水産総合技術センターのホームページ（<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/index.htm>）に掲載されているので、参考にする。

農薬については、最新の登録情報（<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html> 農林水産消費安全技術センター HP 農薬登録情報検索システム）を参照し、適正に使用する。なお、8月まではネオニコチノイド系殺虫剤を用い、合成ピレスロイド系殺虫剤の使用は9月以降にする。

第1表 果樹カメムシ類によるカキ被害果率(%)の推移

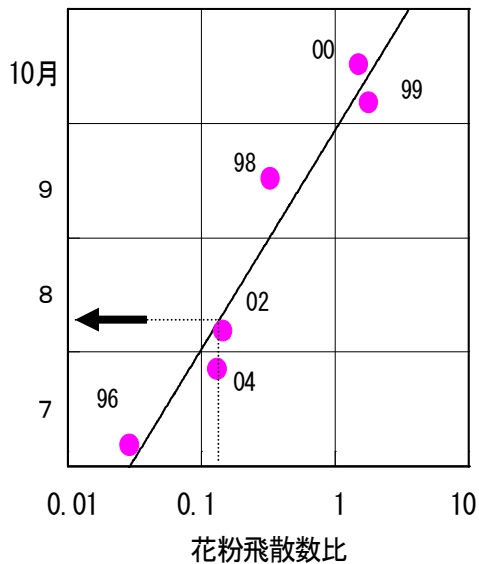
品 種		2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
「富有」	7月中旬	被害果率	0.0	0.0	0.1	0.0
		発生園率	0.0	0.0	5.9	0.0
	8月中旬	被害果率	1.9	0.0	11.2	0.0
		発生園率	41.2	0.0	76.5	0.0
「刀根早生・平核無」	7月中旬	被害果率	0.0	0.0	0.0	0.1
		発生園率	0.0	0.0	0.0	5.9
	8月中旬	被害果率	0.1	0.1	0.1	0.0
		発生園率	5.9	5.9	5.9	0.0

2010年の「刀根早生・平核無」は県内14園の平均値、その他は県内17園の平均値

第2表 果樹カメムシ類の予察灯誘殺消長

月 半旬	チャバネアオカメムシ					ツヤアオカメムシ					クサギカメムシ					
	2006	2007	2008	2009	2010	2006	2007	2008	2009	2010	2006	2007	2008	2009	2010	
6	1	3	0	2	0	23	10	1	3	2	11	0	0	1	0	0
	2	2	0	4	0	5	2	3	22	1	6	0	0	1	0	0
	3	8	4	0	1	20	12	3	3	2	103	5	2	0	5	5
	4	8	2	10	0	137	8	6	22	0	261	9	1	1	0	15
	5	3	3	18	15	76	3	4	77	4	146	3	3	2	2	10
	6	25	2	14	16	252	14	1	35	4	495	33	4	5	4	35
小計	49	11	48	32	513	49	18	162	13	1022	50	10	10	11	65	
7	1	27	5	81	20	225	12	0	21	2	238	12	2	12	2	28
	2	41	1	15	7	125	10	0	10	1	139	26	5	10	4	27
	3	36	2	4	8		7	0	6	0		39	3	9	9	
	4	46	1	19	5		8	0	1	0		13	0	11	6	
	5	52	6	29	4		8	1	6	0		57	10	12	8	
	6	84	5	56	7		15	1	5	0		113	13	48	9	
小計	286	20	204	51		60	2	49	3		260	33	102	38		

調査場所: 紀の川市粉河



第1図 ヒノキ花粉飛散数比(当年/前年)とカキ(富有)の果実被害との関係.

数字は年次を示す。被害増加時期は被害果率が7.5%に達した時期を示している。矢印は花粉飛散数比から予想される2010年の被害増加時期を示している。 $r=0.9676$  ( $p<0.01$ )



### 3. 発生予報の内容

第1号（4月予報、発表日：平成22年4月1日）

#### 水 稲

##### 1. ヒメビウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月中下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市0頭（平年2.8頭、成虫率31%）、紀の川市21頭、成虫率33%（平年4.6頭、成虫率25%）、かつらぎ町0.7頭、成虫率0%（平年1.4頭、成虫率37%）と平年並であった。

##### 2. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月中下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市3.7頭、成虫率0%（平年35.4頭、成虫率37%）、紀の川市0頭（平年4.0頭、成虫率17%）、かつらぎ町4.0頭、成虫率25%（平年5.9頭、成虫率29%）と平年並であった。

#### 野 菜

##### <タマネギ>

##### 1. 灰色かび病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月5半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は0%（平年0%）と平年並であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 下位葉に病斑を認めたら早めに薬剤防除を行う（「防除指針」参照）。

##### 2. 白色疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月5半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は15.1%（平年16.3%）と平年並であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 同一のほ場内でも発病に片寄りがみられることがあるので、発生が集中的にみられるところは特にていねいに薬剤散布を行う。

### 3. べと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 3月5半旬現在、紀北地域での越年罹病株の発生ほ場率は9.4%（平成24年）とやや高かった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 前年度の発生ほ場では4月上旬から薬剤防除を行う。また現在未発生ほ場でも、周辺からの二次伝染が予想される場所では予防散布を行う。

### <エンドウ>

#### 1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 3月3半旬現在、紀中地域の露地栽培での発生ほ場率は33.3%（平成22年）とやや高かった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 雨が多いと多発するので薬剤防除は早めに行う（「防除指針」参照）。

② 過湿ほ場では発生が多いので、排水対策に努める。

#### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 3月3半旬現在、紀中地域の露地栽培での発生ほ場率は5.6%（平成24年）と平成並であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生初期から薬剤防除を行う（「防除指針」参照）。

### <キャベツ>

#### 1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域では3月4半旬現在、発生を認めていない（平成発生ほ場率7.6%、平成発生密度0.1頭/10株）。

② フェロモントラップによる3月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市22頭（平成15頭）、和歌山市20頭（平成22頭）と平成並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 同系統の薬剤は連用しないこと。

### <野菜全般>

## 1. 灰色かび病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 3月2半旬現在、紀中地域の施設栽培キュウリでの発生ほ場率は10%（平年0%）とやや高かった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設内では湿度低下を図り、過灌水や滞水しないように注意する。発病部位を除去し、発病初期から薬剤防除を行う。また、同一系統の薬剤の連用を避け、耐性菌回避を考慮した薬剤のローテーションに努める（「防除指針」参照）。

## 2. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域のイチゴでは3月4半旬現在、発生を認めていない（平年発生ほ場率9.2%、平年発生密度0.1頭/10花）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 気温の上昇とともに4月上旬頃から密度が増加するので、発生初期に防除する。多発ほ場では追加防除を行う。

## 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. かいよう病

(1) 予報内容 春葉初発日 5月4～5半旬（平年並）

春葉発病量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における春葉の越冬病斑量は平年より少なかったが、夏秋梢に越冬病斑がみられた。
- ② 昨年は台風による影響が少なく、巡回調査での発病果率は低かったが、春葉および夏秋梢の発病園率は平年並であった。
- ③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 罹病性品種や常発園では、罹病枝葉の剪除とともに防風垣の整備に努める。
- ② 発芽前の防除ができなかった園では、新梢伸長期に銅水和剤（炭酸カルシウム剤加用）を散布する。
- ③ 前年多発園では、防除の徹底に努める。

#### 2. そうか病

(1) 予報内容 発生時期 平年並

発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場における越冬病斑量は平年並で、近年の巡回調査における発病は、一部の常発園等を除くと平年より少なく、一般防除園の越冬病斑量は平年より少ないと考えられる。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 常発園および前年多発園では、越冬病斑の除去、発芽直後の薬剤防除に努める。

### 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 4月の発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における3月中旬の発生は平年並で、慣行防除園における発生は認められなかった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミカンハダニは殺ダニ剤に対する薬剤抵抗性の発達が問題となるため、冬期のマシン油乳剤による防除を徹底するとともに、夏期にも1回、マシン油乳剤による防除を組み込むことが望ましい。冬期に散布出来ない場合は3月の発芽前に97%・98%マシン油乳剤の散布を行う。

## <カ キ>

### 1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月の「富有」の発病葉率は39.9%（平年33.0%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。前年多発した園では、この時期の防除を徹底する。
- ② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。
- ③ 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をねらってていねいに散布することが大切である。

## <ウ メ>

### 1. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年6月上旬の巡回調査における発生は一部の常発園中心で、発生面積、発病果率ともほぼ平年並であった。秋期の気象条件と併せて潜伏越冬病斑量は少ないと考えられる。
- ② うめ研究所内無防除樹での潜伏越冬病斑は3月19日現在認められない。
- ③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 強風雨により感染が助長されるため、常発園では防風施設の整備等の防風対策を励行する。
- ② 生育期の薬剤防除は、発芽期からほぼ10日おきに数回抗生物質剤を散布する。強風雨直前の散布で、より高い効果が得られる。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並～やや多

(2) 予報の根拠

- ① チャバネアオカメムシ成虫の1箇所あたりの越冬虫数は、県北部では0.2頭(平年0.2頭)で、平年並であった。県南部(有田以南)では0.9頭(平年0.3頭)で、平年に比べやや多かった。
- ② 県南部における越冬箇所率は39%(平年22%)で、やや多かった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ウメ・モモなどでは収穫前の越冬成虫の多飛来に注意する。
- ② カメムシ類の最新の発生状況は、県農林水産総合技術センターのホームページの技術情報の果樹カメムシ類発生予察を参照する。

## 第2号(5月予報、発表日:平成22年5月7日)

### 水 稲

#### 1. もみ枯細菌病による苗腐敗症

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年の県内全域におけるもみ枯細菌病の本圃での発生面積率は7%(平年6.5%)と平年並であった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病ほ場から採種した種子は使用しない。
- ② 種子は塩水選を行い、銅含有剤(テクリードC剤等)で消毒する。その後の浸種は停滞水で行い、2日間は水を交換しない。
- ③ 浸種から育苗中の温度管理に注意し、30℃を超えないようにする。

#### 2. 褐条病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 平成12年にやや多発したが、その後平成21年まで少発生に推移している。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① もみ枯細菌病による苗腐敗症の項参照

#### 3. ばか苗病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年の県内全域におけるばか苗病の本圃での発生面積率は7%（平年7.1%）と平年並であった。
- ② 種子消毒に用いる薬剤の効果は安定している。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 種子消毒を行う（「防除指針」参照）。

#### 4. いもち病(苗いもち、葉いもち)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 種子消毒を徹底する（自家採種では塩水選もあわせて実施する）。
- ② 田植え時に育苗箱処理剤を施用する（「防除指針」参照）。

#### 5. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 ヒメトビウンカ 並 ・ 縞葉枯病(紀北地域) 多

(2) 予報の根拠

- ① 4月上旬中旬の休閑田における20回振り搦り取りによる平均生息数は、紀の川市で8.0頭（平年9.6頭）、和歌山市で1.3頭（平年10.0頭）、かつらぎ町で4.8（平年6.5頭）と平年並であった。
- ② ヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市で15.3%（前年17.7%）、かつらぎ町で19.1%（前年11.3%）であった。これらの保毒虫率は、平成3～12年の平均（2.8～3.4%）より高い。
- ③ 平成21年8月の紀北地域の本田におけるイネ縞葉枯病発病株数は、25株あたり0.6株（平年0.04株）と平年に比べて多かった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。
- ② 田植え時はヒメトビウンカに効果があるアトマイヤー粒剤などを育苗箱施用する。
- ③ 第1世代成虫は6月下旬に水田に飛来し、第2世代幼虫の発生最盛期は7月上旬と考えられることから、前年にイネ縞葉枯病の発生が認められた地域では、幼虫を対象にこの時期の追加防除を行う。
- ④ その他、注意報第1号参照のこと。

#### 6. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生時期 やや遅 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 4月上旬の休閑田における20回振り搦り取りによる平均生息数は、紀の川市で1.7頭（平年29頭）、和歌山市で28頭（平年82頭）、かつらぎ町で23頭（平年133頭）と平年に比べやや少なかった。
- ② 越冬世代の50%成虫化時期は4月1半旬（平年3月6半旬）と平年に比

べやや遅かった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 前年発生が多かった地域では、田植え時にアドマイヤー粒剤またはダントツ粒剤などを育苗箱施用する。

7. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による4月の誘殺数は4半旬現在、那智勝浦町0頭（平成1.2頭）と平成並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時にアドマイヤー粒剤などを育苗箱施用する。
- ② 5月中旬までに田植えする地域のうち、多発地ではさらに田植え3～4週後に薬剤を処理する。

野 菜

<タマネギ>

1. 灰色かび病(白斑葉枯病)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月3半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は0%（平成1.3%）と平成並であった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生ほ場では早めに防除する。

2. べと病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 3月3半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は19%（平成13%）とやや高かった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① リドミルMZ水和剤は連用すると耐性菌の出現が懸念されるので、1～2回の使用にとどめる。

3. 軟腐病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月3半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は0%（平成0.8%）と平成並であった。

- ② 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 降雨前後を重点に薬剤防除を行う。

## <ウリ類>

### 1. モザイク病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 4月2半旬現在、日高郡美浜町のハウス栽培キュウリにおける発生ほ場率は0%（平年0%）と平年並であった。
  - ② アブラムシ類の発生は並と予想される。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① アブラムシ類の防除を徹底する。

### 2. 斑点細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 4月2半旬現在、日高郡美浜町のハウス栽培キュウリにおける発生ほ場率は0%（平年0%）と平年並であった。
  - ② 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 施設内の換気を良くして湿度低下を図る。
  - ② 薬剤防除は予防散布を重点に行う（「防除指針」参照）。

## <野菜全般>

### 1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 和歌山市のキャベツでは4月3半旬現在、発生株率はモモアカアブラムシ 24%（平年 22%）、ニセダイコンアブラムシ 0%（平年 4.0%）と平年並であった。
  - ② 4月の黄色水盤への飛来数は、4半旬現在 16頭（平年 92頭）と平年に比べやや少なかった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 薬剤散布にあたっては葉裏に薬液が十分かかるように行なう。

### 2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 那賀地域のイチゴでは4月4半旬現在、ナミハダニは、発生ほ場率0%（平年 33%）、寄生葉率0%（平年 8.6%）と少なかったが、カンザワハダニは、発生ほ場率 60%（平年 18%）、寄生葉率 12%（平年 4.1%）と平年並であった。



(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① スイカでは、早くから寄生するほ場外縁部の株をみて、早期発見に努め初期防除を行う。
- ② 同一系統の薬剤を連用しない。

### 3. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 那賀地域のイチゴでは4月4半旬現在、発生を認めていない（平年発生ほ場率37%、1花あたり平均寄生密度0.3頭）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生密度の低いときから薬剤防除を行う。

## 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. かいよう病

(1) 予報内容 春葉初発日 5月4～5半旬（平年並）

春葉発病量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）の越冬病斑の発病葉率は6.9%（平年20.7%）で、平年より少なかったが、夏秋梢にも越冬病斑がみられた。
- ② カンキツの発芽期は、ウンシュウミカン（「興津早生」）で4月6日、「清見」で4月7日となり、いずれも平年並であった。開花期は、ウンシュウミカン、「清見」ともに平年並と思われる。
- ③ 去年は台風による影響が少なく、巡回調査での発病果率は低かったが、春葉および夏秋梢の発病園率は平年並であった。
- ④ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 春梢伸長停止後は銅水和剤（炭酸カルシウム剤200倍加用）等による防除を徹底する。
- ② 常発園、前年多発園、罹病性品種の栽培園で発芽前の防除を行っていない場合は、春梢伸長期に銅水和剤（炭酸カルシウム剤200倍加用）を散布する。但し、新葉における葉害（葉焼け）に注意する。
- ③ 常発園や罹病性品種のある園では、罹病枝葉の剪除と防風垣の整備に努める。

#### 2. そうか病

(1) 予報内容 発生時期 平年並

発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における越冬病斑の発病葉率は77.4%（平年67.2

%)と平年並で、近年の発生予察巡回調査における発病は、一部の常発園等を除くと平年より少なく、一般防除園での越冬病斑量は平年より少ないと考えられる。

② カンキツの生育は、ウンシュウミカン（「興津早生」）の発芽期が4月6日と平年並で、開花期は平年並と思われる。

③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 満開期に黒点病、灰色かび病を防除する際、そうか病にも登録のある薬剤を用い防除する。

② 園内の通風採光をよくし、枝が徒長しない肥培管理に努める。

### 3. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 (初期感染) 並

(2) 予報の根拠

① 近年、園内外に放置された枯枝及び樹冠内の枯枝量はやや多く、伝染源密度はやや高くなっていると思われる。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹上及び園内外に放置された枯枝を地域ぐるみで処分に取り組む。

② 早生温州、極早生温州、ネーブル等の品種は、花卉離脱直後からの初期感染に注意が必要であり、防除を徹底する。

### 4. 灰色かび病(開花期)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 連年発生の多い園では、開花期～落弁期の天候に留意し、満開期に防除を行う。

### 5. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除）における4月中旬の発生は平年並で、マシン油乳剤を散布している慣行防除園における発生は認められなかった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 冬期から春期にかけてマシン油乳剤を散布していない園では、夏用マシン油乳剤200倍の散布を行なう。但し、開花期に近いと実害は少ないが奇形花を発生させることがあるので注意する。

### 6. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生時期 第1世代1令幼虫初発日

5月4半旬（並）

発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場における越冬完了歩合、寄生量は平年並であった。
- ② 前年10月の巡回調査では、発生果率は0.7%（平年0.5%）、発生園率は12%（平年7.5%）とやや多かった。
- ③ 第1世代1令幼虫初発日は、予察式 $Y = 57.03 - 0.109 X$ により求めた。ただし、 $X = 3$ 、4月の最高気温\*（11℃超の各日－11℃）の積算であり、 $Y$ は5月1日を起点とした日数で、 $Y = 19.4$ 日（予察式 $Y$ の平年は16.2日、予察ほ場の樹上における初発日の平年は16.1日）で、平年並と思われる。

※：予察式に使用した最高気温は、3月1日～4月20日まで本年の実測値を用い、4月21日～4月30日は平年値を代用した。

## 7. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 越冬成虫の黄色粘着トラップにみられる誘殺頭数は、場内の予察ほ場では平年並で、日高郡由良町ではやや多かった。発生時期は平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① イヌマキやサンゴジュなど防風樹近くでの発生が多い。

## <カ キ>

### 1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月の巡回調査では、「富有」における発病葉率は39.9%（平年33.3%）と平年並であった。
- ② 気象庁の予報によると、5月の降水量は平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。昨年多発した園では、この時期の防除を徹底する。
- ② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。
- ③ 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をねらって丁寧に散布することが大切である。

### 2. 円星落葉病、角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報根拠

- ① 前年10月の巡回調査では、「富有」における角斑落葉病の発病葉率は18.2%（平年20.8%）で平年並、円星落葉病は0.9%（平年1.4%）で平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 円星落葉病の子のう胞子飛散は、5月下旬～7月中旬の降雨後に多くみられるので、マンネブ、マンゼブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

### 3. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 黄色粘着トラップでの誘殺数は平年並である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 落弁期を中心に防除する。
  - ② マキやサンゴジュなど防風樹の近くで発生が多い。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 県北部：並 県南部：やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① チャバネアオカメムシ成虫の1か所あたりの越冬虫数は、県北部では0.2頭（平年0.2頭）で、平年並であった。県南部（有田以南）では0.9頭（平年0.3頭）で、平年に比べやや多かった。
  - ② 県南部における越冬箇所率は39%（平年22%）で、やや多かった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① ウメ・モモ（主に山間部周辺園）等では、収穫前の越冬成虫の多飛来に注意する。
  - ② カメムシ類の最新の発生状況は、県農林水産総合技術センターのホームページの技術情報の果樹カメムシ類発生予察を参照する。

## 第3号（6月予報、発表日：平成22年6月2日）

### 水 稲

#### 1. いもち病(苗いもち、葉いもち)

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 紀南早植え地域の常発地では気象条件に注意し、薬剤防除は早めに行う。
  - ② 紀中、紀北の普通期栽培地域では、キヌヒカリ、コシヒカリなどの罹病性品種を作付けする場合は、育苗箱処理剤を施用する。

#### 2. 紋枯病 紀南地域

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠



## 6. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による5月の誘殺数は4半旬現在、いずれの地域も0頭（いずれの地域も平年0.0頭、初飛来の平年：7月5半旬）である。

## 7. ニカメイチュウ

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による5月の誘殺数は4半旬現在、いずれの地域も0頭（平年紀の川市0.1頭、上富田町0.0頭、那智勝浦町0.0頭）である。
- ② フェロモントラップ（紀の川市）による5月の誘殺数は4半旬現在、0頭（平年0.4頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 前年に発生が認められたほ場では、田植え時に有効な成分を含む育苗箱処理剤を施用する。

## 8. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による5月の誘殺数は4半旬現在、上富田町で31頭（平年4.1頭）と平年に比べ多かったが、紀の川市は0頭（平年1.1頭）、那智勝浦町は16頭（平年27.5頭）と平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 有効な成分を含む育苗箱施薬を行っていないほ場で、田植え3～7日後に成虫による食害株率が30%あるいは50株あたり成虫数が12頭を越える場合（5%被害許容）は、直ちにシクロサルU粒剤2、トレボン粒剤などで防除する。

## 野 菜

### <ウリ類>

#### 1. モザイク病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培キュウリ、施設栽培キュウリおよびトンネル栽培スイカにおける発生ほ場率は5月3半旬現在、いずれも0%（平年0%）と平年並であった。
- ② 紀中地域の施設栽培キュウリおよびトンネル栽培スイカにおける発生ほ場率は5月3半旬現在、ともに0%（過去2年間の平均0%）であった。
- ③ アブラムシ類の発生はやや少と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① アブラムシ類の防除を徹底する。

## 2. べと病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀北地域の露地栽培キュウリにおける発生ほ場率は5月3半旬現在、0%（平成65%）と低く、施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は50%（平成59%）と平成並であった。
  - ② 紀中地域の施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は5月3半旬現在、46%（過去2年間の平均54%）であった。
  - ③ 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
  - ② 薬剤防除は予防散布を重点に、葉裏に十分かかるように行う。

## 3. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀北地域の露地栽培キュウリにおける発生ほ場率は5月3半旬現在、0%（平成57%）と低く、施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は33%（平成49%）とやや低かった。
  - ② 紀中地域の施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は5月3半旬現在、54%（過去2年間の平均61%）であった。
  - ③ 紀中地域のトンネル栽培スイカにおける発生ほ場率は5月3半旬現在、0%（過去2年間の平均0%）であった。
  - ④ 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 施設栽培やトンネル栽培では通風をよくし、薬剤防除は薬液が葉裏にも付着するようていねいに散布する。

## 4. 疫病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀北地域のトンネル栽培スイカにおける発生ほ場率は5月3半旬現在、0%（過去4年間の平均0%）であった。
  - ② 紀中地域のトンネル栽培スイカにおける発生ほ場率は5月3半旬現在、0%（過去2年間の平均0%）であった。
  - ③ 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 薬剤防除は予防散布を重点に、6月上旬ごろから定期的に行う。
  - ② ほ場の排水を良くし、マルチ、敷わらを行う。

## 5. つる枯病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀北地域のトンネル栽培スイカにおける発生ほ場率は5月3半旬現在、0%（平成0%）と平成並であった。
  - ② 紀中地域のトンネル栽培スイカにおける発生ほ場率は5月3半旬現在、0%（過去2年間の平均0%）であった。
  - ③ 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 梅雨期の降雨にともない株元から発病するので、薬剤散布は株元中心に行う。

## <野菜全般>

### 1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀中地域のトンネル栽培スイカでは5月3半旬現在、ワタアブラムシの発生ほ場率43%（平成57%）、1葉あたり寄生虫数0.2頭（平成0.2頭）と平成並であった。
  - ② 黄色水盤（紀の川市）への5月の飛来数は4半旬現在、64頭（平成347頭）と平成に比べやや少ない。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 同一系統の薬剤は連用しない。
  - ② 薬剤散布にあたっては葉裏に薬液が十分かかるように行う。

### 2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀中地域のトンネル栽培スイカでは5月3半旬現在、1葉あたり寄生雌成虫数はカンザワハダニ0.3頭（平成0.3頭）と平成並であったが、ナミハダニは0.0頭（平成0.5頭）と平成に比べやや少なかった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 同一系統の薬剤は連用しない。
  - ② 薬剤散布にあたっては葉裏に薬液が十分かかるように行う。

### 3. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀中地域のトンネル栽培スイカでは5月3半旬現在、発生ほ場率7%（平成57%）、1葉あたり寄生虫数0.0頭（平成0.4頭）と平成に比べやや少なかった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 発生の多い場合は4～5日間隔で、2回以上連続散布を行う。
  - ② ハウス栽培は収穫終了後に、蒸し込みを行なう。



## 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 近年、剪定枝の放置園や管理不良園等も多くなっており、枯れ枝量も多く菌密度は高いものと思われる。
  - ② カンキツの開花盛期は、ウンシュウミカン（「興津早生」）で5月15日となり平年より約7日遅かった。「清見」は5月18日となり約6日遅かった。今後の生育は平年並と予想される。
  - ③ 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 第1回防除（5月下旬）を実施していない園では早急（6月上旬）に薬剤散布を行う。第2回防除は6月下旬とするが、第1回防除からの累積降水量が250mm程度となった時点で散布する。薬剤はマンゼブ剤またはマンネブ剤とする。
  - ② 枯れ枝や剪定枝の処理を徹底する。

#### 2. かいよう病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① カンキツの開花盛期は、ウンシュウミカン（「興津早生」）で5月15日となり平年より約7日遅かった。「清見」は5月18日となり約6日遅かった。今後の生育は平年並と予想される。
  - ② 昨年の巡回調査では発病果率は低かったが、春葉および夏秋梢の発病園率は平年並であった。
  - ③ 県予察ほ場（無防除）における越冬病斑量は平年に比べ少なく、春葉における初発は5月25日（初発日の平年：5月22日）でほぼ平年並であった。
  - ④ 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 罹病性品種、常発園や春梢発病の認められる園では銅水和剤（炭酸カルシウム剤200倍加用）を散布する。
  - ② 罹病性品種や常発園では、罹病枝葉の剪除及び防風施設の整備に努める。
  - ③ 今後、強風雨があれば発病が多くなる可能性がある。

#### 3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県予察ほ場における5月中下旬の発生は、マシン油乳剤散布園においてみられず、無防除園では、雌成虫と若齢幼虫がわずかにみられた。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性対策としてマシン油乳剤の散布を励行する。マシン油乳剤の散布は発生初期に行なうと高い防除効果が得られる。

#### 4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生時期

第1世代1令幼虫最盛期 6月1半旬 (平年6月1半旬)

同 2令幼虫最盛期 6月4～5半旬(平年6月4～5半旬)

同 雌成虫初発日 6月5半旬 (平年6月5半旬)

発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 果樹試験場内の県予察ほ場(無防除)での第1世代1令幼虫の初発は5月20日(初発日の平年:5月16日)にみられ、ほぼ平年並であった。

② 昨年10月の巡回調査では、発生園率は12%(平年7.5%)、寄生果率は0.7%(平年0.5%)で、平年よりやや高く雌成虫の越冬量も平年に比べやや多いと考えられる。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多発園では、2令幼虫最盛期(県予察ほ場では6月4～5半旬)にマシン油乳剤や有機リン剤系の殺虫剤を散布する。

#### 5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場(無防除)における初発時期および発生量は平年並であった。

② 日高郡由良町の現地ほ場に設置した黄色粘着トラップにおける初発時期は平年並で誘殺数はやや少であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 地域での発生消長調査の結果により、適期防除に努める。

#### 6. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県予察ほ場(無防除)、各地域とも発生時期は平年並で、発生量はやや少～平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 各園地の発生の状況を把握し、適期防除に努める。

### <カ キ>

#### 1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 5月中旬の巡回調査では、被害葉率は「富有」で0%(平年0.2%)と平

年並であった。

② 昨年10月の巡回調査では、「富有」の発病葉率は39.9%（平年33.0%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をていねいに散布する。

## 2. 円星落葉病、角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報根拠

① 前年秋期の発生から、越冬密度は角斑落葉病、円星落葉病ともに平年並と考えられる。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 円星落葉病の子のう胞子飛散は、5月下旬～7月中旬の降雨後に多くみられるので、この時期に薬剤を定期的に予防散布する。

② 防除は有機銅水和剤、マンゼブ又はマンネブ水和剤とする。

## 3. カキクダアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 黄色粘着板による4月の誘殺数は1頭（平年6.8頭）と平年並であった。

② 5月中旬の巡回調査では、被害葉率は「富有」で0.3%（平年0.6%）、  
「刀根」・「平核無」で0%（平年0.2%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 防除適期は新成虫飛来期の6月上中旬と予想される。

## 4. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 5月中旬の巡回調査では、寄生花蕾率は「富有」で0.9%（平年1.0%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本種の防除には孵化幼虫の成育ステージがそろそろ6月上中旬の防除が重要である。多発園では散布量を多くして、ていねいに散布する。

## <モ モ>

### 1. せん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 5月中旬の巡回調査では、発病葉率は2.0%（平年2.2%）と平年並であった。

② 4月中旬～5月上旬における感染好適条件（最大風速10m/s以上、かつ降水量5mm以上）をみたす日数は1日（平年1.72日）で平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 降雨前の予防散布に努める。
- ② 防風ネット、防風樹などの耕種的防除を励行する。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 紀北地域：並 紀南地域(有田以南)：やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① チャバネアオカメムシ成虫の1か所あたりの越冬虫数は、県北部では0.2頭(平年0.2頭)で、平年並であった。県南部(有田以南)では0.9頭(平年0.3頭)で、平年に比べやや多かった。
  - ② 県南部における越冬箇所率は39%(平年22%)で、やや多かった。
  - ③ 5月上旬以降、県南部における果樹園への飛来および予察灯への誘殺数が、やや多くみられる。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 果樹園への飛来と被害に注意し、被害のみられる場合には、薬剤散布を速やかに行う。
  - ② 県南部におけるウメ・スモモなどの果実被害(主に山間部周辺)に注意が必要である。
  - ③ 平成22年度発生予察注意報第2号および県農林水産総合技術センターのホームページの果樹カメムシ情報を参照する。

## 第4号(7月予報、発表日：平成22年7月2日)

### 水 稲

#### 1. いもち病(葉いもち)

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月4半旬の紀南地域(田辺市以南)における発病株率は0%(平年0.8%)と平年並であった。
  - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 補植用苗は葉いもちの発生源となるので、早急に処分する。
  - ② 常発地及びビコシヒカリ、キヌヒカリ等の罹病性品種では発病しやすいので初発時期に注意し、発生が見られたら直ちに薬剤防除する。

#### 2. 紋枯病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月4半旬の紀南地域(田辺市以南)における発病株率は0%(平年0%)と平年並であった。
  - ② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 梅雨明け後の高温期から病勢が急激に進展するので、常発地や前年の多発ほ場では幼穂形成期～穂ばらみ期の防除を徹底する。

### 3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 紀南地域 並、紀北地域 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 6月4半旬の紀南地域（田辺市以南）における発病株率は0%（平年0%）と平年並であった。
- ② ヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市で15.3%（前年17.7%）、かつらぎ町で19.1%（前年11.3%）であった。地域の保毒虫率が10%を越えると発病株が多くなるとされている。
- ③ 前年8月の紀北地域の本田におけるイネ縞葉枯病発病株数は、25株あたり0.6株（平年0.04株）と平年に比べて多かった。
- ④ ヒメトビウンカの7月の発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカの防除を行う。

### 4. ニカメイガ(紀北地域)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月4半旬現在、紀の川市のフェロモントラップでは誘殺されていない（平年0.7頭）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 7月上旬の被害茎率が6.2%以下なら防除の必要はない。

### 5. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月4半旬の紀南地域での発生は、25株あたり0頭（平年0.3頭）と平年並であった。
- ② 予察灯による6月の誘殺数は4半旬現在、上富田町1頭（平年0.6頭）、那智勝浦町0頭（平年0.6頭）、紀の川市4頭（平年1.9頭）と平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① アドマイヤー箱粒剤等を育苗箱施用した6月田植えのほ場では、7月の防除は特に必要としない。

### 6. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月4半旬の紀南地域での発生は、25株あたり0.2頭（平年3.2頭）と平年に比べやや少なかった。

② 予察灯による6月の誘殺数は4半旬現在、上富田町2頭（平年0.3頭）、那智勝浦町16頭（平年10.6頭）、紀の川市0頭（平年11.7頭）と平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ヒメトビウンカに準ずる。

## 7. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 やや遅 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 6月4半旬の紀南地域での発生は、25株あたり46.3頭（平年10.7頭）と平年に比べやや多かった。

② 予察灯への初飛来は、上富田町では6月4半旬（平年5月6半旬）、那智勝浦町では6月3半旬（平年5月6半旬）、紀の川市では6月3半旬（平年6月1半旬）と平年に比べやや遅かった。

③ 予察灯による6月の誘殺数は4半旬現在、上富田町211頭（平年175頭）、那智勝浦町84頭（平年97.6頭）、紀の川市238頭（平年17.2頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ヒメトビウンカに準ずる。

## 8. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 6月4半旬の紀南地域では、発生を認めていない（平年0頭）。

② 予察灯による4月から6月4半旬までの誘殺数は、上富田町2頭（平年0頭）、那智勝浦町1頭（平年0.1頭）、紀の川市1頭（平年0.2頭）と平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ヒメトビウンカに準ずる。

## 9. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 6月4半旬の紀南地域では、発生を認めていない（平年25株あたり被害葉数0葉）。

② 6月4半旬現在、紀の川市の蛍光灯誘殺箱への誘殺数は0頭（平年0頭）である。フェロモントラップへの誘殺数も0頭（前年0頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼穂形成期前後の被害は収量に影響するので、今後の予察情報に注意する。

## 野 菜

### <ウリ類>

## 1. 疫病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀の川市の露地栽培スイカにおける発生ほ場率は6月4半旬現在、0%（平年0%）であった。
  - ② 日高地域の露地栽培スイカにおける発生ほ場率は6月4半旬現在、0%（前年0%）であった。
  - ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① ほ場の排水を良くし冠水や滞水を防ぐ。

## 2. べと病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀の川市のキュウリにおける発生ほ場率は6月4半旬現在、施設栽培で80%（平年47%）、露地栽培で100%（平年64%）と平年に比べやや高かった。
  - ② 日高地域の施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は6月3半旬現在、58%（前年67%）であった。
  - ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 施設栽培では換気を良くし、湿度低下を図る。
  - ② 露地栽培では排水を良くし、薬剤を予防散布する。

## 3. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀の川市のキュウリにおける発生ほ場率は6月4半旬現在、施設栽培で30%（平年39%）、露地栽培で14%（平年54%）とやや低かった。
  - ② 日高地域の施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は6月3半旬現在、58%（前年67%）であった。
  - ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、他系統の薬剤とのローテーション散布を行う。

## 4. つる枯病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀の川市の露地栽培スイカにおける発生ほ場率は6月4半旬現在、0%（平年0%）と平年並であった。
  - ② 日高地域の露地栽培スイカにおける発生ほ場率は6月4半旬現在、0%（過去5年間の平均0%）であった。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 降雨にともない株元から茎葉に病勢が進展するので、梅雨期の防除に重点を置く。

## <トマト、ナス、ピーマン、シシトウ>

### 1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀の川市の露地栽培ナスおよび露地栽培シシトウにおける発生ほ場率は6月4半旬現在、ともに0%（過去8年間の平均：ナス0%、シシトウ0%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 梅雨末期の多雨で急激に病勢が進展するため、降雨後は早急に防除する。

② ほ場の排水を良くし、多湿にならないようにする。

### 2. モザイク病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀の川市の露地栽培シシトウにおける発生ほ場率は6月4半旬現在、0%（過去8年間の平均5.2%）であった。

② 7月のアブラムシ類の発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① アブラムシ類の防除を徹底する。

## <野菜全般>

### 1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは6月4半旬現在、モモアカアブラムシの寄生葉率11%（平年5.8%）、ワタアブラムシ22%（平年4.7%）と平年に比べやや多かった。

② 紀中地域の露地栽培スイカでは6月4半旬現在、ワタアブラムシの発生は1葉あたり0.3頭（平年0.6頭）と平年並であった。

③ 黄色水盤（紀の川市）への6月の飛来数は4半旬現在、80頭（平年192頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ワタアブラムシ、モモアカアブラムシは、ともに薬剤感受性の低下がみられるので、同一薬剤の連用は避ける。

### 2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並



(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の施設栽培ナスでは6月4半旬現在、カンザワハダニの発生ほ場率22%（平年25%）、寄生葉率7.2%（平年6.5%）と平年並であった。ナミハダニの発生は認めていない（平年発生ほ場率5.7%、平年寄生葉率0.6%）。
- ② 紀北地域の露地栽培ナスでは6月4半旬現在、カンザワハダニの発生ほ場率40%（平年45%）、寄生葉率11%（平年15%）と平年並であった。ナミハダニの発生は認めていない（平年発生ほ場率10%、平年寄生葉率3.7%）。
- ③ 紀中地域の露地栽培スイカでは6月4半旬現在、カンザワハダニは1葉あたり0.6頭（平年0.3頭）、ナミハダニは1葉あたり0.2頭（平年0.1頭）と共に平年並の発生であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性対策として、同一薬剤の連用を避ける。

### 3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の施設栽培ナスでは6月4半旬現在、発生ほ場率44%（平年38%）、寄生葉率19%（平年15%）と平年並であった。
- ② 紀北地域の露地栽培ナスでは6月4半旬現在、発生ほ場率0%（平年39%）、寄生葉率0%（平年10%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生の多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。
- ② 施設栽培では、栽培終了後に7～10日間施設を密閉して死滅させ、後作の発生源にならないようにする。

### 4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の施設栽培ナスでは6月4半旬現在、発生ほ場率11%（平年23%）、寄生葉率1.1%（平年8.0%）と平年に比べやや少なかった。
- ② 紀北地域の露地栽培ナスでは6月4半旬現在、発生ほ場率10%（平年36%）、寄生葉率2.0%（平年11%）と平年に比べやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミナミキイロアザミウマの項に準ずる。

### 5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀中地域の露地栽培スイカでは6月4半旬現在、被害果率が3.0%（平年4.1%）と平年並であった。
- ② フェロモントラップの6月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市4頭（平年

11.4 頭)、御坊市 92 頭 ( 平 年 95.1 頭 ) である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 若齡幼虫を対象に初期防除に努める。
- ② 幼虫は作物の生長点付近の未展開葉の芯部に潜入するので、薬剤による防除効果が上がりにくい。初期は局部的に発生するので、管理作業時に見つけしだい捕殺する。
- ③ 施設栽培では、栽培終了後に 20 日程度施設を密閉して死滅させ、後作の発生源にならないようにする。

## 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 6 月の累積降水量(6 月 20 日まで)は 133mm ( 平 年 128.5mm ) と平年並であった。
- ② 県予察ほ場 ( 無防除 ) における初発は 5 月 31 日で平年よりやや早く、6 月中旬の発病果率は 14.4 % ( 平 年 37.4 % )、発病度は 2.3 ( 平 年 6.5 ) と、いずれも平年に比べ低かったが、防除区は発病果率 3.2 % ( 平 年 5.5 % )、発病度 0.5 ( 平 年 0.8 ) と、いずれも平年並であった。
- ③ 6 月中旬の巡回調査によると、発病果率は 7.8 % ( 平 年 4.0 % )、果実の発病園率は 39 % ( 平 年 28 % ) と、いずれも平年に比べ高く、各地域で広く発病がみられた。
- ④ 7 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 枯枝や剪定枝の処理を徹底する。
- ② 6 月中下旬に薬剤防除のできなかつた園では、7 月上旬に散布する。

#### 2. かいよう病

(1) 予報内容 果実発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場 ( 無防除 ) における 6 月中旬の春葉の発病葉率は 15.0 % ( 平 年 17.2 % ) と平年並であった。
- ② 6 月中旬の巡回調査によると、春葉の発病園率は 14 % ( 平 年 14 % ) と平年並で、主に日高地域の中晩柑で発病がみられた。
- ③ 7 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病園では、無機銅水和剤 ( 炭酸カルシウム剤 200 倍加用 ) を散布する。強風雨に遭う前の予防散布が重要である。無機銅水和剤は高温時の薬害発生に注意する。
- ② 春葉、夏梢の病斑は果実への伝染源になるので剪除する。

- ③ 防風ネット設置などの防風対策に努める。

### 3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県予察ほ場（無防除）における6月中旬の100葉あたり雌成虫数は4.4頭（平年6.4頭）と平年並であった。
  - ② 6月中旬の巡回調査によると、発生園率は38%（平年50%）と平年に比べやや少なく、100葉あたり雌成虫数は56頭（平年68頭）、寄生葉率は13.4%（平年15.5%）と平年並であったが、有田地域の一部で多発した園がみられた。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① ミカンハダニは高度の薬剤抵抗性系統が出現しやすいので、薬剤抵抗性対策としてマシン油乳剤の散布を励行する。ただし、高温強日射時の散布は葉害が発生しやすく、7月中旬以降の散布は光合成作用を低下させるおそれがあるので、散布は7月上旬までとする。

### 4. ヤノネカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 やや多  
発生時期 第2世代1令幼虫初発日 7月6半旬
- (2) 予報の根拠
  - ① 県予察ほ場（無防除）における第1世代1令幼虫の初発は5月4半旬と平年並であった。
  - ② 昨年10月の巡回調査では、発生園率は11.9%（平年7.5%）、寄生果率は0.7%（平年0.5%）と平年よりやや高く雌成虫の越冬量も平年に比べやや多いと考えられる。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 6月下旬に防除できなかった園では、7月上旬のうちに97%・98%マシン油乳剤の200倍やスプラサイド乳剤40の1,500～2,000倍で防除する。
  - ② 未成熟成虫がみられる場合はスプラサイド乳剤40を1,500倍で散布する。

### 5. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県予察ほ場（無防除）における6月中旬のトラップへの誘殺数は平年並で果実寄生は確認していない。
  - ② 巡回調査によると、各地域とも6月の発生量は少なかった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 地域での発生消長調査の結果により、適期防除に努める。

### 6. ゴマダラカミキリ

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場、各地域とも成虫の初発の発生時期および6月中旬の発生量は平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生園では成虫の捕殺に努めるとともに、スプラサイド乳剤40の1,000倍～2,000倍を散布する。さらに発生が多い園では7月中旬以降にモスピラン水溶剤200倍～400倍による株元散布を行う。

## <カ キ>

### 1. 炭そ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月の巡回調査では新梢の病斑は認められなかった。  
② 気象庁の予報によると、7月の降水量は平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 適切な肥培管理と園内の通風・日照の改善、発病枝の剪除などの耕種的防除を行う。  
② 薬剤は発育枝にも十分散布する。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月の巡回調査では、発病葉率は「富有」で1.2%（平年4.7%）と平年並、「平核無」・「刀根早生」で0%（平年0.7%）と平年並であった。  
② 気象庁の予報によると、7月の降水量は平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏にていねいに散布する。  
② 盛夏期には一時休止するが、好適な気象条件や園地条件によっては発病を繰り返すので、二次伝染の防止に努める。

### 3. 円星落葉病、角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年秋期の発生から、越冬密度は角斑落葉病、円星落葉病ともに平年並と考えられる。  
② 気象庁の予報によると、7月の降水量は平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢の低下が発病を助長するので、肥培管理に努める。  
② 円星落葉病の子のう胞子飛散は、7月中旬までの降雨後に多くみられるので、この時期に薬剤を定期的に予防散布する。

### 4. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 6月の巡回調査では、寄生果率は「富有」で2.8%（平年9.2%）、「平核無」・「刀根早生」で0.4%（平年1.4%）と平年よりやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本年のフジコナカイガラムシの発育の早晩は平年並と予想されるので、次回の防除適期は8月上・中旬になると予想される。

**<モ モ>**

**1. せん孔細菌病**

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月の巡回調査では、発病葉率2.1%（平年5.3%）、「清水白桃」の発病果率は4.0%（平年4.6%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防風ネット、防風垣などの耕種的防除を励行する。

**<果樹全般>**

**1. カメムシ類**

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① チャバネアオカメムシ成虫の1か所あたりの越冬虫数は、紀北地域では0.2頭（平年0.2頭）と平年並であった。紀南地域（有田以南）では0.9頭（平年0.3頭）と平年に比べやや多かった。
- ② 紀南地域における越冬箇所率は39%（平年22%）と、やや多かった。
- ③ 果樹園への飛来および予察灯への誘殺数は、紀南地域では5月上旬以降、紀北地域では6月上旬以降よりやや多くみられる。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹園への飛来と被害に注意し、被害のみられる場合には、薬剤散布を速やかに行う。
- ② 県南部におけるウメ・スモモなどの果実被害（主に山間部周辺）に注意が必要である。
- ③ 平成22年度発生予察注意報第2号および県農林水産総合技術センターのホームページの果樹カメムシ情報を参照する。

**第5号（8月予報、発表日：平成22年8月3日）**

**水 稲**

**1. いもち病**

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ② 7月中旬の紀南地域の早期水稲では、葉いもちの発病株率は7.2%（平

年 12.4 %) と平年並であった。

② 7月中旬の紀北・紀中地域の普通期水稻では、葉いもちの発病株率は 4.8 % (平年 5.2 %) と平年並であった。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 穂ばらみ期防除を重点とし、葉いもちの多発ほ場では穂ぞろい期の追加防除を行う。

② 常発地では次年度から罹病性品種の作付を避ける。

## 2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 7月中旬の紀南地域の早期水稻では、紋枯病の発病株率は 0 % (平年 4.0 %) と平年に比べやや少なかった。

② 7月中旬の紀北・紀中地域の普通期水稻では、紋枯病の発病株率は 0 % (平年 0.8 %) と平年並であった。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼穂期に発病株率 5 % 以上のほ場では、穂ばらみ期に薬剤散布を行う。

② 出穂後も上位葉への進展がみられる場合には追加散布を行う。

## 3. 白葉枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 7月中旬の調査では発生が認められなかった (平年発病株率 0 %)。

② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 低湿地の冠水しやすいほ場は発生に注意し、発病を認めたら早期に防除する。

## 4. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 7月中旬の縞葉枯病の発病株率は、紀南地域の早期水稻で 0 % (平年 0.03 %)、紀北・紀中地域の普通期水稻で 0 % (平年 0.03 %) と、共に平年並であった。

② ヒメトビウンカ (越冬世代) のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市で 15.3 % (前年 17.7 %)、かつらぎ町で 19.1 % (前年 11.3 %) であった。地域の保毒虫率が 10 % を越えると発病株が多くなるとされている。

③ 前年の本田における 25 株あたりイネ縞葉枯病発病株数は、7月の紀南地域で 0.3 株 (平年 0.0 株)、8月の紀北・紀中地域で 0.5 株 (平年 0.0 株) と平年に比べやや多かった。

④ ヒメトビウンカの8月の発生量はやや多いと予想される。

## 5. ニカメイガ 第2世代(紀北・紀中地域)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり被害茎数は、紀北地域0(平成0.0)、紀中地域0(平成0.0)であった。
- ② 4月から7月4半旬まで、フェロモントラップ(紀の川市)では誘殺されていない(平成0.5頭)。
- ③ 近年、発生が極めて少ない。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第1世代幼虫による心枯茎を認めたほ場では、第1世代成虫の予想発蛾最盛期(平成8月3半旬頃)から1週間後までの間に防除を行う。

## 6. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり発生密度は、紀南地域は15.5頭(平成5.4頭)、紀北・紀中地域は15.6頭(平成9.1頭)と平年に比べやや多かった。
- ② 予察灯による7月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市9頭(平成10.6頭)、上富田町0頭(平成1.0頭)、那智勝浦町3頭(平成1.1頭)である。

## 7. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 紀北・紀中地域：やや少 紀南地域：やや多

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり発生密度は、紀南地域は32.7頭(平成6.2頭)と平年に比べやや多かった。一方、紀北・紀中地域は0.2頭(平成8.7頭)とやや少なかった。
- ② 予察灯による7月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市0頭(平成4.6頭)、上富田町1頭(平成4.4頭)、那智勝浦町369頭(平成50.6頭)である。

## 8. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり発生密度は、紀南地域225頭(平成52.0頭)、紀北・紀中地域184頭(平成97.5頭)と平年に比べ多かった。
- ② 予察灯による6月から7月4半旬までの誘殺数は、紀の川市651頭(平成223頭)、上富田町644頭(平成356頭)、那智勝浦町543頭(平成333頭)と平年に比べ多い。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 平成22年度発生予察注意報第3号を参照する。

## 9. トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 7月中旬の25株あたり発生密度は、紀南地域0.5頭(平成0.2頭)、紀北・紀中地域1.3頭(平成0.4頭)であった。
  - ② 予察灯による6月から7月4半旬までの誘殺数は、紀の川市2頭(平成1.4頭)、上富田町3頭(平成0.6頭)、那智勝浦町4頭(平成1.6頭)である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 8月中旬の発生に注意し、株あたり成幼虫4～5頭の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。

#### 10. イチモンジセセリ(イネツトムシ)

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 7月中旬の25株あたりツトム数は、紀南地域0.3(平成0.1)、紀北・紀中地域0(平成0.1)と平成並であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 8月上旬の発生に注意し、若齢期の防除に重点を置く。

#### 11. コブノメイガ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 7月中旬の25株あたり上位2葉の被害は、紀南地域は51.3葉(平成4.1葉)と平成に比べ多かった。
  - ② 7月中旬の25株あたり上位2葉の被害は、紀北・紀中地域は3.3葉(平成2.2葉)と平成と比べてやや多い程度であるが、被害葉が目立つほ場が散見された。
  - ③ 紀の川市の予察灯で、6月20日に飛来を認めた。この頃から断続的に、成虫が水田に飛来したと思われる。
  - ④ 蛍光灯誘殺箱(紀の川市)による6月から7月4半旬までの誘殺数は、12頭(平成4.2頭)と平成に比べ多い。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 飛来時期から、第1世代の発蛾最盛期は7月5～6半旬頃と推定される。
  - ② 防除適期は、粒剤の場合は第1世代の発蛾最盛期、その他の薬剤(乳剤、水溶剤、フロアブル等)の場合は第2世代幼虫発生時期(第1世代の発蛾最盛期の7日後)である。
  - ③ 幼穂形成期後、出穂期頃までに上位2葉の被害葉率が40%になると10%程度減収する。それ以降の被害は被害葉率80%以上でも収量・品質に及ぼす影響は小さいので、紀南地域の早期水稻では防除の必要性は低い。
  - ④ 平成22年度病害虫防除技術情報第1号を参照する。

#### 12. 斑点米カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並



(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による7月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市79頭（平年81.2頭）、那智勝浦町46頭（平年31.8頭）と平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 出穂の早い作型で、周辺に雑草が繁茂していると被害を受けやすい。
- ② 雑草地のイネ科雑草が発生源となる。本田への成虫の飛来を防ぐためには、出穂10日前までにほ場周辺を除草する。
- ③ 出穂後、本田内でホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシなどの飛来を認めたら、乳熟期（出穂10日後）から糊熟期（出穂20日後）にスミチオン剤、MR.ジョーカーEWなどの薬剤を散布する。カスミカメムシ類の発生が多い場合は穂ぞろい期（出穂3日後）にも薬剤散布する（「防除指針」参照）。

## 野 菜

### 1. 疫病(トマト、キュウリ)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 日高地域の露地栽培ミニトマト、トマトにおける発生ほ場率は7月2半旬現在、0%（過去2年間の平均0%）であった。
- ② 日高地域の露地栽培キュウリにおける発生ほ場率は7月4半旬現在、0%（過去2年間の平均0%）であった。
- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 排水を良くし、株元に滞水しないようにする。

### 2. モザイク病(トマト、キュウリ)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 日高地域の露地栽培ミニトマト、トマトにおける発生ほ場率は7月2半旬現在、0%（過去2年間の平均0%）であった。
- ② 日高地域の露地栽培キュウリにおける発生ほ場率は7月4半旬現在、0%（過去2年間の平均0%）であった。
- ③ 8月のアブラムシ類の発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① アブラムシ類の防除を徹底する。

### 3. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月5半旬現在、モモアカアブラムシの発生ほ場率0%（平年3.7%）、寄生葉率0%（平年0.1%）、ワタアブラム

シの発生ほ場率 10 % ( 平年 3.9 % )、寄生葉率 0.5 % ( 平年 0.3 % ) と平年並であった。

② 7月の黄色水盤(紀の川市)への飛来数は、4半旬現在 27頭(平年 38.9頭)である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 同一薬剤の連用を避ける。

#### 4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月5半旬現在、ナミハダニは発生ほ場率 10 % ( 平年 11 % )、寄生葉率 6.0 % ( 平年 0.8 % )、カンザワハダニは発生ほ場率 50 % ( 平年 27 % )、寄生葉率 20.0 % ( 平年 6.0 % ) と、共に平年に比べやや多かった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性が発達している事例が多い。同一薬剤の連用を避け、タイプの異なる複数の殺ダニ剤を交互散布する。

#### 5. ミナキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月5半旬現在、発生ほ場率 30 % ( 平年 22 % )、発生葉率 7.0 % ( 平年 4.2 % ) と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ナスでは、選別時に被害果実を認めたら防除を始める。

② 施設では、栽培終了後7～10日間ハウスの蒸し込みを行い、その後残さを処理し、後作の発生源にならないようにする。

#### 6. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月5半旬現在、発生ほ場率 0 % ( 平年 12 % )、発生葉率 0 % ( 平年 2.7 % ) と平年に比べやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生の多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

② 施設では栽培終了後7～10日間ハウスの蒸し込みを行い、その後残さを処理し、後作の発生源にならないようにする。

#### 7. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月5半旬現在、発生ほ場率 10 % ( 平年 2.5 % )、発生葉率 1.0 % ( 平年 0.1 % ) とやや多かった。

- ② フェロモントラップによる7月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市23頭（平年63.0頭）、和歌山市98頭\*（平年2.9頭）、御坊市124頭（平年181頭）である。

※ 和歌山市の誘殺数は7月19日まで。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中・老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢幼虫期（網目状の被害葉がみられたとき）の防除を心がける。
- ② 抑制エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後40～50日間寒冷紗被覆を行うと被害が軽減される。

## 8. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップによる7月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市10頭（平年10.7頭）、御坊市146頭（平年96.0頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ハスモンヨトウに準ずる。

## 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における7月中旬の発病度は25.6（平年23.0）と平年並、防除区の発病度は0.5（平年1.1）と平年に比べ低かった。
- ② 7月中旬の巡回調査によると、各地域で広く発病がみられた。発病圃率は55%（平年54%）、発病度は2.2（平年2.5）と、いずれも平年並であった。
- ③ 7月の累積降水量（7月20日まで）は202.5mm（平年136mm）と平年に比べ多く、7月中旬に雨天が数日間続いたことによる防除遅れのため、病原菌の密度が産地全域で高いと思われる。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 後期感染防止のため、8月中下旬の防除を徹底する。
- ② 枯枝や剪定枝の除去を徹底する。

#### 2. かいよう病

(1) 予報内容 果実発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における7月中旬の発病果率は3.1%（平年9.4%）と平年に比べ低かった。
- ② 7月中旬の巡回調査によると、各地域の罹病性品種で広く発病がみられ

た。発病園率は 25 % ( 平年 26 % )、発病果率は 1.5 % ( 平年 1.5 % ) と、いずれも平年並であった。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 罹病性品種の場合、果実への感染が可能な期間は長く、付傷すると 10 月下旬まで発病する。台風等で強風雨が予想される場合には、事前に銅水和剤 ( 炭酸カルシウム剤 200 倍加用 ) を散布する。
- ② 夏秋梢の病斑は、翌春の主要な伝染源になるので剪除および薬剤防除に努める。幼木、高接樹ではミカンハモグリガの防除を徹底する。
- ③ 防風対策に努める。

### 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場 ( 無防除 ) における 7 月中旬の発生量は平年に比べ少なかった。
- ② 7 月中旬の巡回調査における発生園率は 30 % ( 前年 49 %、平年 39 % ) で平年に比べやや低かった。寄生葉率は 4.8 % ( 前年 7.9 %、平年 14.3 % ) で平年に比べ低く、100 葉あたり雌成虫数は 11 頭 ( 前年 17 頭、平年 76 頭 ) と平年に比べ少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤を年間に 2 回以上使用しないことが重要である。

### 4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生時期 第 2 世代 2 令幼虫最盛期 8 月 4 半月 ( 平年並 )  
発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場 ( 無防除 ) での第 1 世代成虫の初発時期は平年並であった。
- ② 県予察ほ場 ( 無防除 )、各地域での第 1 世代幼虫の発生量は平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生園では、8 月中旬に散布むらのないように葉裏まで十分量散布する。

### 5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場 ( 無防除 ) における 7 月中旬の発生量は平年並であった。
- ② 7 月中旬の巡回調査によると、発生園率は 17 % ( 前年 15 %、平年 16 % )

と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 寄生果率が 15 % 以上または 100 果あたり 15 頭以上に達すると防除する。
- ② 発生園およびイヌマキやサンゴジュの隣接園では防除を徹底する。

## 6. ゴマダラカミキリ

- (1) 予報内容 産卵量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県予察ほ場（無防除）、各地域における初発の時期はやや遅く、発生量は平年並であった。また、7月の成虫の発生量は平年並であった。
  - ② 発生源となる放任園や管理不良園が増加している。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 成虫の捕殺に努め、放任園周辺など発生の多い園では株元散布を行う。

## <カ キ>

### 1. 炭そ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 7月中旬の巡回調査では、「富有」の発病果率は0%（平年0.0%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 適切な肥培管理と園内の通風・日照の改善、発病枝の剪除などの耕種的防除を行う。
  - ② 薬剤は発育枝にも十分散布する。

### 2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 7月中旬の巡回調査では、「富有」の発病葉率は12.2%（平年15.4%）と平年並であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をねらってていねいに散布する。
  - ② 盛夏期には孢子形成を一時休止するが、8月下旬頃から秋雨前線が停滞すると感染が再開されるので、防除が必要である。

### 3. 円星落葉病、角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 7月中旬の巡回調査では、発病葉は認められなかった。
  - ② 前年秋期の発生から、越冬密度は角斑落葉病、円星落葉病ともに並と考えられる。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 樹勢が低下すると発病を助長させるので、肥培管理に努める。
  - ② 角斑落葉病は二次伝染を繰り返すので、多発園では発病後も防除を励行する。

#### 4. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 7月中旬の巡回調査では、「富有」の寄生果率は7.8%（平年8.1%）、「平核無」・「刀根早生」は1.6%（平年1.7%）と平年並であった。
- (3) 防除上注意すべき諸点
  - ① 8月上旬中旬が1齢幼虫の発生時期にあたり、防除適期である。
  - ② 薬剤が十分かかるよう、茎葉の混み合いをなくす。

### <果樹全般>

#### 1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 多
- (2) 予報の根拠
  - ① 予察灯における越冬成虫および新成虫の誘殺頭数は、紀南地域では5月上旬以降、紀北地域では6月上旬以降、多発した2006年や2008年に比べ多くなっている。チャバネアオカメムシやツヤアオカメムシが主体である。
  - ② カキの巡回調査における被害果は、7月中旬時点では、いずれの品種においてもみられなかった。
  - ③ ヒノキ花粉飛散数比（本年／前年）は0.16であり、カメムシの発生量に対して餌となる球果の量が不足気味となるため、7月下旬以降、果樹園に飛来して被害が増加すると考えられる。
- (3) 防除上注意すべき諸点
  - ① 今後山林隣接のカキ園を中心とした果樹園への飛来に注意し、飛来や被害のみられる場合には、速やかに薬剤散布を行う。
  - ② 台風の通過後に一時的に多くなることがあるので注意する。
  - ③ 平成22年度発生予察注意報第2号、第4号および県農林水産総合技術センターのホームページの果樹カメムシ情報を参照する。

第6号（9月予報、発表日：平成22年9月2日）

### 水 稲

#### 1. いもち病(穂いもち)

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 8月上旬の紀北地域における25株あたりの発病株数は、葉いもち2.4株（平年2.2株）、穂いもち0.0株（平年0.0株）と平年並であった。
  - ② 8月上旬の紀中地域における25株あたりの発病株数は、葉いもち0.1株（平年2.5株）、穂いもち0.0株（平年0.0株）とやや少なかった。
  - ③ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① いもち病に感受性の品種（キヌヒカリ等）の作付ほ場では今後の気象推移に注意する。薬剤散布を行う場合は使用基準を遵守すること。

## 2. 紋枯病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 8月上旬の紀北地域における25株あたりの発病株数は1.6株（平年1.9株）と平年並であった。
  - ② 8月上旬の紀中地域における25株あたりの発病株数は0.3株（平年2.4株）とやや少なかった。
  - ③ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 上位葉への進展がみられるほ場は、薬剤防除を行う。
  - ② 過繁茂ぎみのほ場では発生しやすいので、特に注意する。

## 3. 白葉枯病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 8月上旬の調査では発生が認められなかった（平年発病株率0%）。
  - ② 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 常発地や台風等で冠水したほ場では発生に注意し、発病を認めたら薬剤防除を行う。

## 4. トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 8月上旬の25株あたり生息密度は、紀北地域1.4頭（平年0.4頭）、紀中地域0.0頭（平年0.5頭）、紀南地域1.5頭（平年0.2頭）と平年並であった。
  - ② 予察灯への8月の飛来数は4半旬現在、紀の川市0頭（平年3.0頭）、上富田町1頭（平年0.7頭）、那智勝浦町150頭（平年1.5頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① ほ場内におけるトビイロウンカの分布はバラツキが大きいので、ほ場全体の発生状況を的確に把握する。
  - ② 成・幼虫が5頭以上生息している株を認めたら薬剤防除を実施する。使用基準を遵守すること。
  - ③ 本虫は株元に生息するので、薬剤が株元に十分到達するように散布する。

## 5. コブノメイガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

① 8月上旬の25株あたり被害葉数は、紀北地域13.6葉（平年1.4葉）、紀中地域3.7葉（平年4.7葉）であった。

② 蛍光灯誘殺箱（紀の川市）による8月の成虫誘殺数は8月3半旬現在、6頭（平年11頭）である。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 9月以降は被害葉率が高くても減収率は低い。また次世代幼虫の出現がないため、防除の必要はない。

## 6. イチモンジセセリ(イネツトムシ)

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

① 8月上旬の25株あたりツトム数は、紀北地域0.3（平年0.2）、紀中地域0.0（平年0.1）であった。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 8月下旬～9月上旬に蛹化し9月中旬以降に成虫となるため、防除の必要はない。

## 7. 斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシなど)

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

① 8月上旬の本田での発生は、すくい取り調査（捕虫網20回振り）によると、紀北地域は発生ほ場率50%（過去9年の平均30%）、平均成虫数2.0頭（同4.0頭）、紀中地域は発生ほ場率50%（同81%）、平均成虫数13.3頭（同7.6頭）と平年並であった。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 晩生品種（ヒノヒカリなど）の多発ほ場では、乳熟期～糊熟期にMR・ジョーカーEWなどで防除を行なう。使用基準を遵守すること（「防除指針」参照）。

## 野菜・花き

### <トマト、ミニトマト>

#### 1. 黄化葉巻病

（1）予報内容 発生量 やや少

（2）予報の根拠

① 紀北地域の家庭菜園を含む露地栽培トマトおよびミニトマトにおける発生ほ場率は8月1半旬現在、0%（過去4年間の平均発生ほ場率17%）と少なかった。

② 紀中地域の家庭菜園を含む露地栽培トマトおよびミニトマトにおける発生ほ場率は8月3半旬現在、11%（過去4年間の平均発生ほ場率32%）とやや少なかった。

（3）防除上考慮すべき諸点



- ① 本ウイルス病害の媒介虫であるタバココナジラミの徹底防除に努める。
- ② ハウス栽培では防虫ネット（目合い 0.4mm 以下）で開口部全てを被覆する。
- ③ 感染株は見つけしだい根元から抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋で密封して枯死させる。
- ④ 家庭菜園を含む露地栽培トマトについては、栽培終了後は速やかに全株を引き抜き、野積みにした上に古ビニルなどで2週間以上覆ってコナジラミ類を死滅させる。
- ⑤ 雑草はコナジラミの生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

## ＜野菜全般＞

### 1. アブラムシ類およびウイルス病（露地野菜全般）

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは8月5半旬現在、モモアカアブラムシの発生ほ場率 10%（平年 8.4%）、寄生葉率 0.5%（平年 0.7%）。ワタアブラムシの発生ほ場率 60%（平年 6.5%）、寄生葉率 6.5%（平年 0.9%）と平年に比べやや多かった。
  - ② アブラムシ類の黄色水盤（紀の川市）への8月の飛来数は4半旬現在、38頭（平年 54頭）と平年並である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① アブラムシ伝搬性のモザイク病には、アブラムシ類の防除対策としてシルバーマルチを行い、薬剤防除と併用する（「防除指針」参照）。
  - ② ハクサイ等の育苗では防虫ネットを被覆して有翅虫の飛来を防ぐ。

### 2. コナガ（ダイコン、キャベツ、ハクサイ）

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① フェロモントラップによる8月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市0頭（平年 0.4頭）、和歌山市0頭（平年 0.5頭）と平年並である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤の連用を避ける。

### 3. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは8月5半旬現在、カンザワハダニの発生ほ場率 40%（平年 30%）、寄生葉率 19%（平年 5.2%）、ナミハダニの発生ほ場率 0%（平年 15%）、寄生葉率 0%（平年 2.7%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤の連用を避ける。

#### 4. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは8月5半旬現在、発生ほ場率30%（平年45%）、寄生葉率15%（平年18%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また防虫ネットを被覆し、成虫の飛び込みを防ぐ（「防除指針」参照）。

#### 5. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは8月5半旬現在、発生が認められなかった（平年発生ほ場率12%、寄生葉率1.9%）。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

#### 6. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは8月5半旬現在、発生ほ場率20%（平年17%）、寄生葉率1.5%（平年1.3%）と平年並であった。
  - ② フェロモントラップによる8月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市41頭（平年167頭）、和歌山市267頭（平年25頭）、御坊市324頭（平年303頭）、印南町70頭（過去7年の平均83頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① ふ化幼虫の集団が分散するまでの若齢幼虫期に防除するよう心がける。
  - ② 薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤の連用を避ける。

#### 7. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① フェロモントラップによる8月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市8頭（平年16頭）、御坊市105頭（平年95頭）、印南町34頭（過去7年の平均108頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 中・老齢幼虫になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢幼虫対象の初期防除に努める。
  - ② 抑制エンドウでは、は種後40～50日間寒冷紗被覆を行うと被害が軽減される（「防除指針」参照）。

## <カンキツ>

### 1. 黒点病

(1) 予報内容 発病量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における8月中旬の果実発病度は46.3（平年35.6）と平年よりやや高く、慣行防除区は3.3（平年2.3）と平年並であった。
- ② 8月中旬の巡回調査によると、発病園率は50%（平年61%）、発病果率は8.4%（平年19.0%）、果実発病度は2.4（平年3.9）と、いずれも平年より低かった。
- ③ 近年、放任園の増加や剪定枝の放置等により病原菌の密度が産地全域で高いと思われる。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月中下旬に防除できなかった園では、9月上旬に早急に防除を行う。
- ② 枯枝除去や剪定枝の処理を徹底する。
- ③ 薬剤使用の収穫前日数などの基準を厳守する。

### 2. かいよう病

(1) 予報内容 果実発病量 やや多 発病園数 やや多  
夏秋梢発病量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 8月中旬の巡回調査によると、果実発病度は0.6（平年0.6）と平年並、春葉発病の発病園率は34%（平年25%）とやや高かった。また、各地域で広く発病がみられた。
- ② ネーブル、「川野なつだいだい」などの罹病性品種に加え、本病には感受性の低い温州ミカンや「不知火」でも、春葉及び夏秋梢の発病がみられた。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 罹病性品種の場合、果実への感染が可能な期間は長く、付傷すると10月下旬まで発病する。台風等で強風雨が予想される場合には、事前に銅水和剤（炭酸カルシウム剤200倍加用）を散布する。
- ② 夏秋梢の病斑は翌春の主な伝染源となるので、罹病箇所や不用な夏秋梢の剪除に努める。
- ③ 防風ネットや防風樹を設置し、強風雨への対策に努める。

### 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）および慣行防除区の8月中旬における発生は認められず、発生量は平年に比べ少なかった。
- ② 8月中旬の巡回調査によると、発生園率は55%（前年41%、平年53%）

で寄生葉率は14.4%（前年4.5%、平年12.0%）と平年並であった。100葉あたり雌成虫数は44頭（前年10頭、平年26頭）と平年に比べ多かった。地域別では海草、日高の順、品種別ではネーブル、「清見」の順に平年に比べ多い傾向であった。

③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤は年間に2回以上使用しない。
- ② ミカンサビダニの発生にも注意し、本虫にも登録のある有効薬剤を選択する。

#### 4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における発生は、平年並であった。
- ② 8月中旬の巡回調査によると、果実における被害園率は42%（前年49%、平年23%）と平年に比べ多かった。100果あたりの寄生虫数は0.4頭（前年0.2頭、平年0.4頭）と平年並であった。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月中旬以降に有効な殺虫剤を散布していない園および夏秋梢の多い園では、9月の発生に注意する。

### <カ キ>

#### 1. 炭そ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 8月中旬の巡回調査では、「富有」の発病果率は0.0%（平年0.1%）、「刀根早生」・「平核無」の発病果率は0.0%（平年0.0%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 台風による傷やカメムシの吸汁痕から感染するので、台風通過後は速やかに薬剤散布を行い、またカメムシ防除に努める。
- ② 薬剤は発育枝にも十分散布する。

#### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 8月中旬の巡回調査における「富有」の発病葉率は22.9%（平年26.4%）、「刀根早生」・「平核無」の発病葉率は3.4%（平年3.4%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をねらってていねいに散布する。

- ② 盛夏期には病勢は一時休止するが、秋期になり気温が低下すると再び活発になるので、二次伝染防止に努める。

### 3. 円星落葉病、角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 8月中旬の巡回調査では、「富有」における角斑落葉病の発病葉率は0.0%（平年0.0%）であった。円星落葉病の発生は認められなかった。
  - ② 昨年秋期の発生から、越冬密度は角斑落葉病、円星落葉病ともに並と考えられる。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 樹勢が低下すると発病を助長させるので、肥培管理に努める。
  - ② 角斑落葉病は二次伝染を繰り返すので、多発園では発病後も防除を励行する。

### 4. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 8月中旬の巡回調査における「富有」の寄生果率は10.1%（平年9.8%）、「刀根早生」・「平核無」の寄生果率は2.9%（平年1.7%）と平年並であった。
- (3) 防除上注意すべき諸点
  - ① 幼虫は主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるように散布する。
  - ② 薬剤が十分かかるように枝葉の混み合いをなくす。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 多
- (2) 予報の根拠
  - ① 7月から8月上中旬までの予察灯における果樹カメムシの誘殺数は、紀北地域、紀南地域ともに平年に比べ多かった。
  - ② 8月中旬の巡回調査における「富有」の被害果率は11.1%（平年3.3%）と多く、「刀根早生」・「平核無」の被害果率は0.4%（平年0.2%）と平年並であった。カンキツ園への飛来はみられなかった。
  - ③ ヒノキ花粉飛散数比（本年/前年）は0.16であり、本年の球果量は前年よりも少ないと思われる。
- (3) 防除上注意すべき諸点
  - ① 最新のカメムシ類発生状況は、県農林水産総合技術センターホームページの果樹カメムシ類情報を参照する。
  - ② カキ園では「刀根早生」・「平核無」の収穫中は、「富有」の防除がおろそかになるので注意する。
  - ③ 今後の果樹園への飛来に注意し、飛来や被害がみられる場合には、速や

かに薬剤散布を行う。

- ④ 台風の通過後に一時的に多くなることがあるので注意する。

## 第7号（10月予報、発表日：平成22年10月4日）

### 野菜・花き

#### <トマト、ミニトマト>

##### 1. 黄化葉巻病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀中地域の施設栽培ミニトマトにおける発生ほ場率は9月2半旬現在、0%（過去4年間の平均2.0%）であった。
  - ② 媒介虫タバココナジラミの発生量はやや多いと予想される。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 施設栽培では防虫ネット（目合い0.4mm以下）で開口部を被覆する。
  - ② タバココナジラミの初期徹底防除に努める。
  - ③ 感染株は見つけしだい根元から抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋で密封して枯死させる。
  - ④ 家庭菜園を含む露地栽培トマトについては、栽培終了後は速やかに全株を引き抜き、野積みにした上を古ビニルなどで覆って2週間以上密封し、タバココナジラミを死滅させる。
  - ⑤ 雑草はタバココナジラミの発生源となるため、ほ場周辺を含め除草を徹底する。

#### <エンドウ>

##### 1. 褐斑病、褐紋病

- (1) 予報内容 発生程度 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月4半旬現在、0%（過去4年間の平均0%）であった。
  - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 抑制栽培では、開花期ごろからの発生に注意する。
  - ② 多湿畑で発生しやすいので、排水に注意する。
  - ③ 種子伝染するので、多発ほ場では採種しない。

##### 2. つる枯細菌病

- (1) 予報内容 発生程度 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月4半旬現在、0%（過去4年間の平均0%）であった。
  - ② 10月の気象予報による。

### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が酷似するので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。
- ② 防風ネットの発病抑制効果は高い。
- ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

## 3. うどんこ病

### (1) 予報内容 発生程度 並

### (2) 予報の根拠

- ① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月4半旬現在、0%（過去4年間の平均0%）であった。
- ② 10月の気象予報による。

### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 乾燥すると莢形成期以降に発生しやすい。
- ② 発生初期より防除を行う。

## 4. シロイチモジヨトウ

### (1) 予報内容 発生量 やや多

### (2) 予報の根拠

- ① 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月4半旬現在、発生ほ場率56%（平年26%）、寄生株率9.4%（平年5.0%）と平年に比べやや高かった。
- ② フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市43頭（平年39頭）、御坊市90頭（平年72頭）と平年並である。

### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

## 5. オオタバコガ

### (1) 予報内容 発生量 並

### (2) 予報の根拠

- ① 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月4半旬現在、発生ほ場率6%（平年32%）、寄生株率0.6%（平年5.1%）と平年に比べやや少なかった。
- ② フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市11頭（平年5.7頭）、御坊市0頭（平年7.6頭）と平年並である。

### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 若齢幼虫期の防除を徹底する。中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下し、生長点付近の芯部や花・果実内に食入するので防除が困難になる。

## <ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

### 1. コナガ

#### (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市0頭（平年0.2頭）、和歌山市0頭（平年0.7頭）と平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 抵抗性の発達をできるだけ抑制するために、作用機構が異なる薬剤間でローテーション散布を行う。
- ② キャベツ、ハクサイでは、収穫後に作物残さを放置するとそこが発生源になり、周囲のほ場に成虫が分散して発生が多くなる。したがって、収穫後は速やかに残さをすき込む。

## <野菜・花き全般>

### 1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、モモアカアブラムシの発生ほ場率20%（平年19%）、寄生葉率1.5%（平年3.1%）と平年並であったが、ワタアブラムシは発生ほ場率70%（平年22%）、寄生葉率24%（平年2.8%）と平年に比べやや高かった。
- ② 9月の黄色水盤への飛来数は4半旬現在、紀の川市で26頭（平年110頭）と平年に比べやや少ない。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果が高い。
- ② イチゴなどハウス栽培では定植前後の防除を徹底する。

### 2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、カンザワハダニの発生ほ場率20%（平年23%）、寄生葉率8%（平年5.3%）と平年並であった。ナミハダニは発生が認められなかった（平年発生ほ場率18%、寄生葉率4.8%）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① キクに発生したナミハダニが移動するので、キクに近いほ場では特に発生に注意する。

### 3. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、発生ほ場率40%（平年36%）、寄生葉率5%（平年2.5%）と平年並であった。
- ② 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月4半旬現在、発生ほ場率44%（平年29%）、寄生株率5%（平年4.7%）と平年並であった。
- ③ フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市126頭



(平成 401 頭)、和歌山市 475 頭 (平成 99 頭)、御坊市 272 頭 (平成 646 頭)、印南町 190 頭 (過去 7 年の平均 166 頭) である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

#### 4. タバココナジラミ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは 9 月 5 半旬現在、タバココナジラミの発生ほ場率 80 % (平成 35 %)、寄生葉率 23 % (平成 9.4 %) と平年に比べやや高かった。

#### 5. オンシツコナジラミ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは 9 月 5 半旬現在、オンシツコナジラミの発生ほ場率 20 % (平成 42 %)、寄生葉率 1 % (平成 7.1 %) と平年に比べやや少なかった。

#### 6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは 9 月 5 半旬現在、発生ほ場率 40 % (平成 59 %)、寄生葉率 17 % (平成 29 %) と平成並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。防虫ネットを被覆して成虫の飛び込みを防ぐ(「防除指針」参照)。

#### 7. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは 9 月 5 半旬現在、発生が認められなかった(平成発生ほ場率 9 %、寄生葉率 1.5 %)。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

## 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 県予察ほ場における9月中旬の発生は、無防除園において平年並で、慣行防除園では認められなかった。
  - ② 9月中旬の巡回調査では、寄生葉率は9.0%（平年7.9%）と平年並、発生園率は48%（平年34%）と平年に比べやや多かった。
  - ③ 10月の気象予報によると、気温の高い確率が50%である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤を年間に複数回使用しない。
  - ② 秋期のダニ防除が遅れた園では、早急に薬剤散布を行う。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 紀北地域：やや多 紀南地域（有田以南）：並
- (2) 予報の根拠
  - ① カキの9月中旬の巡回調査における「富有」の被害果率は14.7%（平年6.5%）と平年より多かった。「刀根早生・平核無」の被害果率は0.6%（平年0.5%）と平年並であった。
  - ② 8～9月中旬までの予察灯における果樹カメムシ類（チャゴ初カメシ、ツヤカメシ、クサガカメシ）の誘殺数は、有田川町奥（果樹試験場）では平年並、紀の川市粉河（かき・もも研究所）では平年より多かった。
  - ③ ヒノキ花粉飛散数比（本年/前年）は0.16で、球果量は昨年よりも少なく、球果量が少ない年は秋期に果樹園への飛来が多い。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 園内外の果樹カメムシ類の発生と果実被害の状況を常に観察する。
  - ② 飛来のみられる園では、登録農薬を直ちに散布するが、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。
  - ③ 台風通過後一時的に増加する場合があるので、飛来に注意する。
  - ④ カメムシ類の発生状況は、県農林水産総合技術センターのホームページ内各種情報の果樹カメムシ情報（URL：<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/yosatu/kamemusi/kamemusi.htm>）を参照する。

第8号（11月予報、発表日：平成22年11月2日）

野菜・花き

## <エンドウ>

### 1. 褐斑病、褐紋病

- (1) 予報内容 発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 紀中地域の露地栽培における発生ほ場率は10月4半旬現在、0%（過去8年間の平均12%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 多湿畑で発生しやすいので、排水に注意する。
- ② ハウス栽培では、降雨が多い場合は早めにビニル被覆を行う。
- ③ 薬剤の予防散布に努める。
- ④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

## 2. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀中地域の露地栽培における発生ほ場率は10月4半旬現在、0%（過去9年間の平均10%）であった。
- ② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が酷似するので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。
- ② 防風ネットの発病抑制効果は高い。
- ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

## 3. うどんこ病

(1) 予報内容 発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀中地域の露地栽培における発生ほ場率は10月4半旬現在、0%（過去6年間の平均0.6%）であった。
- ② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ハウス栽培では乾燥すると低温期でも発生しやすい。
- ② 下位葉の表面に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

## 4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀中地域の露地栽培エンドウでは10月4半旬現在、カンザワハダニの発生ほ場率10%（平年10%）、ナミハダニ5%（平年10%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬液が葉裏に十分かかるように散布する。

## 5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 紀中地域の露地栽培エンドウでは10月4半旬現在、発生ほ場率47%（平

- 年 27%)、寄生株率 10.5% (平年 2.8%) と平年よりやや多かった。
- ② 10月のフェロモントラップ誘殺数は4半旬現在、紀の川市 22頭 (平年 13頭)、御坊市 32頭 (平年 36頭) である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 中齢～老齢幼虫は薬剤感受性が低いので、発生初期の若齢期に薬剤散布する。

## <ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

### 1. 黒斑細菌病(ハクサイ)

- (1) 予報内容 発生程度 並
- (2) 予報の根拠
- ① 紀北地域のハクサイにおける発生ほ場率は10月4半旬現在、0% (平年 0.6%) と平年並の発生であった。
- ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 常発地では降雨により多発するので予防散布を行う。

### 2. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
- ① 紀北地域のキャベツでは10月5半旬現在、モモアカアブラムシの発生ほ場率 55% (平年 18%)、寄生株率 3.2% (平年 3.4%)、ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率 82% (平年 27%)、寄生株率 16.4% (平年 4.5%) と平年に比べやや多かった。
- ② 10月の黄色水盤への飛来数は4半旬現在、32頭 (平年 79頭) である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 薬液が株元の葉裏にかかるようにていねいに散布する。

### 3. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 紀北地域のキャベツでは10月5半旬現在、発生ほ場率は9% (平年 8%) と平年並であった。
- ② 10月のフェロモントラップ誘殺数は4半旬現在、紀の川市 0頭 (平年 0.9頭)、和歌山市 1頭 (平年 4.9頭) である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、系統の異なる薬剤でローテーション散布を行う。

### 4. ヨトウガ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
- ① 紀北地域のキャベツでは10月5半旬現在、発生ほ場率 46% (平年 8%)、

寄生株率 5.9 % ( 平年 1.1 % ) と平年よりやや多かった。

② 10月のフェロモントラップ誘殺数は4半旬現在、紀の川市4頭(過去9年の平均4.2頭)である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生初期の若齢期の防除に努める。

## <野菜・花き全般>

### 1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウでは10月4半旬現在、発生ほ場率32%(平年45%)、寄生株率4.7%(平年6.9%)と平年並であった。

② 紀北地域の露地栽培キャベツでは10月5半旬現在、発生ほ場率46%(平年45%)、寄生株率4.5%(平年10.9%)と平年並であった。

③ 10月のフェロモントラップ誘殺数は4半旬現在、紀の川市86頭(平年1,142頭)、和歌山市450頭(平年208頭)、御坊市1,491頭(平年2,155頭)である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 中齢～老齢幼虫は薬剤感受性が低いので、発生初期の若齢期に薬剤散布する。

### 2. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウでは10月4半旬現在、発生ほ場率58%(平年43%)、寄生株率8.9%(平年6.9%)と平年並であった。

② 10月のフェロモントラップ誘殺数は4半旬現在、紀の川市18頭(平年13頭)、御坊市3頭(平年103頭)である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 中齢～老齢幼虫は薬剤感受性が低いので、発生初期の若齢期に薬剤散布する。

## 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 果実腐敗病(緑かび病、青かび病)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 10月中旬の巡回調査によると、樹上果実の緑かび病の発病園率は20%(平年19%)と平年並であった。

② 一部で裂果、ヤガ類、ヒヨドリによる被害果がみられるため、腐敗果の発生が助長されるおそれがある。

③ 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに摘果する。
- ② 果実はいねいに取り扱い、果面に傷をつけない。
- ③ 収穫前散布を励行する。薬剤はトップジンM水和剤 2,000 倍、ベンレート水和剤 4,000 倍、ベフラン液剤 25 2,000 倍のいずれかを散布する。トップジンM水和剤、ベンレート水和剤は効果を高めるためにも収穫 7 日以上前の散布が望ましい。
- ④ 収穫前の薬剤散布は使用基準に留意する。

## 2. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 10月中旬の巡回調査によると、発生園率は 23 % ( 平年 26 % ) と平年並で、寄生葉率は 3.2 % ( 平年 6.3 % ) と平年に比べ低かった。
- ② 近畿地方の 1 か月予報によると 11月の気温が平年に比べ高い確率が 50 % である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 収穫前の散布は使用基準に留意する。

## 3. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 10月中旬の巡回調査によると、カメムシ類の発生園はみられなかった。
- ② 予察灯の誘殺数は、有田川町 ( 果樹試験場 ) では 9月中旬、紀の川市 ( かきもも研究所 ) では 10月上旬、みなべ町 ( うめ研究所 ) では 10月中旬を境に減少している。
- ③ 近畿地方の 1 か月予報によると 11月の気温が平年に比べ高い確率が 50 % である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 園内外の果樹カメムシ類の発生と果実被害の状況を常に観察する。
- ② 飛来がみられる園では直ちに登録農薬を散布するが、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

#### 4. 病害虫の診断・同定の件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
水稲	病害	1	4	3	3	8	5	0	0
	虫害	0	0	3	1	2	4	1	0
野菜	病害	3	12	21	18	10	10	16	7
	虫害	2	0	0	2	2	3	3	0
花き	病害	2	3	2	11	1	6	7	3
	虫害	0	0	1	1	1	1	0	0
常緑果樹	病害	7	10	12	10	9	7	5	4
	虫害	9	9	11	11	10	6	8	3
落葉果樹	病害	9	17	22	6	7	3	4	2
	虫害	3	3	8	9	3	1	0	2
		12月	1月	2月	3月	合計	備考		
水稲	病害	0	0	0	0	24			
	虫害	0	0	0	0	11			
野菜	病害	4	6	7	9	123			
	虫害	2	1	0	1	16			
花き	病害	1	2	2	1	41			
	虫害	0	0	0	0	4			
常緑果樹	病害	4	1	1	6	76			
	虫害	2	2	2	7	80			
落葉果樹	病害	4	6	5	0	85			
	虫害	3	2	1	0	35			

## VI. 病害虫の発生経過の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
早期水稲	葉いもち	4～7月	やや少	7月中旬の平均発病株率は7.2% (平年12.4%)とやや少ない発生であった。	6、7月の降水量および降雨日数はやや少なかった。
早期水稲	穂いもち	7～8月	やや少	8月中旬の25株あたりの平均発生穂数は0.0(平年3.1)とやや少ない発生であった。	出穂後の降水量および降雨日数はやや少なかった。
早期水稲	紋枯病	5～8月	やや少	8月中旬の平均発病株率は2.0% (平年8.4%)とやや少ない発生であった。	7、8月の降水量および降雨日数はやや少なかった。
早期水稲	イネミズゾウムシ	5～8月	並	6月中旬の25株あたり平均被害株数は4.8株(平年4.4株)と平年並の発生であった。	
早期水稲	ツマグロヨコバイ	5～8月	やや多	7月中旬の25株あたり平均虫数は32.7頭(平年6.2頭)とやや多い発生であった。	
早期水稲	ヒメビウンカ	5～8月	並	7月中旬の25株あたり平均虫数は15.5頭(平年5.4頭)と平年並の発生であった。	
早期水稲	セジロウンカ	6～8月	多	7月中旬の25株あたり平均虫数は225.0頭(平年52.0頭)と多い発生であった。	
早期水稲	トビイロウンカ	6～8月	やや多	8月上旬の25株あたり平均虫数は1.5頭(平年0.5頭)と平年に比べやや多い発生であった。	
早期水稲	コブノメイガ	6～8月	多	7月中旬の25株あたり平均被害葉数は51.3葉(平年4.1葉)と多い発生であった。	
早期水稲	斑点米カメムシ類	7～8月	並	本田での発生は平年並であった。	
普通期水稲	葉いもち	5～8月	並	8月上旬の平均発病株率は6.8% (平年9.2%)と平年並の発生であった。	6月の降水量および降雨日数はやや少なかった。
普通期水稲	穂いもち	8～9月	並	9月上旬の25株あたりの平均発生穂数は2.9(平年2.1)と平年並の発生であった。	出穂後の降水量および降雨日数はやや少なかった。
普通期水稲	紋枯病	6～9月	やや多	9月上旬の発病株率は24.4%(平年10.8%)とやや多い発生であった。	
普通期水稲	縞葉枯病	5～8月	並	8月上旬の25株あたりの平均発生株数は0.1(平年0.1)と平年並の発生であった。	近年、ヒメビウンカの越冬世代におけるイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が高く推移している。
普通期水稲	イネミズゾウムシ	6～9月	並	7月中旬の25株あたり平均被害株数は0.4株(平年0.5株)と平年並の発生であった。	
普通期水稲	ニカメイガ	6～10月	並	発生は認められなかった。	近年、少発生傾向が続いている。
普通期水稲	ツマグロヨコバイ	6～10月	やや少	9月上旬の25株あたり平均虫数は4.9頭(平年17.8頭)とやや少ない発生であった。	
普通期水稲	ヒメビウンカ	6～10月	並	8月上旬の25株あたり平均虫数は18.0頭(平年12.4頭)と平年並の発生であった。	
普通期水稲	セジロウンカ	6～10月	多	8月上旬の25株あたり平均虫数は109.1頭(平年39.6頭)と多い発生であった。	



農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
普通期水稻	トビイロウンカ	6～10月	並	9月上旬の25株あたり平均虫数は1.0頭(平年6.6頭)と平年並の発生であった。	
普通期水稻	コブノメイガ	6～10月	多	9月上旬の25株あたり平均被害葉数は82.2葉(平年7.5葉)と多い発生であった。	
普通期水稻	斑点米カメムシ類	8～10月	並	本田での発生は平年並であった。	
麦	うどんこ病	3～5月	並	発生は認められなかった。	
麦	赤かび病	3～5月	並	発生は認められなかった。	
バレイシヨ	アブラムシ類	4～6月	並	平年並の発生であった。	
バレイシヨ	ニジュウヤホシテントウ	5～8月	並	平年並の発生であった。	
かんしょ	ハスモンヨウ	7～10月	並	10月のフェロモントラップ誘殺数も平年並であった。	
大豆	アブラムシ類	6～10月	並	平年並の発生であった。	
大豆	コガネムシ類	7～9月	並	平年並の発生であった。	
大豆	ハスモンヨウ	8～11月	並	10月のフェロモントラップ誘殺数は平年並であった。	
大豆	カメムシ類	7～11月	並	平年並の発生であった。	
トマト(冬春)	疫病	11～6月	並	平年並の発生であった。	
トマト(冬春)	灰色かび病	12～6月	並	平年並の発生であった。	
トマト(冬春)	アブラムシ類	12～6月	並	平年並の発生であった。	
トマト(冬春)	ハスモンヨウ	9～11月	並	10月のフェロモントラップ誘殺数も平年並であった。	
トマト(夏秋)	疫病	7～11月	並	平年並の発生であった。	
トマト(夏秋)	灰色かび病	9～11月	並	平年並の発生であった。	
トマト(夏秋)	モザイク病	6～11月	並	平年並の発生であった。	
トマト(夏秋)	アブラムシ類	7～11月	並	平年並の発生であった。	
トマト(夏秋)	ハスモンヨウ	8～11月	並	平年並の発生であった。	
ナス(冬春)	うどんこ病	12～6月	並	平年並の発生であった。	
ナス(冬春)	灰色かび病	12～6月	並	平年並の発生であった。	
ナス(冬春)	アブラムシ類	10～6月	並	平年並の発生であった。	
ナス(冬春)	ハダニ類	10～6月	並	平年並の発生であった。	
ナス(冬春)	ハスモンヨウ	10～11月	並	10月のフェロモントラップ誘殺数も平年並であった。	
ナス(冬春)	ミナミキイロアザミウマ	10～6月	並	平年並の発生であった。	
ナス(夏秋)	うどんこ病	7～11月	並	平年並の発生であった。	
ナス(夏秋)	アブラムシ類	5～11月	やや多	紀北地域での8月のモモアカアブラムシの寄生率0.5%(平年0.7%)、ワタアブラムシ寄生率6.5%(同0.9%)であった。	アザミウマ類防除による併殺効果
ナス(夏秋)	ニジュウヤホシテントウ	5～11月	並	平年並の発生であった。	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ナス(夏秋)	ハダニ類	5～11月	並	紀北地域での6月のナミハダニの寄生葉率0.0%(平成3.7%)、カンザワハダニの寄生葉率10.5%(同14.5%)と平成並の発生であった。	
ナス(夏秋)	ハスモンヨトウ	5～11月	並	紀北地域での8月の寄生葉率1.5%(平成1.3%)、9月の寄生葉率5.0%(同2.5%)と平成並の発生であった。	
ナス(夏秋)	ミナキイロアザミマ	5～11月	並	紀北地域での7月の寄生葉率7.0%(平成4.2%)、8月の寄生葉率14.5%(同17.5%)と平成並の発生であった。	
ピーマン(冬春)	アブラムシ類	10～6月	並	平成並の発生であった。	
ピーマン(冬春)	ハスモンヨトウ	10～11月	並	平成並の発生であった。	
ピーマン(夏秋)	うどんこ病	6～9月	並	平成並の発生であった。	
ピーマン(夏秋)	アブラムシ類	4～11月	並	平成並の発生であった。	
ピーマン(夏秋)	ハスモンヨトウ	8～11月	並	10月のフェロモントラップ誘殺数も平成並であった。	
ピーマン(夏秋)	ミナキイロアザミマ	4～11月	並	平成並の発生であった。	
キュウリ(冬春)	べと病	12～6月	並	平成並の発生であった。	
キュウリ(冬春)	うどんこ病	10～6月	並	平成並の発生であった。	
キュウリ(冬春)	灰色かび病	10～6月	並	平成並の発生であった。	
キュウリ(冬春)	アブラムシ類	10～6月	並	平成並の発生であった。	
キュウリ(冬春)	タネバエ	9～10月	並	平成並の発生であった。	
キュウリ(夏秋)	べと病	7～10月	やや多	やや多い発生であった。	
キュウリ(夏秋)	うどんこ病	7～10月	やや少	やや少ない発生であった。	
キュウリ(夏秋)	灰色かび病	7～10月	並	平成並の発生であった。	
キュウリ(夏秋)	アブラムシ類	7～11月	並	平成並の発生であった。	
スイカ	アブラムシ類	3～8月	並	紀中地域での1葉あたり寄生密度は5月0.17頭(平成0.2頭)、6月0.25頭(平成0.6頭)であった。	
スイカ	ハダニ類	3～8月	並	紀中地域での1葉あたり寄生密度は、5月はカンザワハダニ0.3頭(平成0.3頭)、ナミハダニ0.01頭(同0.5頭)、6月はカンザワハダニ0.63頭(同0.3頭)、ナミハダニ0.15頭(同0.1頭)であった。	
スイカ	ウリハムシ	5～8月	並	平成並の発生であった。	
だいこん(春)	アブラムシ類	4～6月	並	平成並の発生であった。	
だいこん(春)	アブラムシ類	4～6月	並	平成並の発生であった。	
だいこん(春)	キスジノミハムシ	4～6月	並	平成並の発生であった。	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
だいこん(秋冬)	アブラムシ類	9～3月	並	平年並の発生であった。	
だいこん(秋冬)	キスジ/ミハムシ	9～3月	並	平年並の発生であった。	
だいこん(秋冬)	ハスモンヨトウ	9～11月	並	10月のフェロモントラップ誘殺数も平年並であった。	
ハクサイ(春)	アブラムシ類	4～6月	並	平年並の発生であった。	
ハクサイ(春)	ヨトウガ	4～6月	並	平年並の発生であった。	
ハクサイ(春)	コナガ	4～6月	並	平年並の発生であった。	
ハクサイ(秋冬)	軟腐病	9～11月	並	平年並の発生であった。	
ハクサイ(秋冬)	白斑病	9～12月	並	平年並の発生であった。	
ハクサイ(秋冬)	べと病	10～3月	並	平年並の発生であった。	
ハクサイ(秋冬)	根こぶ病	10～3月	並	平年並の発生であった。	
ハクサイ(秋冬)	黒斑病	10～3月	並	平年並の発生であった。	
ハクサイ(秋冬)	モザイク病	9～3月	並	平年並の発生であった。	
ハクサイ(秋冬)	アブラムシ類	9～3月	やや多	やや多い発生であった。	
ハクサイ(秋冬)	ヨトウガ	9～3月	並	平年並の発生であった。	
ハクサイ(秋冬)	ハスモンヨトウ	9～11月	並	10月のフェロモントラップ誘殺数も平年並であった。	
ハクサイ(秋冬)	コナガ	9～3月	並	平年並の発生であった。	
キャベツ(春)	黒腐病	4～6月	並	平年並の発生であった。	
キャベツ(春)	菌核病	4～6月	並	平年並の発生であった。	
キャベツ(春)	アブラムシ類	3～6月	並	平年並の発生であった。	
キャベツ(春)	モンシロチョウ	3～6月	並	平年並の発生であった。	
キャベツ(春)	コナガ	12～6月	並	平年並の発生であった。	
キャベツ(春)	ヨトウガ	4～6月	並	平年並の発生であった。	
キャベツ(冬)	黒腐病	11～3月	並	平年並の発生であった。	
キャベツ(冬)	菌核病	11～3月	並	平年並の発生であった。	
キャベツ(冬)	アブラムシ類	11～3月	やや多	紀北地域での10月の発生株率はモモアカアブラムシ3.2%(平年3.4%)、ニセダイコンアブラムシ16.4%(同4.5%)とやや多い発生であった。	
キャベツ(冬)	コナガ	11～3月	並	平年並の発生であった。	
キャベツ(冬)	ヨトウガ	11～3月	やや多	紀北地域での10月の発生圃場率は46.0%(平年8.0%)と平年並の発生であった。	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
キャベツ(冬)	ハスモンヨトウ	9~11月	並	紀北地域では10月の発生圃場率46.0%(平年45%)、発生株率4.5%(同10.9%)と平年並の発生であった。	
タマネギ	べと病	1~5月	並	紀北地域では、3月中旬に発病がみられ、平年に比べ、ほ場率がやや高かった。	
タマネギ	白色疫病	2~4月	並	平年並の発生であった。	
タマネギ	さび病	4~5月	並	平年並の発生であった。	
タマネギ	アブラムシ類	3~6月	並	平年並の発生であった。	
タマネギ	ネギアザミウマ	3~6月	並	平年並の発生であった。	
ネギ(夏)	アブラムシ類	7~9月	並	平年並の発生であった。	
ネギ(夏)	ネギハモグリバエ	7~9月	並	平年並の発生であった。	
ネギ(夏)	ネギアザミウマ	7~9月	並	平年並の発生であった。	
ネギ(夏)	ネギコガ	7~9月	並	平年並の発生であった。	
ネギ(秋冬)	アブラムシ類	10~3月	並	平年並の発生であった。	
ネギ(秋冬)	ネギハモグリバエ	10~3月	並	平年並の発生であった。	
ネギ(秋冬)	ネギアザミウマ	10~3月	並	平年並の発生であった。	
ネギ(秋冬)	ネギコガ	10~3月	並	平年並の発生であった。	
ニンジン(春夏)	アブラムシ類	4~7月	並	平年並の発生であった。	
ニンジン(春夏)	ヨトウガ	4~7月	並	平年並の発生であった。	
ニンジン(冬)	ヨトウガ	11~3月	並	平年並の発生であった。	
ニンジン(冬)	ネキリムシ類	11~3月	並	平年並の発生であった。	
レタス(冬)	灰色かび病	10~3月	並	平年並の発生であった。	
レタス(冬)	菌核病	10~3月	並	平年並の発生であった。	
レタス(冬)	萎黄病	11~3月	並	平年並の発生であった。	
レタス(冬)	アブラムシ類	11~3月	並	平年並の発生であった。	
レタス(冬)	ネキリムシ類	11~3月	並	平年並の発生であった。	
レタス(冬)	ハスモンヨトウ	11~3月	並	平年並の発生であった。	
さといも	アブラムシ類	6~11月	並	平年並の発生であった。	
さといも	ハダニ類	6~11月	並	平年並の発生であった。	
さといも	ハスモンヨトウ	6~11月	並	10月のフェロモントラップ誘殺数も平年並であった。	
ほうれんそう	アブラムシ類	7~9月	並	平年並の発生であった。	
ほうれんそう	ヨトウガ	7~9月	並	平年並の発生であった。	
イチゴ	灰色かび病	10~6月	並	平年並の発生であった。	
イチゴ	うどんこ病	10~6月	並	平年並の発生であった。	
イチゴ	アブラムシ類	9~6月	並	平年並の発生であった。	
イチゴ	ハダニ類	9~6月	並	平年並の発生であった。	
イチゴ	ハスモンヨトウ	9~11月	並	10月のフェロモントラップ誘殺数も平年並であった。	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
エンドウ(春)	ナモグリバエ	11～5月	並	平年並の発生であった。	
エンドウ(秋冬)	ウラナミシジミ	10～12月	並	平年並の発生であった。	
エンドウ(秋冬)	ナモグリバエ	9～12月	並	平年並の発生であった。	
エンドウ(秋冬)	シロイチモジヨトウ	8～10月	やや多	紀中地域では、10月の発生圃場率47%(平年27%)、寄生株率10.5%(同2.8%)であった。	
エンドウ(秋冬)	ハスモンヨトウ	9～12月	並	10月のフェロモントラップ誘殺数も平年並であった。	
エンドウ(秋冬)	オオタバコガ	9～12月	並	平年並の発生であった。	
きく	アブラムシ類	7～11月	並	平年並の発生であった。	
カンキツ	そうか病	4～8月	少	予察園の越冬病斑量及び春葉の発病は平年並。巡回調査では、常発園や一部の防除不徹底園で発病がみられたが、一般防除園ではみられなかった。	発芽・展葉期から開花期にかけての降雨量は平年に比べやや多かったが、薬剤防除が徹底された。
カンキツ	黒点病	6～9月	やや少	予察園における初発は5月31日で平年よりやや早かった。巡回調査によると、初期発病により6月の発病はやや多かったが、その後9月中旬までの発病は平年より少なかった。	近年、放置された枯れ枝が多いため伝染源密度が高い。5～6月の降雨量は平年よりやや多かったが、7月から9月にかけての降雨量は、集中的な降雨があった以外は非常に少なかった。
カンキツ	かいよう病	5～10月	やや多	予察園の越冬病斑量は平年より少なく、春葉の初発は5月25日で平年並。その後は、春葉及び果実の発病が平年よりやや多く推移。巡回調査によると、罹病性品種に加え、罹病性の低いウンシュウミカンやシラヌイでも発病がみられた。	台風接近はなく発病期間を通じ強風の影響は少なかったが、集中的な降雨がみられた。平成21年10月7日の台風18号接近による影響で越冬した菌量が多かった可能性がある。
カンキツ	灰色かび病	5～6月	少	県内全域の一般防除園において、発病園率、発病果率はともに平年より少なかった。	気象条件と防除の徹底による。
カンキツ	褐色腐敗病	9～11月	少	県内全域の一般防除園において、発病は極めて少なかった。	発病期間を通じ、台風や強風雨の影響が少なかった。
カンキツ	貯蔵病害	10～3月	並	10月中旬の巡回調査において緑かび病(樹上腐敗)の発病園率は平年並。	気象条件と防除の徹底による。
カンキツ	ヤノネカイガラムシ	5～11月	並	発生時期は、第一世代幼虫の初発がほぼ平年並、その後も平年並。局部的に多発した園もみられたが発生量は平年並。	第二世代幼虫発生期に降雨量が少なかったため多発した園もあったが、多くの園では適期の薬剤防除が徹底された。
カンキツ	ミカンハダニ	5～11月	並	越冬成虫は平年並、春から初夏にかけてやや多発し、夏場は平年並に経過したが、秋にやや増加。	6月および梅雨明けから秋にかけての降雨量が少なく気温等の気象条件による。
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	5～10月	やや多	6月から9月にかけて、主に毎月下旬頃、増加傾向を示した。被害程度は軽いが果梗部、果頂部ともに夏から秋にかけての被害果がやや多くみられた。	6月および梅雨明けから秋にかけての降雨量が少なく気温等の気象条件による。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
カンキツ	ロウムシ類	6～8月	やや少	6月から9月にかけて、主に毎月下旬頃、増加傾向を示した。被害程度は軽いが果梗部、果頂部ともに夏から秋にかけての被害果がやや多くみられた。	県内の越冬密度が低く、一般防除園における発生は認められなかった。
カンキツ	ゴマダラカミキリ	5～9月	並	発生時期、発生量ともに年間を通して平年並。	気象条件と防除状況による。
カンキツ	アブラムシ類	5～7月	やや少	春先からユキヤナギアブラムシ、ワタアブラムシの発生がやや少なく、後半の発生も平年並で経過。	越冬密度は低かった。裏年で新梢発生量が多かったが、気温等の気象条件による。
カンキツ	カメムシ類	5～11月	並	山林での越冬成虫はやや多かったが、新成虫の発生は平年並であった。10月に山林隣接園を中心とした園で果実寄生がみられた。	スギ・ヒノキのきゅう果量が前年に比べて少なく、新成虫発達の妨げになったと考えられる。
カンキツ	ミカンハモグリガ	5～10月	やや多	発生時期は平年並で、発生および新梢被害を受けた園は、平年に比べやや多かった。	越冬密度は平年並であったが、裏年で新梢発生量が多く、梅雨時期の曇天多雨により夏秋梢の伸長期間も長かった。
カンキツ	コナカイガラムシ類	5～9月	並	発生は平年並で、一般防除園では被害はほとんど認められなかった。	気象条件と防除状況による。
カンキツ	訪果害虫類	5～6月	並	発生は平年並で、一般防除園では被害はほとんど認められなかった。	近年、花粉量の多い中晩柑類の栽培面積が減少傾向にある。また、開花時期と越冬成虫が活動する時期のズレや防除の徹底による。
カンキツ	ナメクジ類	5～8月	やや少	一般防除園における発生量および果実被害は、平年に比べやや少なかった。	6月および梅雨明けから秋にかけて降雨が少なかった気象条件による。
カンキツ	クワゴマダラヒトリ	4～11月	並	越冬幼虫は平年並で常発地域における春期の果樹園への侵入も平年並であったが被害は認められなかった。	園周辺の寄主植物伐採による。
ウメ	黒星病	4～7月	やや多	うめ研究所内の無防除樹における初発は5月中旬と平年並であった。一般防除園での発生園率は17.6%と平年よりもやや高かったが、発病果率は0.3%と低かった。	3月下旬以降の主要感染期に降雨量が多かったため、一部の園地で発生がみられた。
ウメ	かいよう病	3～7月	多	うめ研究所内の無防除樹における初発は4月中旬と平年並であった。一般防除園での発生園率は79.4%、発病果率6.4%と多発した。	本年は発芽前から降雨量が多く、本病の感染に好適な気象条件であったため、多発したと考えられる。
ウメ	灰色かび病	3～4月	やや多	平年はほとんど発生がみられないが、本年の発生園率は50.0%と高かった。しかし、発生果率は0.9%と低く多発した園地はなかった。	本年は2月下旬から3月上旬にかけて気温が上がらず湿度も高い日が多かった。このため、果実の肥大が進まず病原菌が最初に感染する萼の脱落が遅くなり、病原菌の感染が多くなったと考えられる。
ウメ	すす斑病	5～7月	多	前年は6月下旬まで降雨量が少なく発生は一部に限られたが、本年は完熟収穫する園地の多くで発生がみられた。	本年は果実の生育期を通じて全般に降雨量が多く、特に6月中旬以降多雨に経過したことが多発した要因と考えられる。
ウメ	うどんこ病	4～5月	並	発生はほとんどみられず、平年並であった。	気象条件による。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ウメ	ウメシロカイガラムシ	4～9月	並	本年は発生園率が47.1%、寄生枝率が2.4%と前年よりやや増加したが、平年並の発生であった。近年は多発傾向が続いている。	近年は第1世代幼虫の発生最盛期が4月下旬であり、防除適期がやや早まっている傾向にあると思われ、防除適期を逸している可能性がある。
ウメ	コスカシバ	4～11月	やや多	以前はほとんど発生がみられなかったが、ここ3年は発生園率20%前後で推移しており、本年は14.7%であった。	本県におけるコスカシバ成虫の発生期間は、以前は5月上旬～10月下旬までであったが、近年は4月中旬～12月上旬まで発生しており、やや長期化している。スカシバコンの効果の持続期間は約半年とされており、発生期間をカバーしきれていないことや産地での設置本数が減少していることが、被害が増加してきた要因と考えられる。
ウメ	アブラムシ類	3～7月	並	発生はほとんどみられず、平年並であった。	防除の徹底による。
ウメ	ハダニ類	4～7月	やや多	多発している園地はほとんどないが、発生園率は82.4%と高かった。	気象条件による。
ウメ	ケムシ類(オビカレハ、マイマイガ、モンクロシャチホコ)	3～9月	並	発生は平年並であった。	気象条件による。
ウメ	アメリカシロヒトリ	6～10月	やや多	一部地域で発生し、第1世代の発生は少なかったが、第2世代以降増加した。主産地の日高郡みなべ町、田辺市ともに発生地域は年々拡大している。	防除しない園地がある、多犯性のためウメ以外の樹木での発生も多く防除しきれない、等が増加の要因と考えられる。フェロモントラップによる発生消長調査では、越冬世代の発生が早い年もあり、冬季の気温が関係している可能性がある。
ウメ	カメムシ類	3～7月	多	5月上旬から日高郡みなべ町における予察灯誘殺数がツヤアオカメムシ主体に急激に増加したため、5月13日付けで病害虫発生予察注意報(第2号)を発令したが、大きな被害は認められなかった。	越冬成虫数が多かったため。
カキ	炭そ病	5～10月	並	全般的に発生は少なく、平年並の発生であった。	8～9月に強風雨の日数が少なかった。
カキ	うどんこ病	5～10月	並	6月から発生が見られ始め、10月の発生は平年並であった。	昨年10月の発病葉率は平年並、子のう胞子飛散時期の4月中下旬の気温は平年より低く、飛散量は少なかったと思われる。分生子飛散時期の気象条件は、6月中旬から7月中旬にかけて連続した降雨日が多く、感染に好適であったと思われる。
カキ	角斑落葉病	9～10月	やや多	9月から発生が見られ始め、10月の発生は平年並であった。	5月中旬から6月上旬にかけて気温が低く、感染が起こりにくい条件であった。その後、6月中旬から7月中旬にかけて連続した降雨日が多く、感染に好適であったと思われる。
カキ	円星落葉病	9～11月	並	10月の発病葉率、発生面積は平年よりやや多かった。	5月中旬～6月上旬の降水量は平年並であったが気温が低く、感染に好適であったと思われる。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
カキ	灰色かび病	5～7月	並	6月の発病葉率、発病果率は平年並であった。	4～6月の降水量は平年並であった。
カキ	カキノヘタムシガ	5～10月	並	9月の被害果率は平年並であった。富有ではやや多発傾向にある。	防除薬剤の効果は高いが、周辺に放任園があると、被害が多くなる。
カキ	ハマキムシ類	5～10月	やや多	6月から果実への寄生が見られ、9月の被害果率および発生面積は平年よりもやや多かった。	6月中旬から7月中旬にかけて連続した降雨日が多かったため、防除時期を逃した。
カキ	ハスモンヨトウ	7～10月	やや多	9月の被害葉率および発生面積は過去5年間の平均よりやや多かった。	7月下旬以降の気温は平年より高く推移し、降雨量が少な
カキ	フジコナカイガラムシ	4～10月	並	9月の寄生果率、発生面積は平年並であった。	富有では7月以降へタの内側にひそむので、薬剤がかかりにくく、根絶が困難である。
カキ	コガシラアワフキ	6～7月	並	平年並の発生であった。	慣行防除の徹底により、発生は低く抑えられている。
カキ	カメムシ類	5～10月	多	8月から被害が見られ始め、10月の被害果率は平年より多かった。	チャバネアオカメムシの越冬量は平年並で、餌となるスギヤヒノキ球果量が前年よりも少なかったことから、果樹園への飛来時期が早かった。
カキ	カンザワハダニ	4～10月	並	平年並の発生であった。	5～6月の降水量は平年並であった。
モモ	せん孔細菌病	3～8月	並	葉、果実ともに発生は平年並であった。	4～5月に強風を伴う降雨日があった。
モモ	黒星病	5～7月	並	有袋栽培により全般に発生は少なく、調査園での発生は認められなかった。	薬剤防除の徹底と有袋栽培による。
モモ	シンクイムシ類	5～9月	並	ナシヒメシンクイによる新梢への寄生は7月から見られ始め、発生量は平年並であった。果実被害はモモノゴマダラノメイガの比率が高く、平年並の発生であった。	薬剤防除の徹底と有袋栽培による。
モモ	カメムシ類	5～8月	やや多	一部の園地で被害果がみられた。	チャバネアオカメムシの越冬量は平年並で、餌となるスギヤヒノキ球果量が前年よりも少なかったことから、果樹園への飛来時期が早かった。
モモ	ハダニ類	5～8月	やや多	カンザワハダニなどの発生が7月から見られ、寄生葉率、発生面積は平年よりも多かった。	5～6月の降水量は平年並であった。



## Ⅶ. 水稻病害虫の発生状況調査

### 1. 水稻の生育概況

育苗期の5月下旬は、気温が平年より低く推移したことから、苗の生育は緩慢であった。田植え後から6月上旬までについても気温が低い状態が続き、移植後の生育はやや悪く、草丈は長く徒長し、茎数もやや少ない状態となった。6月中旬以降は、晴天が続き気温も平年より高く推移したことから、どの品種についても生育状態は良好となった。引き続き7月中旬まで高温で推移し、いずれの品種も茎数の増加が旺盛となり平年値を大幅に上回った。

幼穂形成期は、各品種概ね平年と同様であった。その後、平年より高温・少雨で推移したことから、出穂期については各品種とも平年より1～3日早くなり、イクヒカリ8月5日、キヌヒカリ8月8日、コシヒカリ8月9日、日本晴8月15日、ヒノヒカリ8月21日となった。8月中旬から9月末にかけても平年より気温が高く推移し、各品種とも登熟期が1～4日早くなり、イクヒカリ9月7日、キヌヒカリ9月9日、コシヒカリ9月13日、日本晴9月22日、ヒノヒカリ9月30日となった。

収量構成要素について、 $m^2$ 当たり穂数（有効穂数）は、全ての品種で平年比の約5～20%増となった。1穂当たりの籾数は、キヌヒカリでほぼ平年並み、その他の品種で平年の約5%減となり、 $m^2$ 当たり籾数は、ヒノヒカリで平年並み、その他の品種は平年比2～4%減となった。玄米千粒重は、コシヒカリ、日本晴で平年並み、その他の品種で約3%減となった。登熟歩合は、早生品種で平年比5～13%減となった。

a 当たりの精玄米重は、イクヒカリ56.0kg、キヌヒカリ59.8kg（平年比104%）、コシヒカリ60.9g（平年比110%）、日本晴55.6kg（平年比97%）、ヒノヒカリ54.3kg（平年比93%）であった。

表1 水稻生育の推移

品種名	苗質調査		6月30日		7月9日				7月20日		主稈止葉 葉位 (葉)
	草丈 (cm)	葉齢 (葉)	茎数 (本/ $m^2$ )	平年比 (%)	茎数 (本/ $m^2$ )	平年比 (%)	葉齢 (葉)	平年差 (葉)	茎数 (本/ $m^2$ )	平年比 (%)	
キヌヒカリ	12.8	3.2	245	89	467	115	10.7	+0.1	474	117	14.4
コシヒカリ	14.7	3.2	282	104	544	129	11.0	+0.4	524	120	14.8
日本晴	11.4	3.2	264	95	555	119	10.8	+0.1	550	113	15.1
ヒノヒカリ	10.3	3.2	249	101	497	118	11.0	+0.2	495	112	15.8
イクヒカリ	12.5	3.2	267	—	478	—	10.7	—	474	—	14.0

注) 平年値は過去7年間で最大値と最小値を除いた5年間の平均値。

表2 出穂期、成熟期および収量構成要素

品種名		出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	有効茎 歩合 (%)	1穂 粒数 (個)	m <sup>2</sup> 当 粒数 (×100粒)
キヌヒカリ	本年	8/8	9/9	88.6	17.4	366	76.3	81.2	297
	平年比	-1	-4	107	97	103	91	103	98
コシヒカリ	本年	8/9	9/13	108.0	18.4	393	71.9	78.4	308
	平年比	-1	-1	111	97	105	87	94	96
日本晴	本年	8/15	9/22	81.7	19.3	374	64.9	72.4	271
	平年比	-3	-3	100	99	104	93	97	98
ヒノヒカリ	本年	8/21	9/30	85.1	18.9	371	73.3	81.2	301
	平年比	-2	-4	99	101	105	93	95	101
イクヒカリ	本年	8/5	9/7	81.6	18.5	367	76.7	75.2	276

注1) 平年比の単位 出穂期、成熟期：日、その他：%

注2) 出穂期、成熟期の項について、平年比のマイナス(-)は早い、プラス(+)は遅いを表す。

表3 収量および収量構成要素

品種名		全重 (kg/a)	粗粒重 (kg/a)	粗玄 米重 (kg/a)	精玄 米重 (kg/a)	屑米重 (kg/a)	千粒重 (g)	登熟 歩合 (%)	粒摺 歩合 (%)
キヌヒカリ	本年	153	75.7	60.5	59.8	0.8	22.1	82.4	79.9
	平年比	104	105	101	104	39	97	98	94
コシヒカリ	本年	158	77.7	62.1	60.9	1.2	22.6	78.2	79.9
	平年比	107	111	106	110	32	101	105	94
日本晴	本年	156	70.6	56.3	55.6	0.7	23.3	80.9	79.7
	平年比	98	100	94	97	42	99	96	96
ヒノヒカリ	本年	165	70.3	55.6	54.3	1.3	21.7	75.5	79.1
	平年比	95	101	96	98	57	97	90	92
イクヒカリ	本年	147	71.2	56.7	56.0	0.7	22.3	77.7	79.6

注1) 平年比の単位：%

注2) その他は表1に同じ。

## 2. 県予察ほ場などにおける定点調査

### 1) 掬い取りによる害虫の発生状況

(1) 休閑田におけるヨコバイ・ウンカ類の発生推移と齢構成

調査 月日	調査 圃場数	ツマグロヨコバイ						ヒメトビウンカ				
		平均 虫数	成虫	幼虫			平均 虫数	成虫	幼虫			
				若齢	中齢	老齢			若齢	中齢	老齢	
2.24	紀の川市貴志川町高尾	3	18.7	8	0	14	34	0.0	0	0	0	0
3.12	和歌山市小倉	3	3.7	0	0	9	2	0.0	0	0	0	0
3.12	伊都郡かつらぎ町	3	4.0	3	0	7	2	0.7	0	0	2	0
3.12	紀の川市貴志川町高尾	3	0.0	0	0	0	0	21.3	21	0	17	26
3.31	紀の川市貴志川町高尾	3	4.7	2	0	2	10	30.0	75	0	0	15
4.5	伊都郡かつらぎ町	4	23.0	74	5	8	5	4.8	15	0	2	2
4.7	和歌山市小倉	3	28.0	75	4	4	1	1.3	3	0	1	0
4.9	紀の川市貴志川町高尾	3	1.7	4	1	0	0	8.0	24	0	0	0

掬い取り20回振りによる捕獲虫数(頭)

(2) 本田(出穂後)における斑点米カメムシ類の発生状況

調査 月日	調査地	調査 圃場数	平均 虫数	内訳					
				クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	シラホシ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	その他 カメムシ類
8.4	紀中地域	4	13.3	42	8	0	0	2	1
8.9	伊都、那賀	3	0.3	0	1	0	0	0	0
8.6	和歌山、海草	3	3.7	3	2	1	2	3	0

掬い取り20回振りによる捕獲虫数(頭)

(3) ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率<sup>a)</sup>

平成22年 <sup>b)</sup>			平成21年 <sup>c)</sup>		
調査地点	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	調査地点	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
和歌山市 小倉	78	10.3	和歌山市 小倉	55	14.5
和歌山市 川永	51	15.7	和歌山市 川永	48	16.7
和歌山市 平尾・明王寺	105	20.0	和歌山市 明王寺	50	22.0
かつらぎ町 窪	115	19.1	かつらぎ町 窪	62	11.3

a)検定方法:高比重ラテックス凝集反応法

b)調査日:平成22年4月5~8日

c)調査日:平成21年4月13~17日

### 3. 水稻巡回ほ場調査

#### 調査地域区分

地域 (作型)	郡、市町村	調査筆数
紀北 (普通期)	海草郡：紀美野町福田 伊都郡：かつらぎ町西飯降、かつらぎ町下天野 有田郡：広川町南広川 和歌山市：上黒谷、直川、和佐、桑山、本渡 海南市：別院、次ヶ谷 岩出市：水栖 紀の川市：西三谷、井田、貴志川町丸栖 橋本市：山田、赤塚	17
紀中 (普通期)	日高郡：日高町高家、日高川町和佐、日高川町熊野川、 印南町稲原、みなべ町東本庄 御坊市：野口 田辺市：龍神村甲斐ノ川	7
紀南 (早期)	西牟婁郡：上富田町市ノ瀬、白浜町中、すさみ町立野 東牟婁郡：那智勝浦町中里 新宮市：熊野川町神丸 田辺市：中辺路町川合	6

#### 水稻巡回調査の日程

調査場所	第1回	第2回	第3回
海草郡・和歌山市・海南市・岩出市・紀の川市A	7/14	8/6	9/8
紀の川市B・橋本市・伊都郡	7/14	8/9	9/6
日高郡・有田郡・御坊市・田辺市A	7/13	8/4	9/3
西牟婁郡・東牟婁郡・新宮市・田辺市B	6/16	7/12	8/10
紀の川市A：貴志川町丸栖	紀の川市B：西三谷、井田		
田辺市A：龍神村甲斐ノ川	田辺市B：中辺路町川合		

# 1) 圃場における病害虫の発生状況

## 圃場における病害の発生状況(第1回)

2010年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち(株数)	葉いもち(発病度)	穂いもち(穂首)	穂いもち(枝こう)	穂いもち(計)	紋枯病(株数)	紋枯病(発病度)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	もみ枯細菌病(穂数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)	内えい褐変病(穂数)
普通(紀北)	山間	2	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)		17	1.5	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	山間	2	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	中山間	2	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	平坦	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)		7	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	4	6.5	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	中山間	5	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期		24	1.2	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	6	4.3	8.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	中山間	7	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	平坦	17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計		30	0.9	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

葉いもち(発病度)・紋枯病(発病度)

$$\text{発病度} = \frac{4 \times A + 3 \times B + 2 \times C + D}{4 \times 25(\text{調査株数})} \times 100$$

葉いもち(発病度)

- A: 下葉は枯死し、完全なズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率50%以上)
- B: かなり病斑が見られ、軽いズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率10%程度)
- C: 病斑がかなり見られた株数(病斑面積率2%程度)
- D: 病斑がわずかに見られた株数(病斑面積率0.5%程度)

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

紋枯病(発病度)

- A: 止葉が枯死の症状を呈した株数
- B: 大部分の病斑が止葉の葉柄まで達しているが、止葉には生色があった株数
- C: 大部分の病斑が第2葉柄まで達した株数
- D: 病斑が第3葉柄まで達した株数

圃場における病害の発生状況(第1回)平年値

(2000~2009年)

作型(地域)	地域別	葉いもち(株数)	穂いもち(穂数)	紋枯病(株数)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)
普通(紀北)	山間	1.3	0.0	0.3	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	1.6	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)		1.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	山間	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	中山間	2.4	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	平坦	2.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)		2.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	1.1	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	中山間	1.8	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	1.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期		1.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	山間	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	平坦	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	0.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	中山間	1.5	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	平坦	0.9	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計		1.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

# 圃場における害虫の発生状況(第1回)

2010年

作型	地域別	調査筆数	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害茎数)	コブノメイガ(被害葉数)	イネツトムシ(つと数)	イネミズゾウムシ(被害株数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	イネヨトウ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害茎数)	イナゴ(虫数)
普通(紀北)	山間	2	0.0	7.0	115.5	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	3	1.0	27.0	445.3	0.3	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	12	0.2	21.3	174.4	0.4	0.0	1.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)		17	0.3	20.6	215.3	0.4	0.0	2.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	山間	2	0.0	2.0	1.0	0.0	0.0	15.0	0.0	4.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
普通(紀中)	中山間	2	0.0	8.5	211.5	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	平坦	3	0.0	1.3	112.0	8.7	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)		7	0.0	3.6	108.7	3.7	0.0	6.3	0.0	1.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
普通期	山間	4	0.0	4.5	58.3	0.0	0.0	8.0	0.0	2.0	0.5	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
普通期	中山間	5	0.6	19.6	351.8	0.2	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	15	0.1	17.3	161.9	2.1	0.0	2.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期		24	0.2	15.6	184.2	1.3	0.0	3.3	0.0	0.4	0.1	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	山間	2	0.0	0.0	98.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	2	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	平坦	2	0.5	0.0	33.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		6	0.2	0.0	46.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	6	0.0	3.0	71.5	0.0	0.0	5.3	0.0	2.2	1.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
県計	中山間	7	0.4	14.0	253.6	0.1	0.0	2.0	0.0	3.4	2.3	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	平坦	17	0.2	15.2	146.8	1.8	0.0	1.9	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計		30	0.2	12.5	156.6	1.1	0.0	2.6	0.0	1.3	0.8	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第1回)平年値

(2000~2009年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害茎数)	コブノメイガ(被害葉数)	イネツトムシ(つと数)	イネミズゾウムシ(被害株数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	イネヨトウ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害茎数)	イナゴ(虫数)
普通(紀北)	山間	8.3	7.4	83.2	0.0	0.0	0.5	0.4	2.0	1.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1
普通(紀北)	中山間	12.5	10.3	67.3	0.2	0.0	1.2	0.2	0.2	0.2	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
普通(紀北)	平坦	7.2	9.9	98.6	0.4	0.0	0.9	0.0	0.3	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
普通(紀北)		8.6	9.7	89.5	0.3	0.0	0.9	0.1	0.5	0.3	0.0	0.5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2
普通(紀中)	山間	2.8	7.2	158.8	0.2	0.0	1.5	0.0	1.6	2.7	0.0	0.3	0.0	0.0	0.2	0.0	0.3
普通(紀中)	中山間	20.3	16.7	146.3	1.9	0.0	2.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.1	0.0	0.0	0.7	0.0	0.1
普通(紀中)	平坦	5.9	4.0	87.1	0.2	0.0	6.8	0.1	0.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0
普通(紀中)		8.8	7.9	117.7	0.5	0.0	5.0	0.1	0.5	1.7	0.1	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.1
普通期	山間	5.7	7.0	118.2	0.1	0.0	0.9	0.2	1.9	1.8	0.0	0.8	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2
普通期	中山間	15.0	12.3	89.7	0.7	0.0	1.5	0.2	0.1	0.2	0.1	0.5	0.0	0.0	0.2	0.0	0.3
普通期	平坦	6.7	8.2	94.9	0.4	0.0	2.7	0.0	0.2	0.6	0.0	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
普通期		8.7	9.1	97.5	0.4	0.0	2.2	0.1	0.5	0.7	0.0	0.4	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1
早期(紀南)	山間	1.3	0.4	4.1	0.0	0.0	0.1	0.1	5.3	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	0.7	0.2	12.7	0.0	0.0	0.0	0.2	5.8	2.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.7
早期(紀南)	平坦	5.0	0.3	13.8	0.0	0.0	0.0	0.1	2.5	1.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
早期(紀南)		3.2	0.3	10.7	0.0	0.0	0.0	0.1	4.4	2.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3
県計	山間	4.2	4.9	84.1	0.1	0.0	0.7	0.2	3.0	2.4	0.0	0.5	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1
県計	中山間	11.4	9.3	70.1	0.5	0.0	1.1	0.2	1.6	0.7	0.1	0.4	0.0	0.0	0.2	0.0	0.4
県計	平坦	6.6	6.9	81.4	0.3	0.0	2.0	0.1	0.6	0.8	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
県計		7.5	7.1	79.0	0.3	0.0	1.7	0.1	1.3	1.1	0.0	0.3	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2



# 圃場における病害の発生状況(第2回)

2010年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち(株数)	葉いもち(発病度)	穂いもち(穂首)	穂いもち(枝こう)	穂いもち(計)	紋枯病(株数)	紋枯病(発病度)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	もみ枯細菌病(穂数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)	内えい褐変病(穂数)
普通(紀北)	山間	2	9.5	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	3	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	12	1.3	1.2	0.0	0.0	0.0	1.5	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)		17	2.4	2.3	0.0	0.0	0.0	1.6	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	中山間	2	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	平坦	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)		7	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	4	4.8	4.8	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	中山間	5	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	2.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	15	1.0	0.9	0.0	0.0	0.0	1.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期		24	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0	1.3	0.5	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	山間	2	3.5	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	2	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		6	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	6	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	中山間	7	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	1.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	平坦	17	0.9	0.8	0.0	0.0	0.0	1.1	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計		30	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0	1.0	0.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

# 圃場における病害の発生状況(第2回)平年値

(2000~2009年)

作型 (地域)	地域別	葉いもち (株数)	穂いもち (穂数)	紋枯病 (株数)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (病株数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)
普通(紀北)	山間	4.8	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
普通(紀北)	中山間	1.5	0.0	1.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
普通(紀北)	平坦	2.1	0.0	2.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
普通(紀北)		2.2	0.0	1.9	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
普通(紀中)	山間	1.9	0.1	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
普通(紀中)	中山間	1.0	0.0	3.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
普通(紀中)	平坦	3.7	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
普通(紀中)		2.5	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
普通期	山間	3.4	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
普通期	中山間	1.4	0.0	1.9	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
普通期	平坦	2.4	0.0	2.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
普通期		2.3	0.0	2.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
早期(紀南)	山間	6.9	0.0	0.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	2.7	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
早期(紀南)	平坦	1.2	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		3.1	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	4.6	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
県計	中山間	1.7	0.0	1.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
県計	平坦	2.2	0.0	2.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
県計		2.5	0.0	1.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5

# 圃場における害虫の発生状況(第2回)

2010年

作型	地域別	調査筆数	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害茎数)	コブノメイガ(被害葉数)	イネツトムシ(つと数)	イネミズゾウムシ(被害株数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	イネヨトウ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害茎数)	イナゴ(虫数)
普通(紀北)	山間	2	4.0	17.5	43.5	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	3	3.3	22.7	48.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	12	7.7	20.5	165.5	1.9	0.0	19.0	0.4	0.0	0.0	0.1	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)		17	6.5	20.5	130.4	1.4	0.0	13.6	0.3	0.0	0.0	0.1	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	山間	2	0.0	0.5	78.5	0.0	0.0	9.0	0.0	7.0	0.0	1.5	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
普通(紀中)	中山間	2	15.0	30.5	75.0	0.0	0.0	3.5	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	平坦	3	0.7	7.0	31.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)		7	4.6	11.9	57.3	0.0	0.0	3.7	0.0	2.4	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
普通期	山間	4	2.0	9.0	61.0	0.0	0.0	5.5	0.0	3.5	0.0	0.8	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
普通期	中山間	5	8.0	25.8	58.8	0.0	0.0	1.4	0.0	0.6	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	15	6.3	17.8	138.7	1.5	0.0	15.3	0.3	0.0	0.0	0.1	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期		24	5.9	18.0	109.1	1.0	0.0	10.8	0.2	0.7	0.0	0.2	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	山間	2	0.5	18.0	257.5	0.5	0.0	39.0	0.5	0.0	2.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	2	0.0	25.0	217.0	0.5	0.0	49.5	0.5	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	平坦	2	97.5	3.5	200.5	0.5	0.0	65.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		6	32.7	15.5	225.0	0.5	0.0	51.3	0.3	0.7	1.5	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	6	1.5	12.0	126.5	0.2	0.0	16.7	0.2	2.3	0.8	0.5	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
県計	中山間	7	5.7	25.6	104.0	0.1	0.0	15.1	0.1	1.0	0.6	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	平坦	17	17.0	16.1	145.9	1.4	0.0	21.2	0.3	0.0	0.0	0.1	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計		30	11.3	17.5	132.3	0.9	0.0	18.9	0.2	0.7	0.3	0.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

# 圃場における害虫の発生状況(第2回)平年値

(2000~2009年)

作型(地域)	地域別	ツマゲロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害茎数)	コブノメイガ(被害葉数)	イネツトムシ(つと数)	イネミズゾウムシ(被害株数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	イネヨトウ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害茎数)	イナゴ(虫数)
普通(紀北)	山間	7.4	12.0	22.3	0.1	0.0	1.3	0.1	0.9	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
普通(紀北)	中山間	15.5	12.2	20.3	0.8	0.0	0.9	0.1	0.2	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	12.5	15.7	43.5	0.4	0.0	1.6	0.3	0.1	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
普通(紀北)		12.7	14.4	35.2	0.4	0.0	1.4	0.2	0.2	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
普通(紀中)	山間	2.1	2.8	74.0	0.9	0.0	5.1	0.1	0.2	0.0	0.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
普通(紀中)	中山間	15.4	7.7	25.0	0.2	0.0	2.8	0.1	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
普通(紀中)	平坦	5.1	10.2	53.8	0.4	0.1	5.4	0.1	0.0	0.0	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
普通(紀中)		7.3	7.6	51.0	0.5	0.0	4.7	0.1	0.1	0.0	0.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0
普通期	山間	4.7	7.4	45.0	0.5	0.0	3.0	0.1	0.6	0.0	0.1	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
普通期	中山間	15.4	10.8	21.5	0.6	0.0	1.5	0.1	0.1	0.0	0.1	0.6	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0
普通期	平坦	10.7	14.4	45.6	0.4	0.0	2.7	0.2	0.1	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
普通期		11.1	12.4	39.6	0.5	0.0	2.5	0.2	0.2	0.0	0.1	1.3	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
早期(紀南)	山間	1.1	5.3	40.7	0.2	0.0	4.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	1.4	4.8	52.7	0.1	0.0	2.9	0.1	0.6	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
早期(紀南)	平坦	11.4	5.5	57.0	0.3	0.0	5.2	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3
早期(紀南)		6.2	5.4	52.0	0.2	0.0	4.1	0.1	0.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3
県計	山間	3.5	6.7	42.3	0.4	0.0	3.4	0.1	0.5	0.0	0.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
県計	中山間	11.9	9.3	28.7	0.5	0.0	1.9	0.1	0.3	0.0	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
県計	平坦	10.8	13.0	46.2	0.4	0.0	3.2	0.2	0.1	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
県計		10.0	10.9	41.1	0.4	0.0	2.9	0.1	0.2	0.0	0.1	1.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2

# 圃場における病害の発生状況(第3回)

2010年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち(株数)	葉いもち(発病度)	穂いもち(穂首)	穂いもち(枝こう)	穂いもち(計)	紋枯病(株数)	紋枯病(発病度)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	もみ枯細菌病(穂数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)	内えい褐変病(穂数)
普通(紀北)	山間	2	0.0	0.0	5.0	25.0	30.0	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	3	0.0	0.0	0.7	0.3	1.0	3.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	12	0.0	0.0	0.4	0.0	0.4	9.6	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
普通(紀北)		17	0.0	0.0	1.0	3.0	4.0	7.8	12.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
普通(紀中)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	3.5
普通(紀中)	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	3.5
普通(紀中)	平坦	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	2.3
普通(紀中)		7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	2.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	3.0
普通期	山間	4	0.0	0.0	2.5	12.8	15.3	2.5	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	1.8
普通期	中山間	5	0.0	0.0	0.4	0.2	0.6	2.8	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.4
普通期	平坦	15	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	8.2	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.6
普通期		24	0.0	0.0	0.7	2.2	2.9	6.1	9.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.0
早期(紀南)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0
早期(紀南)	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	4.5
早期(紀南)	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	1.8
県計	山間	6	0.0	0.0	1.7	8.5	10.2	2.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	1.5
県計	中山間	7	0.0	0.0	0.3	0.1	0.4	2.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	2.3
県計	平坦	17	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	7.3	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5
県計		30	0.0	0.0	0.6	1.7	2.3	5.0	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.1

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

# 圃場における病害の発生状況(第3回)平年値

(2000~2009年)

作型 (地域)	地域別	葉いもち (株数)	穂いもち (穂数)	紋枯病 (株数)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (病株数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)
普通(紀北)	山間	0.0	7.9	1.3	0.0	0.7	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.5
普通(紀北)	中山間	0.0	1.6	2.6	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	5.1
普通(紀北)	平坦	0.0	1.2	3.4	0.0	0.1	0.1	0.1	0.4	0.0	0.0	5.2
普通(紀北)		0.0	2.0	2.9	0.0	0.1	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0	5.1
普通(紀中)	山間	0.0	2.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	4.1
普通(紀中)	中山間	0.0	2.5	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3
普通(紀中)	平坦	0.0	2.0	2.4	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	4.4
普通(紀中)		0.0	2.3	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	4.6
普通期	山間	0.0	5.5	1.3	0.0	0.3	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	4.3
普通期	中山間	0.0	1.9	2.5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	5.2
普通期	平坦	0.0	1.5	3.2	0.0	0.1	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0	5.0
普通期		0.0	2.1	2.7	0.0	0.1	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0	4.9
早期(紀南)	山間	0.0	4.1	3.8	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5
早期(紀南)	中山間	0.0	3.9	1.6	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	4.7
早期(紀南)	平坦	0.0	2.6	1.4	0.0	0.0	0.5	0.0	0.3	0.0	0.0	4.3
早期(紀南)		0.0	3.1	2.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.3	0.0	0.0	4.6
県計	山間	0.0	5.1	2.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	4.3
県計	中山間	0.0	2.4	2.3	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	5.1
県計	平坦	0.0	1.5	2.8	0.0	0.1	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0	4.9
県計		0.0	2.3	2.6	0.0	0.1	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0	4.9

# 圃場における害虫の発生状況(第3回)

2010年

作型	地域別	調査筆数	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害茎数)	コブノメイガ(被害葉数)	イネツトムシ(つと数)	イネミズゾウムシ(被害株数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	イネヨトウ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害茎数)	イナゴ(虫数)
普通(紀北)	山間	2	5.5	2.0	0.0	0.0	0.0	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	3	1.7	3.7	7.3	0.0	0.0	57.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	12	8.4	7.0	9.2	1.3	0.0	115.3	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)		17	6.9	5.8	7.8	0.9	0.0	93.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	山間	2	0.0	1.5	4.0	4.5	0.0	19.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	中山間	2	0.0	10.5	30.0	0.0	0.0	165.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	平坦	3	0.0	11.3	17.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)		7	0.0	8.3	17.0	1.3	0.0	55.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	4	2.8	1.8	2.0	2.3	0.0	16.8	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	中山間	5	1.0	6.4	16.4	0.0	0.0	100.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	15	6.7	7.9	10.7	1.1	0.0	93.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期		24	4.9	6.5	10.5	1.0	0.0	82.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	山間	2	0.0	2.0	8.0	0.0	0.0	13.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	2	1.0	20.5	44.0	4.5	0.0	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	平坦	2	35.0	9.5	78.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		6	12.0	10.7	43.3	1.5	0.0	9.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	6	1.8	1.8	4.0	1.5	0.0	15.7	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	中山間	7	1.0	10.4	24.3	1.3	0.0	76.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	平坦	17	10.1	8.1	18.6	0.9	0.0	82.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計		30	6.3	7.4	17.0	1.1	0.0	67.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

# 圃場における害虫の発生状況(第3回)平年値

(2000~2009年)

作型(地域)	地域別	ツマゲロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害茎数)	コブノメイガ(被害葉数)	イネツトムシ(つと数)	イネミズゾウムシ(被害株数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	イネヨトウ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害茎数)	イナゴ(虫数)
普通(紀北)	山間	8.2	8.1	13.0	1.4	0.1	3.3	0.1	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
普通(紀北)	中山間	15.2	5.9	7.8	0.9	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	25.7	9.4	13.6	1.0	0.0	5.5	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
普通(紀北)		21.1	8.4	12.1	1.0	0.0	4.8	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3
普通(紀中)	山間	8.3	5.0	13.4	67.5	0.0	7.9	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	中山間	13.9	21.2	14.8	3.5	0.1	7.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	平坦	9.1	12.8	15.0	1.1	0.2	17.3	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)		10.3	13.0	14.3	19.9	0.1	14.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	8.2	6.6	13.6	34.5	0.1	5.5	0.1	0.0	0.0	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
普通期	中山間	15.0	10.7	10.0	1.8	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	21.0	10.4	13.6	0.9	0.1	8.9	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
普通期		17.8	9.9	12.8	6.6	0.1	7.5	0.1	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
早期(紀南)	山間	4.5	7.2	6.9	0.3	0.2	7.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	1.1	5.2	11.8	0.9	0.0	4.5	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3
早期(紀南)	平坦	13.9	5.5	10.6	0.2	0.1	9.2	0.1	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
早期(紀南)		7.8	6.0	9.3	0.5	0.1	6.9	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
県計	山間	7.0	6.7	11.5	23.1	0.1	6.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
県計	中山間	11.5	9.4	10.5	1.5	0.0	4.7	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
県計	平坦	19.4	9.9	12.7	0.8	0.1	8.5	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
県計		15.5	9.2	11.9	5.2	0.1	7.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2



## 2) 主要 病害虫の発生程度別面積

### 主要 病害の発生程度別面積(第1回)

2010年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 4748	発生面積	279	—	0	0	559	—	279	0	0	—	—
	甚	279	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	0	—	0	0	559	—	279	0	0	—	—
紀中 (普通期) 1542	発生面積	441	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	441	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
普通期計 6290	発生面積	720	—	0	0	559	—	279	0	0	—	—
	甚	279	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	441	—	0	0	559	—	279	0	0	—	—
紀南 (早期) 1360	発生面積	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
県計 7650	発生面積	720	—	0	0	559	—	279	0	0	—	—
	甚	279	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	441	—	0	0	559	—	279	0	0	—	—

発生程度基準:  
 葉いもち:25株あたり病株数、少≤10、10<中≤18、18<多≤23、甚>23  
 穂いもち:25株あたり病穂数、少≤50、50<中≤200、200<多≤350、甚>350  
 紋枯病:25株あたり病株数、少≤10、10<中≤18、18<多≤23、甚>23  
 萎縮病:25株あたり病株数、少≤5、5<中≤10、10<多≤17、甚>17  
 縞葉枯病:25株あたり病株数、少≤5、5<中≤10、10<多≤17、甚>17  
 もみ枯細菌病:25株あたり病株数、少≤3、3<中≤8、8<多≤15、甚>15  
 馬鹿苗病:25株あたり病株数、少≤1、1<中≤3、3<多≤7、甚>7  
 ごま葉枯病:25株あたり病株数、少≤10、10<中≤18、18<多≤23、甚>23  
 白葉枯病:25株あたり病株数、少≤12、12<中≤20、20<多≤25、甚>25  
 稲こうじ病:25株あたり病株数、少≤1、1<中≤3、3<多≤7、甚>7  
 内えい褐変病:25株あたり病株数、少≤5、5<中≤10、10<多≤20、甚>20

# 主要害虫の発生程度別面積(第1回)

2010年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イネツトムシ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ	フタオビコヤガ	イネヨトウ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ
		紀北 (普通期) 4748	発生面積	838	4748	4748	1117	0	3072	0	559	0	0	1117	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	中	0	279	559	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	838	4469	4189	1117	0	3072	0	559	0	0	838	0	0	0	0	0	2793
紀中 (普通期) 1542	発生面積	0	1542	1542	661	0	1322	0	220	220	0	0	0	0	0	0	220	220
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	220	0	0	0	0	220	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	0	1542	1322	661	0	1322	0	0	220	0	0	0	0	0	0	220	220
普通期計 6290	発生面積	838	6290	6290	1778	0	4394	0	779	220	0	1117	0	0	0	0	220	3013
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	中	0	279	779	0	0	0	0	220	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	838	6011	5511	1778	0	4394	0	559	220	0	838	0	0	0	0	220	3013
紀南 (早期) 1360	発生面積	227	0	1133	0	0	0	0	907	1133	0	0	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	453	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	227	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	227	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	227	0	680	0	0	0	0	680	907	0	0	0	0	0	0	0	0
県計 7650	発生面積	1065	6290	7423	1778	0	4394	0	1686	1354	0	1117	0	0	0	0	220	3013
	甚	0	0	453	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	227	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	中	0	279	779	0	0	0	0	220	227	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	1065	6011	6191	1778	0	4394	0	1239	1127	0	838	0	0	0	0	220	3013

発生程度基準:  
 ツマグロヨコバイ:25株あたり虫数、(第1回)少≦50、50<中≦125、125<多≦250、甚>250  
 ヒメトビウンカ:25株あたり虫数、少≦50、50<中≦125、125<多≦250、甚>250  
 セジロウンカ:25株あたり虫数、少≦250、250<中≦1250、1250<多≦2500、甚>2500  
 トビイロウンカ:25株あたり虫数、少≦250、250<中≦1250、1250<多≦2500、甚>2500  
 ニカメイガ:25株あたり被害茎数、少≦7、7<中≦15、15<多≦22、甚>22  
 コブノメイガ:25株あたり被害葉数、少≦20、20<中≦60、60<多≦180、甚>180  
 イネツトムシ:25株あたりつと数、少≦10、10<中≦20、20<多≦40、甚>40  
 イネミズゾウムシ:25株あたり被害葉数、少≦5、5<中≦20、20<多≦40、甚>40  
 イネゾウムシ:25株あたり被害葉数、少≦5、5<中≦20、20<多≦40、甚>40  
 フタオビコヤガ:25株あたり被害茎数、少≦10、10<中≦20、20<多≦40、甚>40  
 イネヨトウ:25株あたり被害葉数、少≦20、20<中≦50、50<多≦80、甚>80  
 アワヨトウ:25株あたり被害葉数、少≦10、10<中≦30、30<多≦100、甚>100  
 ハモグリバエ:25株あたり被害葉数、少≦10、10<中≦20、20<多≦30、甚>30  
 シンガレセンチュウ:25株あたり被害株数、少≦5、5<中≦12、12<多≦20、甚>20  
 イナゴ:25株あたり虫数、少≦10、10<中≦30、30<多≦100、甚>100

# 主要病害の発生程度別面積(第2回)

2010年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 4748	発生面積	2793	0	2514	0	0	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	2793	0	2514	0	0	0	0	0	0	0	0
紀中 (普通期) 1542	発生面積	220	0	220	0	220	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	220	0	220	0	220	0	0	0	0	0	0
普通期計 6290	発生面積	3013	0	2734	0	220	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	3013	0	2734	0	220	0	0	0	0	0	0
紀南 (早期) 1360	発生面積	680	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	680	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県計 7650	発生面積	3693	0	2734	0	220	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	3693	0	2734	0	220	0	0	0	0	0	0

発生程度基準: 第1回発生面積の基準に同じ

# 主要害虫の発生程度別面積(第2回)

2010年

単位: ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イネツトムシ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ	フタオビコヤガ	イネヨトウ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ
		発生 面積																
紀北 (普通期) 4748	発生 面積	3072	4748	4748	1396	0	3352	1117	0	0	279	1676	0	0	0	0	0	2793
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	559	0	0	0	0	838	0	0	0	0	0	0
	中	0	279	559	0	0	279	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	少	3072	4469	4189	1396	0	2514	1117	0	0	279	279	0	0	0	0	0	2793
紀中 (普通期) 1542	発生 面積	441	1322	1322	0	0	881	0	881	0	220	220	0	0	0	0	220	441
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	220	0	0	0	0	0	220	0	0	220	0	0	0	0	0	0
	少	441	1101	1322	0	0	881	0	661	0	220	0	0	0	0	0	220	441
普通期計 6290	発生 面積	3513	6070	6070	1396	0	4233	1117	881	0	500	1896	0	0	0	0	220	3234
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	559	0	0	0	0	838	0	0	0	0	0	0
	中	0	500	559	0	0	279	0	220	0	0	500	0	0	0	0	0	0
	少	3513	5570	5511	1396	0	3395	1117	661	0	500	279	0	0	0	0	220	3234
紀南 (早期) 1360	発生 面積	453	1360	1360	680	0	1360	453	227	680	0	227	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	453	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	227	0	680	0	0	680	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	227	1360	680	680	0	227	453	227	680	0	227	0	0	0	0	0	0
県計 7650	発生 面積	3966	7430	7430	2076	0	5593	1571	1108	680	500	2123	0	0	0	0	220	3234
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	1012	0	0	0	0	838	0	0	0	0	0	0
	中	227	500	1239	0	0	959	0	220	0	0	500	0	0	0	0	0	0
	少	3739	6930	6191	2076	0	3621	1571	888	680	500	506	0	0	0	0	220	3234

発生程度基準: ツマグロヨコバイ:25株あたり虫数、(第2回)少≤125、125<中≤375、375<多≤750、甚>750  
 その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

# 主要病害の発生程度別面積(第3回)

2010年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縮葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 4748	発生面積	—	1396	3631	0	0	0	0	0	0	0	1396
	甚	—	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	—	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	—	279	1117	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	—	1117	1955	0	0	0	0	0	0	0	1396
紀中 (普通期) 1542	発生面積	—	220	661	0	0	0	0	0	0	0	661
	甚	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	—	220	661	0	0	0	0	0	0	0	661
普通期計 6290	発生面積	—	1617	4292	0	0	0	0	0	0	0	2057
	甚	—	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	—	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	—	279	1117	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	—	1337	2616	0	0	0	0	0	0	0	2057
紀南 (早期) 1360	発生面積	—	0	453	0	0	0	0	0	0	0	453
	甚	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	227
	少	—	0	453	0	0	0	0	0	0	0	227
県計 7650	発生面積	—	1617	4745	0	0	0	0	0	0	0	2511
	甚	—	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	—	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	—	279	1117	0	0	0	0	0	0	0	227
	少	—	1337	3069	0	0	0	0	0	0	0	2284

発生程度基準: 第1回発生面積の基準に同じ

主要害虫の発生程度別面積(第3回)

2010年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イネツトムシ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ	フタオビコヤガ	イネヨトウ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ
		発生 面積																
紀北 (普通期) 4748	発生 面積	1396	2793	3352	559	0	4469	0	0	0	279	559	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	838	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	838	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	1396	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	1396	2793	3352	559	0	1396	0	0	0	279	559	0	0	0	0	0	0
紀中 (普通期) 1542	発生 面積	0	1542	1322	220	0	1322	220	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	441	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	220	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	0	1542	1322	220	0	661	220	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
普通期計 6290	発生 面積	1396	4335	4673	779	0	5790	220	0	0	279	559	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	838	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	1278	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	1617	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	1396	4335	4673	779	0	2057	220	0	0	279	559	0	0	0	0	0	0
紀南 (早期) 1360	発生 面積	453	1133	1133	453	0	907	0	0	680	0	453	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	227	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	453	1133	1133	453	0	680	0	0	680	0	453	0	0	0	0	0	0
県計 7650	発生 面積	1850	5468	5807	1232	0	6697	220	0	680	279	1012	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	838	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	1278	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	1843	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	1850	5468	5807	1232	0	2737	220	0	680	279	1012	0	0	0	0	0	0

発生程度基準: ツマグロヨコバイ:25株あたり虫数、(第3回)少≤125、125<中≤375、375<多≤750、甚>750  
 その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

主要病害の発生程度別面積(年計) 2010年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 4748	発生面積	2793	1396	3631	0	559	0	279	0	0	0	1396
	甚	0	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	279	1117	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	2793	1117	1955	0	559	0	279	0	0	0	1396
紀中 (普通期) 1542	発生面積	441	220	661	0	220	0	0	0	0	0	661
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	441	220	661	0	220	0	0	0	0	0	661
普通期計 6290	発生面積	3234	1617	4292	0	779	0	279	0	0	0	2057
	甚	0	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	279	1117	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	3234	1337	2616	0	779	0	279	0	0	0	2057
紀南 (早期) 1360	発生面積	680	0	453	0	0	0	0	0	0	0	453
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	227
	少	680	0	453	0	0	0	0	0	0	0	227
県計 7650	発生面積	3914	1617	4745	0	779	0	279	0	0	0	2511
	甚	0	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	279	1117	0	0	0	0	0	0	0	227
	少	3914	1337	3069	0	779	0	279	0	0	0	2284

主要害虫の発生程度別面積(年計) 2010年

単位: ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イネツトムシ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ	フタオビコヤガ	イネヨトウ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ
		発生 面積																
紀北 (普通期) 4748	発生 面積	3072	4748	4748	1396	0	4469	1117	559	0	279	1676	0	0	0	0	0	2793
	甚	0	0	0	0	0	838	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	838	0	0	0	0	838	0	0	0	0	0	0
	中	0	279	559	0	0	1396	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	少	3072	4469	4189	1396	0	1396	1117	559	0	279	279	0	0	0	0	0	2793
紀中 (普通期) 1542	発生 面積	441	1542	1542	661	0	1322	220	881	220	220	220	0	0	0	0	220	441
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	220	0	0	0	0	220	0	0	220	0	0	0	0	0	0
	少	441	1542	1322	661	0	1322	220	661	220	220	0	0	0	0	0	220	441
普通期計 6290	発生 面積	3513	6290	6290	2057	0	5790	1337	1440	220	500	1896	0	0	0	0	220	3234
	甚	0	0	0	0	0	838	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	838	0	0	0	0	838	0	0	0	0	0	0
	中	0	279	779	0	0	1396	0	220	0	0	500	0	0	0	0	0	0
	少	3513	6011	5511	2057	0	2718	1337	1219	220	500	279	0	0	0	0	220	3234
紀南 (早期) 1360	発生 面積	453	1360	1360	680	0	1360	453	907	1133	0	453	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	453	0	227	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	227	0	680	0	0	680	0	0	227	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	227	1360	680	680	0	227	453	680	907	0	453	0	0	0	0	0	0
県計 7650	発生 面積	3966	7650	7650	2737	0	7150	1791	2346	1354	500	2349	0	0	0	0	220	3234
	甚	0	0	0	0	0	838	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	1291	0	227	0	0	838	0	0	0	0	0	0
	中	227	279	1459	0	0	2076	0	220	227	0	500	0	0	0	0	0	0
	少	3739	7371	6191	2737	0	2945	1791	1899	1127	500	733	0	0	0	0	220	3234



#### 4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況

##### ① 予察灯 (60W白熱灯)

(調査単位：頭)

月 半旬	ニカメイガ						ツマグロヨコバイ						ヒメトビウンカ						
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	1	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	1	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.0	2	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.8	0	0.0	0	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.1
6	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.5	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.1
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	6.9	1	0.0	0	2.2	0	0.1	0	0.1	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	2.7	0	0.3	9	2.6	0	0.7	0	0.4	0	0.3
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.7	1	0.0	7	5.7	4	1.1	1	0.0	0	0.2
	5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.3	0	3.7	0	2.2	2	0.6	0	0.1
	6	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.5	1	0.8	3	4.0	3	2.8	0	0.1	1	0.5
7	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.4	4	5.2	1	3.3	0	0.3	1	0.8
	2	0	0.2	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.7	48	16.0	1	0.7	0	0.3	1	0.1
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.5	1	1.1	90	15.2	6	2.2	0	0.2	1	0.1
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	3.9	0	2.2	227	14.1	1	4.4	0	0.2	0	0.1
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	8.8	1	1.6	79	18.4	2	3.9	0	0.7	1	0.1
	6	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	12.1	0	0.9	12	26.3	4	2.4	0	0.1	1	0.5
8	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	23.0	0	0.5	4	18.0	1	5.6	0	0.2	1	1.1
	2	0	0.6	0	0.0	0	0.0	0	17.9	0	0.2	13	10.6	3	7.2	0	0.0	2	0.1
	3	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	10.9	0	1.2	15	7.3	1	9.0	0	0.4	1	0.7
	4	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	6.9	1	0.2	85	8.9	0	9.5	0	0.1	9	0.0
	5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	5.4	0	0.6	90	43.6	8	4.0	0	0.2	15	2.0
	6	0	0.2	0	0.2	0	0.0	0	11.2	0	0.1	111	61.0	1	4.7	0	0.0	5	2.6
合計	0	2.2	0	0.3	0	0.1	1	114.8	6	11.4	799	263.6	36	63.9	4	4.2	42	9.5	

(調査単位：頭)

月 半月	セジロウンカ						トビイロウンカ						イネミズゾウムシ					
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.2
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	2.4
6	0	0.0	0	0.3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.6
1	0	0.1	0	0.4	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	0.4	6	3.1
2	0	0.1	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.8	1	2.3	1	17.2
5 3	0	0.0	0	0.6	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	2	1.2	0	3.4
4	0	0.0	0	0.1	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	21	0.2	9	3.8
5	0	0.0	0	0.8	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	28	1.6	32	3.2
6	0	1.4	0	0.8	0	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.4	4	1.1	1	3.7
1	0	2.0	0	0.3	0	5.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	5	0.4	3	0.6
2	0	3.6	0	46.9	0	11.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.3	1	2.8
6 3	7	7.4	0	86.5	16	57.7	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	1	1.1	1	1.2
4	238	4.1	211	41.4	68	23.2	1	0.2	1	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.1	4	2.0
5	251	10.2	229	15.6	0	30.5	0	0.0	1	0.1	0	0.4	0	0.1	0	0.1	0	3.0
6	26	51.5	27	47.1	9	51.5	0	0.0	0	0.1	0	0.3	0	0.0	0	0.1	1	5.5
1	67	86.7	151	57.0	148	37.6	1	0.6	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	4.0
2	4	15.4	9	45.9	183	51.3	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	1	0.1	10	4.0
7 3	55	18.5	17	7.2	89	42.7	0	0.5	0	0.1	2	0.3	0	0.0	4	0.1	14	7.3
4	3	23.8	0	7.6	30	21.7	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.5	20	9.2
5	7	27.0	3	16.9	104	21.5	0	0.3	0	0.0	0	0.6	0	0.0	2	1.6	25	14.2
6	14	9.9	3	7.8	70	24.4	1	0.3	0	0.1	0	0.5	0	0.0	0	0.6	13	10.5
1	14	24.4	0	2.9	87	30.2	0	2.3	0	0.1	0	0.2	0	0.9	3	0.6	11	9.6
2	1	18.9	0	4.7	6	23.7	0	0.2	0	0.0	113	0.3	0	1.0	2	1.0	12	8.1
8 3	5	44.4	1	3.3	32	43.4	0	0.2	1	0.0	18	0.5	0	1.9	3	1.9	13	6.5
4	45	27.2	5	3.6	107	50.1	0	0.3	0	0.6	19	0.5	0	0.4	0	0.0	8	5.2
5	71	12.6	3	3.3	132	46.6	1	1.1	0	7.9	7	6.0	0	0.3	2	0.0	0	1.2
6	1	17.8	0	1.9	15	46.2	0	3.8	0	2.3	1	8.7	0	0.1	0	0.0	1	1.9
合計	809	407.1	659	403.1	1096	621.4	4	9.9	4	11.6	162	18.9	0	6.5	87	15.5	186	135.5

斑点米カメムシ類

紀の川市

月 半旬	クモヘリ	ホソハリ	シラホシ	アオクサ	ミナミ	アカスジ
	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	アオ カメムシ	カスミ カメ
4	1	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	2
	5	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0
6	1	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	3
	5	0	0	0	0	11
	6	0	0	0	0	9
7	1	0	0	0	0	27
	2	0	0	0	0	18
	3	0	0	0	0	14
	4	2	0	0	0	18
	5	0	0	0	0	28
	6	3	0	0	0	111
8	1	1	0	0	0	38
	2	8	0	0	0	52
	3	0	0	0	0	12
	4	16	0	0	0	49
	5	0	0	0	0	14
	6	2	0	0	0	14
合 計	32	0	0	0	0	420

那智勝浦町

月 半旬	クモヘリ	ホソハリ	シラホシ	アオクサ	ミナミ	アカスジ
	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	アオ カメムシ	カスミ カメ
1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
5 3	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0
2	欠	欠	欠	欠	欠	欠
6 3	0	0	0	0	0	1
4	0	0	0	0	0	3
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	15
1	1	0	0	0	0	16
2	0	0	0	0	0	3
7 3	0	0	0	0	0	4
4	0	1	0	0	1	20
5	1	2	0	0	0	20
6	0	0	0	0	0	8
1	0	0	0	0	0	3
2	1	0	0	0	0	0
8 3	2	0	0	0	0	9
4	3	2	0	0	3	31
5	3	0	0	0	1	10
6	1	0	0	0	5	22
合 計	12	5	0	0	10	165

②フェロモントラップ

ニカメイガ

紀の川市

月 半旬	本年	平年
1	0	0.0
2	0	0.0
4 3	0	0.0
4 4	0	0.0
5 5	0	0.1
6 6	0	0.0
1	0	0.0
2	0	0.2
5 3	0	0.1
4 4	0	0.0
5 5	0	0.1
6 6	0	0.0
1	0	0.0
2	0	0.2
6 3	0	0.0
4 4	0	0.0
5 5	0	0.1
6 6	0	0.0
1	0	0.2
2	0	0.1
7 3	0	0.0
4 4	0	0.0
5 5	0	0.0
6 6	0	0.0
1	0	0.0
2	0	0.0
8 3	0	0.0
4 4	0	0.0
5 5	0	0.0
6 6	0	0.0
1	0	0.0
2	0	0.0
9 3	0	0.0
4 4	0	0.0
5 5	0	0.0
6 6	0	0.1
合計	0	1.2

③蛍光灯誘殺箱 (15W)

コブノメイガ

紀の川市

月 半旬	本年	平年
1	0	0.0
2	0	0.0
6 3	0	0.0
4 4	0	0.0
5 5	0	0.8
6 6	0	1.3
1	0	0.8
2	0	0.5
7 3	1	0.3
4 4	11	0.5
5 5	27	1.4
6 6	23	9.0
1	3	3.4
2	3	3.6
8 3	0	4.4
4 4	—	—
5 5	—	—
6 6	—	—
合計	68	26.0

④フェロモントラップ

(四国農試式水盤トラップ)  
コブノメイガ

紀の川市

月 半旬	本年	※平年
1	0	0.0
2	0	0.0
6 3	0	0.0
4 4	0	0.0
5 5	0	0.0
6 6	0	0.0
1	0	0.0
2	0	0.3
7 3	0	0.0
4 4	0	0.3
5 5	0	0.0
6 6	0	0.0
1	0	0.0
2	0	0.0
8 3	0	0.0
4 4	—	—
5 5	—	—
6 6	—	—
合計	0	0.5

※平成18年6月調査開始  
平年は平成18～21年  
(4か年)の平均値

⑤フェロモントラップ  
 (粘着トラップ)  
 コブノメイガ

紀の川市

月 半旬	本年	※平年
1	0	0.0
2	0	0.0
6 3	0	0.0
4	0	0.0
5	0	0.0
6	0	0.0
1	0	0.0
2	0	0.0
7 3	0	0.0
4	0	0.0
5	0	0.0
6	0	0.0
1	0	0.5
2	0	0.0
8 3	0	0.0
4	—	—
5	—	—
6	—	—
合 計	0	0.5

※平成20年6月調査開始

平年は平成20～21年

(2か年)の平均値

## Ⅷ. 野菜・花き病害虫の発生状況調査

### 1. 巡回調査における発生状況

#### 野菜害虫類の発生程度別基準

作物名	害虫名	項目	発生程度				
			無	少	中	多	甚
キャベツ ハクサイ	シロイチモジヨトウ、 ハスモンヨトウ、 ヨトウガ、 アオムシ、ウワバ類	A	0	1～5	6～15	16～30	31～
	コナガ	B	0	1～10	11～40	41～100	101～
	アブラムシ類	C	0	1～10	11～30	31～80	81～
タマネギ	ネギアザミウマ	D	0	1～25	26～50	51～200	201～

A：幼虫の寄生株率、B：10株当たり幼虫、C：寄生株率、D：1株当たり寄生虫数

#### 1) キャベツ

##### ①害虫の発生状況（和歌山市）

調査 月日	モモアカアブラムシ						ニセダイコンアブラムシ						アオムシ					
	発生程度別圃場数					発生株率 (%)	発生程度別圃場数					発生株率 (%)	発生程度別圃場数					発生株率 (%)
	無	少	中	多	甚		無	少	中	多	甚		無	少	中	多	甚	
4.15	1	6	1	0	0	24	8	0	0	0	0	0	7	1	0	0	0	3
10.22	5	6	0	0	0	3	2	2	5	2	0	16	4	1	5	1	0	8

調査 月日	コナガ						ウワバ類						ハスモンヨトウ					
	発生程度別圃場数					発生密度 頭/株	発生程度別圃場数					発生株率 (%)	発生程度別圃場数					発生株率 (%)
	無	少	中	多	甚		無	少	中	多	甚		無	少	中	多	甚	
4.15	6	2	0	0	0	0.01	8	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0
10.22	10	1	0	0	0	0.02	7	3	1	0	0	2	6	3	1	1	0	5

調査 月日	シロイチモジヨトウ					
	発生程度別圃場数					発生株率 (%)
	無	少	中	多	甚	
4.15	8	0	0	0	0	0
10.22	8	2	1	0	0	2

## 2) スイカ

### ①病害の発生状況（露地栽培 紀の川市貴志川町）

調査 月日	調査 圃場数	発生圃場数		
		つる枯病	うどんこ病	疫病
5.13	6	0	0	0
6.16	7	0	0	0

注) 1圃場50葉、20株調査

### ②病害の発生状況（露地栽培 御坊市、印南町）

調査 月日	調査 圃場数	発生圃場数			
		つる枯病	炭そ病	疫病	うどんこ病
5.13	12	0	0	0	0
6.17	11	0	0	0	0

注) 1圃場50葉、20株調査

### ③害虫の発生状況（露地栽培 印南町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類		カンザワハダニ		ナミハダニ		シロイチモジヨトウ		
		発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	被害生果率 (%)
5.14	14	43	3	79	19	14	0.7	21	1	—
6.16	12	58	10	33	9	8	2	58	0.4	4

注) 1圃場20葉、50果調査。被害果調査は果実片面（半球）のみ。



### 3) キュウリ

#### ①病害の発生状況（露地栽培、紀の川市貴志川町）

調査 月日	調査 圃場数	発生圃場数				
		べと病	うどんこ病	斑点細菌病	灰色かび病	疫病
5.13	6	0	0	0	0	0
6.16	7	7 (34.6)	1 (82.0)	0	0	0

注) 1圃場調査葉数：約50葉、（ ）は発生圃場での平均発病葉率(%)

#### ②病害の発生状況（施設栽培、紀の川市貴志川町）

調査 月日	調査 圃場数	発生圃場数				
		べと病	うどんこ病	斑点細菌病	灰色かび病	疫病
5.13	12	6 (29.3)	4 (6.0)	0	0	0
6.16	10	8 (30.5)	3 (42.7)	0	0	0

注) 1圃場調査葉数：約50葉、（ ）は発生圃場での平均発病葉率(%)

#### ③病害の発生状況（施設栽培、日高郡美浜町）

調査 月日	調査 圃場数	発生圃場数				
		べと病	うどんこ病	斑点細菌病	灰色かび病	疫病
3.5	10	3 (8.3)	4 (11.0)	0	1 (3.0)	0
4.9	12	5 (16.2)	3 (26.7)	0	2 (1.5)	0
5.13	13	6 (17.0)	7 (14.3)	1 (4.0)	-	0
6.14	12	7 (14.0)	7 (16.9)	1 (4.0)	-	0

注) 1圃場調査葉数：約50葉、（ ）は発生圃場での平均発病葉率(%)

### 4) ナス

#### ①病害の発生状況（紀の川市貴志川町）

調査 月日	調査 圃場数	発生圃場数		
		うどんこ病	疫病	モザイク病
6.16	施設 10	0	0	0
6.16	露地 2	0	0	0

注) 1圃場調査葉数：約50葉

②害虫の発生状況（露地：紀の川市貴志川町）

調査 月日	調査 圃場数	ハダニ類				アブラムシ類			
		ナミハダニ		カンザワハダニ		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ	
		発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)
6.17	10	0	0	40	11	80	11	80	22
7.21	10	10	6	50	20	0	0	10	1
8.24	10	0	0	40	19	10	1	60	7
9.22・24	10	0	0	20	8	20	2	70	24

調査 月日	調査 圃場数	ハモグリバエ類		カスミカメムシ類		ハスモンヨトウ		ニジュウヤホシテントウ	
		発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)
6.17	10	0	0	0	0	0	0	0	0
7.21	10	0	0	0	0	10	1	30	2
8.24	10	0	0	0	0	20	2	10	3
9.22・24	10	30	2	30	2	40	5	0	0

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類				コナジラミ類			
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		オンシツコナジラミ		タバココナジラミ	
		発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)
6.17	10	0	0	10	2	30	5	50	2
7.21	10	30	7	0	0	0	0	100	25
8.24	10	30	15	0	0	10	1	70	7
9.22・24	10	40	17	0	0	20	1	80	23

注) 1 圃場20葉調査

③害虫の発生状況（施設：紀の川市貴志川町）

調査 月日	調査 圃場数	ハダニ類				アブラムシ類			
		ナミハダニ		カンザワハダニ		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ	
		発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)
5.17	9	0	0	11	2	11	1	11	1
6.18	9	0	0	22	7	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類				コナジラミ類			
		ミナキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		オンシツコナジラミ		タバココナジラミ	
		発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)
5.17	9	22	6	0	0	33	12	0	0
6.18	9	44	19	11	1	56	23	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ハモグリバエ類		カスミカメムシ類		ハスモンヨトウ		ニジュウヤホシテントウ	
		発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)	発生圃場 率(%)	寄生葉率 (%)
		5.17	9	22	2	0	0	0	0
6.18	9	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場20葉調査

5) タマネギ

発生程度別基準

病害名	項目	発生程度				
		無	少	中	多	甚
べと病	越年罹病発生株率(%)	0	~0.1	~1.0	~10	11以上
	新病斑発生株率(%)	0	1~20	21~40	41~70	71以上
白色疫病	発病株率(%)	0	1~5	6~25	26~50	51以上
灰色かび病	発病度 <sup>1)</sup>	0	1~25	26~50	51~75	76以上

<sup>1)</sup> 発病程度を、a:葉身の萎凋、枯死、b:全ての葉身に多数の病斑、c:大半の葉身に病斑、d:展開した葉身に病斑が散見、e:葉身に病斑を認めない、としたとき、

$$\text{発病度} = (4a + 3b + 2c + d) * 100 / 4(a + b + c + d + e) \quad a + b + c + d + e = \text{調査株数}$$

①病害の発生状況

調査 月日	調査場所	べと病（新病斑発生株）					白色疫病						
		発生程度別圃場数					平均 発病 株率 (%)	発生程度別圃場数					平均 発病 株率 (%)
		無	少	中	多	甚		無	少	中	多	甚	
H22. 3.25	岩出市 根来	4	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0.5
	紀の川市 打田	9	0	0	0	0	0	7	2	0	0	0	0.9
	豊田	10	0	0	0	0	0	8	2	0	0	0	0.8
	長田	9	0	0	0	0	0	7	2	0	0	0	1.3
	藤崎	9	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0
	かつらぎ町 窪	9	3	0	0	0	2.0	11	1	0	0	0	0.2
発生圃場率 (%)		5.7						15.1					

②害虫の発生状況

調査月日	調査場所	ネギアザミウマ					
		発生程度別圃場数					平均密度 頭/株
		無	少	中	多	甚	
H22. 3. 16	和歌山市 小倉	2	1	0	0	0	0.03
	岩出市 根来	2	1	0	0	0	0.1
	紀の川市 豊田	1	2	0	0	0	0.6
	打田	0	3	0	0	0	0.6
	長田	1	2	0	0	0	0.06
	藤崎	2	1	0	0	0	1.0
	かつらぎ町 窪	0	3	0	0	0	0.6
	合計 平均	8	13	0	0	0	0.3

6) エンドウ

①病害の発生状況

調査 月日	調査場所	調査 圃場数	発生圃場数			
			褐紋・褐斑病	うどんこ病	つる枯細菌病	
H22. 10. 18	御坊市	4	0	0	0	
	印南町	11	0	0	0	
H22. 11. 18	御坊市	6	1 (15.0)	2 (17.5)	0	
	印南町	5	1 (20.0)	2 (57.5)	0	
H22. 12. 9	御坊市	5	1 (20.0)	1 (15.0)	0	
	印南町	9	2 (22.5)	4 (36.3)	0	
H23. 3. 10	御坊市	5	1 (3.0)	0	0	
	印南町	8	1 (4.0)	0	0	

注) 1圃場50葉調査 ( ) は発生圃場での平均発病株率(%)

②害虫の発生状況（露地：日高郡印南町）

②害虫の発生状況（露地：印南町）

調査 月日	調査 圃場数	シロイチモジヨトウ		ハスモンヨトウ		オオタバコガ	
		発生圃場率 (%)	寄生株率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生株率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生株率 (%)
9.17	18	56	9	44	5	6	1
10.18	19	47	11	32	5	58	9

注) 1圃場10株調査

7) トマト

①病害の発生状況

調査 月日	調査場所	調査 圃場数	発生圃場数	
			トマト黄化葉巻病	
H22.8.3	紀の川市	7	0	
H22.8.12	日高町	10	0	
H22.8.12	印南町	9	2	(15.0)

注1) 家庭菜園を含むトマトまたはミニトマト圃場

注2) 1圃場5～20株調査、( )は発生圃場での平均発病株率(%)

②害虫の発生状況（露地：日高郡印南町）

調査 月日	調査 圃場数	タバコナジラミ		オンシツコナジラミ		モモアカアブラムシ	
		発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)
H22.5.14	7	14	1	14	2	0	0

注) 1圃場30小葉調査

8) イチゴ

①害虫の発生状況

調査 月日	調査 圃場数	カンザワハダニ		ナミハダニ		ミカンキイロアザミウマ		アブラムシ類	
		発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生密度 (頭/花)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)
H22.4.16	5	60	12	0	0	0	0.0	0	0
H23.3.18	7	43	3	14	4	0	0	14	0.1

注) 1圃場20株調査

## 9) ダイズ

### ①吸実性カメムシの発生状況（紀の川市、慣行防除区）

調査 月日	ホソヘリカメムシ		クサギカメムシ		アオクサカメムシ		イチモンジカメムシ		ブチヒゲカメムシ	
	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
9.25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場25株調査（払い落とし）

## 2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況

フェロモントラップの設置場所

紀の川市 : 紀の川市貴志川町高尾

和歌山市 : 和歌山市祢宜

御坊市 : 御坊市名田町野島

印南町 : 日高郡印南町印南

### ①コナガ

(調査単位:頭)

月	半旬	紀の川市		和歌山市		月	半旬	紀の川市		和歌山市	
		本年	平年	本年	平年			本年	平年	本年	平年
1	1	0	1.8	6	2.4	7	1	0	0.2	1	0.3
	2	0	2.2	1	1.7		2	0	0.5	1	1.1
	3	0	1.7	0	2.6		3	0	0.2	3	0.4
	4	0	1.4	6	4.8		4	0	0.1	0	1.1
	5	0	1.0	6	1.0		5	0	0.0	0	0.5
	6	0	1.4	3	8.6		6	0	0.2	0	1.1
2	1	1	1.3	0	5.2	8	1	0	0.0	0	0.2
	2	2	1.2	2	5.1		2	0	0.1	0	0.2
	3	0	2.0	3	5.7		3	0	0.2	0	0.0
	4	0	1.7	1	5.1		4	0	0.1	0	0.1
	5	3	2.7	4	4.7		5	0	0.1	0	0.0
	6	6	2.0	2	5.2		6	0	0.1	0	0.1
3	1	7	2.0	5	4.9	9	1	0	0.0	0	0.0
	2	5	3.0	0	6.4		2	0	0.0	0	0.2
	3	5	4.2	6	5.9		3	0	0.1	0	0.2
	4	5	5.8	9	5.2		4	0	0.1	0	0.3
	5	10	7.7	10	7.8		5	0	0.0	0	0.3
	6	2	9.6	4	10.1		6	0	0.1	0	1.2
4	1	0	5.6	11	6.8	10	1	0	0.2	0	0.9
	2	2	6.7	1	6.5		2	0	0.1	0	0.7
	3	6	4.6	3	4.6		3	0	0.4	1	1.6
	4	5	5.1	1	4.1		4	0	0.2	0	1.7
	5	2	4.8	4	3.6		5	1	0.4	1	3.2
	6	3	4.1	2	3.1		6	0	1.3	1	7.0
5	1	3	2.1	2	3.4	11	1	0	1.0	1	5.1
	2	0	4.2	3	3.4		2	1	1.3	1	5.9
	3	4	4.4	4	6.2		3	0	1.4	0	8.2
	4	10	4.3	0	10.5		4	0	3.4	0	5.8
	5	1	5.1	0	4.9		5	0	3.3	2	6.9
	6	0	4.3	1	5.6		6	0	4.4	1	5.2
6	1	0	5.2	1	4.8	12	1	0	2.6	1	6.7
	2	0	4.3	1	5.4		2	1	3.5	0	3.0
	3	0	3.4	3	3.2		3	2	3.4	0	7.2
	4	0	1.9	10	2.8		4	0	2.6	0	3.8
	5	0	0.4	5	1.0		5	0	2.5	0	6.5
	6	0	0.7	1	0.2		6	0	0.9	0	3.8
合計		87	158.9	135	263.0						

②ハスモンヨトウ

(調査単位：頭)

月 半旬	紀の川市		和歌山市		御坊市		印南町 <sup>※1</sup>		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1	1	0	0.0	0	0.0	1	2.2	0	0.2
	2	0	0.0	0	0.0	0	2.6	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	1.5	0	0.0
	4	1	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	4	0.1	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
2	1	0	0.1	0	0.0	1	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	4	0.6	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	5	1.3	0	0.3
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.3
	5	0	0.1	0	0.0	5	0.7	0	0.2
	6	0	0.0	0	0.0	1	0.2	1	0.0
3	1	0	0.0	0	0.0	5	1.4	1	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	2	1.6	0	0.0
	3	1	0.1	0	0.0	1	1.7	0	0.0
	4	0	0.1	0	0.0	1	2.2	1	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	2	2.3	2	0.3
	6	1	0.1	0	0.1	0	4.1	0	0.0
4	1	0	0.1	0	0.0	1	4.0	0	0.6
	2	2	0.7	0	0.1	4	9.9	0	2.0
	3	0	1.4	0	0.1	13	11.7	0	4.1
	4	1	2.9	0	0.0	6	9.1	0	0.7
	5	0	3.0	0	0.1	13	10.7	0	2.0
	6	2	3.1	0	0.4	16	11.2	0	4.4
5	1	1	3.9	0	0.3	22	18.0	0	6.7
	2	0	5.5	0	1.3	22	28.4	0	6.4
	3	0	6.2	0	1.3	17	26.5	0	6.3
	4	2	5.9	0	2.2	20	29.3	0	10.7
	5	0	5.8	12	1.8	20	28.4	1	17.3
	6	10	7.2	14	2.2	7	17.3	1	11.3
6	1	8	6.3	2	1.2	46	23.6	0	7.8
	2	3	8.4	3	1.6	11	27.0	1	8.5
	3	3	12.7	6	2.4	8	47.6	5	16.3
	4	9	13.5	14	0.9	0	27.2	5	17.8
	5	23	13.4	37	1.7	0	33.0	8	21.8
	6	7	14.3	2	2.2	0	40.3	13	41.5

※1 印南町の調査は平成15年から開始した。  
平年値は平成15～21年（7か年）の平均。



(調査単位：頭)

月 半旬	紀の川市		和歌山市		御坊市		印南町※ <sup>1</sup>		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
7	1	2	17.6	5	1.4	27	60.3	欠	16.5
	2	7	17.3	12	1.0	54	63.2	9	11.2
	3	5	13.5	60	0.2	42	28.8	49	9.8
	4	9	14.6	25	0.3	1	28.8	41	7.4
	5	0	27.0	31	3.9	1	30.4	36	13.4
	6	8	36.6	38	4.0	1	63.7	33	62.3
8	1	2	42.2	35	4.1	54	91.5	20	19.6
	2	11	29.8	74	4.0	139	96.7	17	23.0
	3	13	28.5	87	6.9	72	55.4	16	19.9
	4	15	66.4	71	10.4	59	59.1	17	20.1
	5	38	104.3	41	16.8	47	90.8	45	36.3
	6	92	110.6	57	21.2	62	97.1	62	39.9
9	1	14	101.9	70	16.8	117	202.1	48	55.4
	2	42	108.4	241	28.9	133	165.4	42	52.6
	3	42	91.5	93	20.8	17	123.4	51	37.6
	4	28	99.5	71	32.2	5	155.5	49	20.4
	5	33	105.1	42	29.4	2	165.3	61	40.9
	6	24	143.8	92	52.0	152	155.4	100	39.9
10	1	14	202.4	85	38.7	612	437.7	61	61.3
	2	6	327.6	195	44.3	467	658.2	114	94.9
	3	17	301.9	77	64.7	301	584.4	128	110.1
	4	49	310.3	93	60.3	111	474.7	128	90.9
	5	71	346.0	57	63.7	210	282.8	129	101.9
	6	53	423.8	247	85.5	322	212.6	147	133.3
11	1	186	407.4	59	63.0	679	537.4	210	70.7
	2	74	378.6	47	59.5	288	368.9	121	71.9
	3	120	395.4	44	53.4	17	189.4	121	55.2
	4	92	166.9	28	33.0	4	83.9	121	58.2
	5	136	112.0	32	18.8	5	51.4	101	13.0
	6	44	93.2	22	16.6	1	25.6	87	13.0
12	1	74	26.8	7	7.7	36	39.7	40	6.7
	2	42	15.6	5	2.1	42	24.9	37	4.3
	3	50	6.5	14	1.6	24	18.3	33	2.0
	4	0	1.7	0	0.4	0	4.5	35	0.3
	5	0	0.9	0	0.3	2	3.8	36	2.0
	6	0	0.1	0	0.2	0	3.9	29	1.3
合 計	1487	4790.5	2247	888.0	4364	6161.7	2413	1604.7	

③シロイチモジヨトウ

(調査単位：頭)

月 半旬	紀の川市		御坊市		印南町 <sup>※1</sup>		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1	1	—	—	0	0.3	0	0.0
	2	—	—	0	0.2	0	0.0
	3	—	—	0	0.0	0	0.2
	4	—	—	0	0.1	0	0.2
	5	—	—	0	0.2	0	0.0
	6	—	—	0	0.0	0	0.0
2	1	—	—	0	0.0	0	0.0
	2	—	—	0	0.1	0	0.0
	3	—	—	1	0.1	0	0.2
	4	—	—	0	0.5	0	1.2
	5	—	—	0	0.7	0	0.2
	6	—	—	0	0.3	0	0.3
3	1	—	—	0	0.2	0	0.8
	2	—	—	0	0.2	0	0.5
	3	—	—	0	0.4	0	0.3
	4	—	—	0	0.4	0	1.0
	5	—	—	0	0.6	1	0.5
	6	—	—	0	1.3	0	0.8
4	1	0	0.0	0	0.8	0	4.3
	2	0	0.0	2	1.6	0	4.7
	3	0	0.0	2	2.6	0	5.4
	4	0	0.0	3	2.5	0	7.9
	5	0	0.1	10	7.3	0	7.0
	6	0	0.1	4	6.6	0	6.7
5	1	0	0.0	10	3.2	0	10.7
	2	0	0.3	18	4.4	0	12.1
	3	0	0.4	18	6.6	0	13.6
	4	0	0.7	8	10.9	0	11.1
	5	4	0.4	16	19.6	0	16.6
	6	15	1.6	14	28.8	1	26.4
6	1	2	1.2	13	20.9	1	30.1
	2	1	2.9	17	17.4	1	30.7
	3	1	5.0	23	29.5	1	32.4
	4	0	2.3	39	27.3	2	31.9
	5	1	3.4	13	39.7	5	47.9
	6	2	2.3	0	32.5	9	60.0

※1 印南町の調査は平成15年4月から開始した。  
平年値は平成15～21年（7か年）の平均。

(調査単位：頭)

月 半旬	紀の川市		御坊市		印南町 <sup>※1</sup>		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
7	1	6	3.2	42	23.1	欠	37.1
	2	1	3.2	44	23.3	5	35.7
	3	2	2.0	46	20.8	29	21.4
	4	1	2.3	14	28.8	25	14.4
	5	3	3.3	2	37.1	21	17.0
	6	3	4.6	9	34.4	18	32.9
8	1	4	2.4	21	30.0	17	29.3
	2	0	3.9	28	21.1	8	26.0
	3	2	4.5	38	24.9	4	24.4
	4	2	5.3	18	19.4	5	28.7
	5	2	11.9	4	28.4	20	22.7
	6	6	14.0	21	25.4	30	20.9
9	1	6	8.8	15	24.6	24	17.0
	2	17	8.6	24	16.7	30	19.0
	3	18	11.2	18	20.0	23	15.4
	4	2	10.4	33	10.4	9	11.9
	5	4	11.7	15	10.5	3	15.0
	6	8	11.5	11	9.3	16	16.7
10	1	8	4.9	9	10.4	3	15.9
	2	4	3.5	9	8.3	11	12.7
	3	9	3.0	6	8.4	21	14.4
	4	1	1.7	8	8.7	18	10.1
	5	0	2.3	29	9.2	21	10.6
	6	0	1.8	15	14.2	22	8.7
11	1	0	0.5	10	5.6	24	6.7
	2	0	0.1	13	3.4	12	7.6
	3	0	0.7	32	4.1	12	5.2
	4	0	0.1	22	3.8	12	3.0
	5	0	0.6	15	3.4	19	4.5
	6	0	0.2	45	2.9	22	4.7
12	1	1	0.2	15	1.1	15	2.3
	2	1	0.0	4	0.6	13	3.5
	3	0	0.1	4	0.8	10	3.0
	4	0	0.0	0	0.7	11	0.3
	5	0	0.0	2	0.4	11	1.9
	6	0	0.0	0	0.7	10	1.1
合 計	137	163.2	852	762.7	575	887.5	

④オオタバコガ

(調査単位：頭)

月	半旬	紀の川市		御坊市		印南町	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年※
1	1	—	—	0	0.0	0	0.7
	2	—	—	0	0.0	0	1.5
	3	—	—	0	0.0	0	1.7
	4	—	—	0	0.0	0	1.3
	5	—	—	0	0.0	0	2.8
	6	—	—	0	0.0	0	4.5
2	1	—	—	0	0.0	0	1.2
	2	—	—	0	0.0	0	0.8
	3	—	—	0	0.0	0	0.8
	4	—	—	0	0.0	0	1.0
	5	—	—	0	0.0	0	0.8
	6	—	—	0	0.0	0	0.0
3	1	—	—	0	0.0	0	0.5
	2	—	—	0	0.0	0	0.5
	3	—	—	1	0.0	0	0.5
	4	—	—	0	0.0	0	0.2
	5	—	—	0	0.0	0	0.3
	6	—	—	0	0.1	0	0.2
4	1	0	0.0	4	0.2	0	0.1
	2	0	0.1	1	0.4	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.3	0	0.3
	4	0	0.1	2	1.1	0	0.1
	5	0	0.4	0	1.2	0	0.6
	6	0	0.4	2	0.8	0	0.1
5	1	0	0.1	0	1.9	0	0.5
	2	0	0.5	2	2.3	0	1.9
	3	0	0.7	0	1.3	0	1.6
	4	1	0.6	0	0.7	0	0.3
	5	0	0.9	2	2.2	0	1.1
	6	0	0.5	5	1.2	0	1.1
6	1	0	0.4	0	1.5	0	1.3
	2	2	0.3	0	1.5	0	0.9
	3	2	0.4	0	1.8	0	0.7
	4	0	0.7	0	1.7	0	2.1
	5	1	0.7	1	2.6	1	2.3
	6	0	0.3	0	2.2	3	0.7

※ 印南町は平成15～21年（7か年）の平均。

(調査単位：頭)

月	半旬	紀の川市		御坊市		印南町	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年*
7	1	0	0.8	0	3.5	欠	3.4
	2	1	0.5	0	6.0	2	1.9
	3	2	0.6	1	2.8	8	2.3
	4	0	0.6	2	2.3	0	0.4
	5	0	0.7	0	2.3	1	0.4
	6	0	0.8	0	3.7	1	1.0
8	1	0	0.6	0	3.5	0	1.1
	2	3	0.8	1	1.9	0	0.2
	3	1	0.0	1	1.4	0	0.0
	4	0	1.7	0	1.0	0	0.3
	5	0	0.8	0	1.5	1	0.9
	6	2	2.7	0	0.9	1	2.0
9	1	3	1.7	0	1.3	3	1.4
	2	5	0.6	0	1.6	7	1.4
	3	3	1.8	0	2.2	欠	1.0
	4	0	1.6	0	2.5	欠	1.3
	5	0	2.1	0	7.9	欠	1.6
	6	1	4.3	0	6.1	欠	2.4
10	1	1	2.8	1	8.6	欠	3.3
	2	1	3.1	0	15.3	欠	5.0
	3	6	2.5	1	40.6	欠	5.4
	4	10	4.7	1	38.3	欠	7.6
	5	4	6.3	1	46.9	3	5.0
	6	0	5.1	9	51.5	7	3.6
11	1	4	4.1	11	17.4	13	5.9
	2	3	2.2	7	19.9	5	7.7
	3	2	3.1	7	8.1	5	6.0
	4	1	1.6	1	7.6	6	7.5
	5	6	0.4	2	5.4	4	2.5
	6	1	1.2	5	3.5	3	2.2
12	1	2	0.5	5	1.3	5	1.3
	2	1	0.1	0	0.9	3	2.0
	3	2	0.2	3	0.4	0	1.2
	4	0	0.0	0	0.1	1	0.0
	5	0	0.1	0	0.0	欠	0.7
	6	0	0.0	0	0.3	1	0.9
合 計		71	67.8	79	343.5	84	125.9

⑤カブラヤガ

		紀の川市	
月	半旬	本年	平年
	1	3	32.8
	2	7	43.0
4	3	0	43.0
	4	0	44.6
	5	43	60.1
	6	16	35.4
<hr/>			
	1	3	33.1
	2	0	31.5
5	3	9	22.8
	4	10	11.8
	5	0	7.6
	6	5	6.2
<hr/>			
	1	7	7.3
	2	3	9.8
6	3	7	18.7
	4	16	15.3
	5	9	15.2
	6	16	10.5
<hr/>			
	1	16	14.4
	2	37	16.4
7	3	6	6.6
	4	6	2.9
	5	0	1.9
	6	7	0.2
<hr/>			
	1	2	0.4
	2	0	1.0
8	3	1	1.7
	4	0	0.7
	5	2	0.4
	6	4	0.9

		紀の川市	
月	半旬	本年	平年
	1	6	4.0
	2	3	9.3
9	3	7	11.1
	4	6	14.2
	5	10	8.5
	6	8	4.7
<hr/>			
	1	7	7.0
	2	4	10.7
10	3	4	12.1
	4	5	12.7
	5	2	7.9
	6	11	11.2
<hr/>			
	1	13	8.3
	2	6	16.7
11	3	2	17.7
	4	2	17.5
	5	1	13.5
	6	3	12.5
<hr/>			
	1	4	12.5
	2	4	9.4
12	3	3	6.2
	4	0	4.1
	5	0	2.7
	6	0	1.3
<hr/>			
合	計	346	732.0

⑥ヨトウガ

		紀の川市	
月	半旬	本年	平年※
	1	0	1.0
	2	0	8.7
3	3	0	8.0
	4	0	1.3
	5	0	1.0
	6	0	9.8
<hr/>			
	1	0	3.1
	2	0	2.5
4	3	0	5.3
	4	0	5.2
	5	0	5.1
	6	1	4.0
<hr/>			
	1	0	0.4
	2	1	1.0
5	3	0	0.9
	4	0	0.6
	5	1	0.4
	6	0	0.1
<hr/>			
	1	0	0.1
	2	0	0.0
6	3	0	0.0
	4	1	0.0
	5	0	0.1
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
7	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.0

		紀の川市	
月	半旬	本年	平年※
	1	0	0.0
	2	0	0.0
8	3	0	0.0
	4	0	0.1
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.3
9	3	0	1.0
	4	0	1.7
	5	0	2.0
	6	0	2.8
<hr/>			
	1	0	2.3
	2	1	1.1
10	3	2	0.7
	4	1	0.1
	5	0	0.6
	6	0	0.2
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
11	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
合	計	8	71.5

※平年値は平成13～21年（9か年）の平均。

※紀の川市の3月の調査は平成18年から開始した。

3月の平均値は平成18～21年（4か年）の平均。

### 3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況

月 半旬	紀の川市	
	本年	平年
1	1	4.2
2	0	2.3
1 3	0	1.7
4	1	1.9
5	0	0.3
6	0	1.9
1	0	0.8
2	2	2.0
2 3	0	1.6
4	0	1.2
5	7	3.7
6	0	1.5
1	3	2.9
2	1	6.1
3 3	2	6.7
4	0	6.0
5	0	7.9
6	8	10.9
1	2	12.1
2	4	21.0
4 3	0	27.7
4	10	30.9
5	9	34.2
6	6	49.9
1	18	57.2
2	18	83.4
5 3	9	109.4
4	19	97.0
5	12	92.7
6	9	104.0
1	19	61.5
2	38	59.0
6 3	18	47.9
4	5	24.0
5	1	11.9
6	4	12.5

月 半旬	紀の川市	
	本年	平年
1	22	9.0
2	3	11.5
7 3	0	10.0
4	2	8.4
5	2	4.4
6	3	11.4
1	1	14.1
2	8	12.9
8 3	20	13.8
4	9	13.5
5	3	15.4
6	3	22.2
1	0	27.6
2	3	20.5
9 3	8	26.2
4	15	36.0
5	4	41.2
6	2	26.9
1	2	24.4
2	5	20.5
10 3	11	18.5
4	14	15.3
5	4	22.5
6	5	27.1
1	18	26.6
2	22	27.5
11 3	27	18.0
4	20	15.4
5	13	19.8
6	40	19.9
1	23	7.4
2	5	9.4
12 3	15	6.6
4	19	5.7
5	4	6.6
6	2	3.7
合 計	583	1619.8



## Ⅸ. 果樹病害虫の発生状況調査

### 1. 予察圃場における調査成績

#### 1) カンキツ

##### (1) 生育状況

##### a) 生育調査 (県予察ほ場) (月/日)

品種	発芽期	展葉期	開花期			不知火	発芽期	展葉期	開花期		
			初期	最盛期	終期				初期	最盛期	終期
早生温州	4/6	4/26	5/9	5/15	5/20		4/5	4/23	5/16	5/21	5/26
普通温州	4/7	4/23	5/12	5/16	5/21						

##### b) 果実肥大調査 (ヨコ径, cm)

品種	月日	7/15	8/ 1	8/15	9/ 1	9/15	10/1	10/15	11/1	11/15	12/ 1	12/15
早生温州		3.5	4.1	4.7	5.0	5.6	6.0	6.6	6.8	6.9	7.0	7.0
普通温州		3.3	4.1	4.7	4.7	5.1	5.5	6.0	7.0	7.2	7.3	7.4
不知火		3.7	4.6	5.4	5.9	6.5	7.4	7.9	8.5	8.6	8.7	8.8

摘要：早生温州の発芽期・展葉期は平年並で、開花期は5日程度遅かった。  
 普通温州の発芽期・展葉期は平年に比べ3日程度早く、開花期は5日程度遅かった。  
 不知火の発芽期・展葉期は平年並で、開花期は7日程度遅かった。  
 早生温州の果実肥大は、9月以降、平年に比べ大きく推移した。  
 普通温州の果実肥大は、生育期間を通じ、平年に比べ大きく推移した。  
 不知火の肥大は、生育期間を通じ、平年並で推移した。

##### (2) 黒点病

##### a) 発病状況調査 (県予察ほ場)

区	調査項目	6/中	7/中	8/中	9/中	10/中
無防除区	発病果率%	16.8	100.0	100.0	100.0	100.0
	発病度	2.7	25.6	46.3	63.6	91.5
防除区	発病果率%	3.2	3.2	16.4	27.6	58.0
	発病度	0.5	0.5	3.3	5.0	14.7

(注) 1区5樹, 1樹50果調査, 自然感染

防除区供試薬剤(散布日): ストビードライフロアブル2000倍(5/21)、エムダィファ水和剤600倍(6/9)、  
 ジマンダィン水和剤600倍(6/29、8/3、9/9)

摘要：県予察ほ場における果実の初発は5月31日で平年よりやや早かった。  
 5月中下旬に集中的な降雨があり、初期発病が多かった。8～9月は少雨で発病は少なく推移した。9月下旬から10月上旬にかけて後期発病がやや多かった。

##### (3) かいよう病

##### a) 発病状況調査 (県予察ほ場)

越冬病斑		春葉発病			果実発病		
調査月日	発病葉率	調査月日	発病葉率	発病度	調査月日	発病果率	発病度
3月19日	6.9%	6月18日	15.0%	6.4	7月16日	3.1%	0.4

(注) 21年生ネーブル

摘要：県予察ほ場での越冬病斑の発病葉率は平年に比べ低かった。春葉での初発は5月25日で平年並であった。春梢・夏梢の発病は平年並、果実発病は平年より少なかった。

(4) ヤノネカイガラムシ

a) 発生状況調査

県予察ほ場

虫数

調査月日	1令	雌2令	未成熟成虫	成熟成虫	合計
5. 6	0	0	0	5	5
5. 21	12	0	0	5	17
5. 26	36	0	0	5	41

摘要：発生が少ないため、5月5日に成虫の寄生葉をマークし、第1世代1令幼虫の初発状況を調査した。初発は5月21日で、平年並の発生であり、その後は平年並で経過した。

(5) ミカンハダニ

a) 発生状況調査

県予察ほ場

100葉当たり雌成虫数

調査月日	無防除園	防除園
3. 5	0	0
15	0	0
25	0	0
4. 5	0	0
15	0	0
26	0	0
5. 6	0	0
14	0	0
25	2	0
6. 4	2	0
15	0	0
25	2	0
7. 5	0	0
15	0	0
26	0	0
8. 5	1	0
16	6	0
25	13	1
9. 6	8	0
15	2	0
27	4	0
10. 5	4	0
15	20	0
25	9	0
11. 5	9	0
15	2	0
26	0	0
12. 6	0	0
15	0	0
24	0	0
1. 5	0	0
14	0	0
25	0	0
2. 4	0	0
15	0	0
25	1	0

摘要：無防除園における発生は、春先から8月上旬まで少発生で経過したが、8月中旬以降、秋期にかけて増加傾向を示した。防除園における発生は、8月下旬頃僅かにみられたが、他の時期には、みられなかった。

(6) チャノキイロアザミウマ

a) 発生状況調査 (黄色平板粘着トラップによる捕獲消長)

県予察ほ場

調査期間	No. 1	No. 2	計
4. 2 - 4. 8	2	0	2
9 - 15	0	3	3
16 - 22	0	0	0
23 - 29	0	0	0
30 - 5. 6	2	0	2
5. 7 - 13	0	0	0
14 - 20	3	4	7
21 - 27	7	4	11
28 - 6. 3	3	4	7
6. 4 - 10	2	1	3
11 - 17	8	2	10
18 - 24	26	11	37
25 - 7. 1	15	8	23
7. 2 - 8	5	8	13
9 - 15	25	26	51
16 - 22	8	14	22
23 - 29	24	16	40
30 - 8. 5	17	21	38
8. 6 - 12	34	40	74
13 - 19	31	29	60
20 - 26	39	28	67
27 - 9. 2	39	46	85
9. 3 - 9	39	44	83
10 - 16	36	31	67
17 - 23	23	34	57
24 - 30	28	17	45
10. 1 - 10. 7	39	30	69
8 - 14	65	43	108
15 - 21	21	26	47
22 - 28	3	4	7

摘要：7月上旬までの誘殺数および発生時期は平年並であった。

秋期の誘殺数が、やや多い傾向であった。

発生のピークは6月4,5半旬、7月中旬、8月上旬、9月上旬および10月2,3半旬の頃であった。

(7) ミドリヒメヨコバイ類

a) 発生状況調査(黄色平板粘着トラップによる捕獲消長)

県予察ほ場

調査期間	No. 1	No. 2	計
4. 2 - 4. 8	0	0	0
9 - 15	0	0	0
16 - 22	0	0	0
23 - 29	1	0	1
30 - 5. 6	0	0	0
5. 7 - 13	1	0	1
14 - 20	0	0	0
21 - 27	1	0	1
28 - 6. 3	1	0	1
6. 4 - 10	0	1	1
11 - 17	4	2	6
18 - 24	0	1	1
25 - 7. 1	0	0	0
7. 2 - 8	1	0	1
9 - 15	0	3	3
16 - 22	0	1	1
23 - 29	1	2	3
30 - 8. 5	3	1	4
8. 6 - 12	1	4	5
13 - 19	1	3	4
20 - 26	2	3	5
27 - 9. 2	3	1	4
9. 3 - 9	5	2	7
10 - 16	3	3	6
17 - 23	2	1	3
24 - 30	5	2	7
10. 1 - 10. 7	4	2	6
8 - 14	2	0	2
15 - 21	2	3	5
22 - 28	2	2	4

摘要：平年に比べ春期の発生はやや少なく、誘殺量は、8月以降10月にかけて増加傾向を示した。

## (8) カメムシ類

## a. 越冬量調査

チャバネアオカメムシ越冬量調査結果 (2010年)

採取場所名	採取日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
橋本市北馬場	2/28	2/28	-	-	0	0	
橋本市小原田	2/28	2/28	-	-	0	0	
橋本市清水	2/28	2/28	-	-	1	0	
橋本市学文路	2/28	2/28	-	-	0	0	
橋本市高野口町竹尾	2/25	2/25	-	-	0	0	
橋本市高野口町大野	2/25	2/25	-	-	1	0	
九度山町下古沢	2/25	2/25	-	-	0	0	
九度山町入郷	2/25	2/25	-	-	0	0	2
かつらぎ町短野	2/28	2/28	-	-	0	0	
かつらぎ町教良寺	2/28	2/28	-	-	0	0	
かつらぎ町御所	2/28	2/28	-	-	0	0	
かつらぎ町東谷	2/28	2/28	-	-	0	0	
紀の川市赤沼田	3/17	3/17	0	0	0	0	
紀の川市中尾	3/17	3/17	0	0	0	0	
紀の川市林ヶ峯	3/17	3/17	0	0	0	0	
紀の川市秋葉山	3/17	3/17	0	0	0	0	
紀の川市鞆淵	3/17	3/17	0	0	0	0	
紀の川市桃山町黒川	3/17	3/17	0	0	0	0	
紀の川市貴志川町高尾	3/17	3/17	0	0	0	0	
和歌山市大河内	2/25	2/26	0	0	0	0	
和歌山市境原	2/25	2/26	0	0	0	0	
和歌山市吉礼	2/25	2/26	0	0	0	0	
和歌山市伊太祁曾	2/25	2/26	0	0	0	0	
和歌山市黒岩	2/25	2/26	0	0	0	0	
和歌山市黒谷	2/25	2/26	0	0	0	0	
海南市上谷	2/25	2/26	0	0	0	0	
海南市赤沼	2/25	2/26	0	0	0	0	
海南市海老谷	2/25	2/26	0	0	0	0	
海南市東畑	2/25	2/26	0	0	0	0	
海南市別所	2/25	2/26	0	0	0	0	
海南市下津町沓掛	2/25	2/26	0	0	0	0	
海南市下津町小原	2/25	2/26	0	0	0	0	

(つづき)

採取場所名	採取日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
海南市下津町松尾	2/25	2/26	0	0	0	0	
海南市下津町興	2/25	2/26	0	0	0	0	
紀美野町西野	2/25	2/26	0	0	0	0	
紀美野町松瀬1	2/25	2/26	0	0	0	0	
紀美野町松瀬2	2/25	2/26	0	2	2	0	
紀美野町国木原	2/25	2/26	0	0	0	0	
紀美野町釜滝	2/25	2/26	0	0	0	0	
紀美野町大角1	2/25	2/26	0	0	0	0	
紀美野町大角2	2/25	2/26	0	0	0	0	
紀美野町永谷1	2/25	2/26	0	0	0	0	
紀美野町永谷2	2/25	2/26	0	1	1	0	
紀美野町津川1	2/25	2/26	0	0	0	0	
紀美野町津川2	2/26	2/26	0	0	0	0	
紀美野町明添	2/25	2/26	0	0	0	0	
果試場内No. 1	2/17	2/22	0	0	0	0	
果試場内No. 2	2/17	2/22	1	0	1	0	3
有田郡有田川町修理川	2/19	2/22	3	2	5	0	5
有田郡有田川町川口	2/19	2/22	0	0	0	0	
有田郡広川町津木	2/19	2/22	0	1	1	0	
有田郡広川町室川	2/19	2/22	0	0	0	0	
日高郡日高川町千津川	2/19	2/22	0	0	0	0	
日高郡印南町白河	2/19	2/22	0	0	0	0	4
日高郡みなべ町高城	3/ 3	3/11	1	0	1	0	
日高郡みなべ町広野	3/ 3	3/11	0	0	0	0	
日高郡みなべ町清川	3/ 3	3/11	0	1	1	0	
田辺市竹藪	3/ 3	3/11	1	2	3	1	
田辺市上野	3/ 3	3/11	0	0	0	0	
西牟婁郡上富田町岩田	3/ 3	3/11	0	0	0	0	
西牟婁郡白浜町口ヶ谷	2/18	2/27	0	0	0	2	1
東牟婁郡串本町重畳山	2/18	3/ 3	0	0	0	0	
東牟婁郡那智勝浦町井関	2/18	2/27	0	0	0	0	
新宮市木ノ川	2/18	2/27	2	2	4	0	

b) 誘殺状況調査

県予察ほ場（果樹試験場 20W青色蛍光灯1本）

調査月日		チャバネアカカメムシ			ツヤアオカメムシ			クサギカメムシ			アオクサカメムシ			前記4種 の合計
月	半旬	♀	♂	計	♀	♂	計	♀	♂	計	♀	♂	計	
4.	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5.	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	2	1	3	16	4	20	0	0	0	0	0	0	23
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6.	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	2	2	0	2	1	1	2	1	0	1	0	0	0	5
	3	1	9	10	14	5	19	0	0	0	0	0	0	29
	4	83	28	111	36	18	54	4	1	5	0	0	0	170
	5	12	2	14	2	0	2	0	1	1	0	0	0	17
	6	31	24	56	3	0	3	0	5	5	0	0	0	64
7.	1	48	28	76	0	3	3	1	2	3	0	0	0	82
	2	39	21	60	2	1	3	2	2	4	0	0	0	67
	3	15	10	25	0	0	0	5	1	6	0	0	0	31
	4	40	27	67	2	3	5	7	5	12	0	0	0	84
	5	88	42	130	0	0	0	12	13	25	0	0	0	155
	6	27	10	37	0	1	1	4	3	7	0	0	0	45
8.	1	17	4	21	0	0	0	3	3	6	0	0	0	27
	2	11	2	13	0	0	0	10	0	10	0	0	0	23
	3	23	4	27	2	0	2	7	8	15	0	0	0	43
	4	10	4	14	1	0	1	10	4	14	0	0	0	29
	5	12	2	14	0	0	0	1	1	2	0	0	0	16
	6	4	4	8	3	1	4	0	3	3	0	0	0	15
9.	1	6	2	8	2	0	2	0	0	0	0	0	0	10
	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	3	2	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	4	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10.	1	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	2
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

摘要：本年の果樹カメムシ類の誘殺数は平年に比べ多かった。チャバネアカカメムシおよびクサギカメムシは、6月中旬～8月下旬、ツヤアオカメムシは、5月下旬と6月中旬に増加傾向を示した。

## 2) カキ

### (1) 生育状況

品 種	発芽期	展葉期	開 花 期			収穫期
			始 期	最盛期	終 期	収穫盛期
平核無	本年 3月3日 平年比 -12	3月20日 -11	5月12日 +2	5月14日 +1	5月18日 +2	11月2日 +8
富 有	本年 3月14日 平年比 -6	4月2日 -5	5月22日 +4	5月24日 +4	5月27日 +3	11月30日 +12

注) - は平年より早く、+ は平年より遅いことを示す(単位:日)。

### (2) 炭疽病

#### a) 越冬病斑調査(発病枝率) 県予察ほ場

品 種	3/19
富 有	0 %
平核無	0

注) 富有3樹・平核無3樹平均、1樹50枝調査(無防除)

#### b) 発病状況調査 県予察ほ場

品 種	調査項目	9/18	10/14
富 有	発病果率	0%	0%
	発病枝率	0	0
平核無	発病果率	0	0
	発病枝率	0	0

注) 富有3樹・平核無3樹平均、1樹50果・50枝調査(無防除)

摘要: 越冬病斑、枝病斑、果実発病は認められなかった。

### (3) うどんこ病 県予察ほ場

#### a) 子のう殻越冬密度調査

品 種	調査月日	子のう殻 付着枝率	1枝当たりの 子のう殻数
富 有	3月19日	0.0 %	0.0
平核無	3月19日	3.3 %	0.1

注) 富有3樹・平核無3樹平均、1樹50枝調査(無防除)



b) 発病状況調査 県予察ほ場

品 種	調査項目	9/18	10/14
富 有	発病葉率	1.3 %	2.0 %
	発病度	0.1	0.2
平核無	発病葉率	32.7 %	77.3 %
	発病度	6.1	5.9

注) 富有3樹・平核無3樹平均、1樹100葉調査(無防除)

摘要: 子のう殻越冬密度は富有、平核無ともに平年より少なかった。生育期の発病は、富有では平年より少なく、平核無では平年より多かった。

(4) 落葉病

a) 発病状況調査 県予察ほ場

品 種	種 類	調 査 項 目	9/18	10/14
富 有	角斑落葉病	発病葉率	88.7 %	91.3 %
		発病度	20.2	29.3
	円星落葉病	発病葉率	0.0 %	95.3 %
		発病度	0.0	43.1
平核無	角斑落葉病	発病葉率	61.0 %	90.0 %
		発病度	15.4	28.0
	円星落葉病	発病葉率	0.0 %	88.0 %
		発病度	0.0	28.7

注) 富有3樹・平核無3樹平均、1樹100葉調査(無防除)

摘要: 富有では角斑落葉病・円星落葉病ともに平年よりも多かった。また平核無では角斑落葉病の発生はやや多く、円星落葉病の発生は平年より多かった。

(5) チャノキイロアザミウマ 県予察ほ場

県予察ほ場における誘殺数は平年よりやや少なかった(付表4参照)。

	被害果率(%)	被害度
6月24日	1.3	1.3

注) 平核無3樹平均、1樹50果調査(無防除)。

- (6) カキクダアザミウマ 県予察ほ場  
新成虫の6月の誘殺数は少なかった(付表4参照)。

	品 種	被害果率(%)	被害度
6月24日	平核無	9.3	1.3
	富 有	0.7	0.1

注) 各品種3樹平均、1樹50果調査(無防除)。

- (7) コガシラアワフキ  
6月下旬から発生が見られ、誘殺数は平年より少なかった(付表1参照)。

3) モ モ

(1) 生育状況

品 種	発芽期	開 花 期			収穫期
		始 期	最盛期	終 期	収穫盛期
白鳳	3月2日	3月26日	3月31日	4月7日	7月12日
本 年 平年比	-13	-7	-4	-4	+3

注) - は平年より早く、+ は平年より遅いことを示す(単位:日)。

- (2) シンクイムシ類  
フェロモントラップにおける、ナシヒメシンクイの誘殺数は平年並であった(付表2参照)。

付表1) 高圧水銀灯(100W)による害虫誘殺状況

かき・もも研究所(紀の川市粉河)

月	半旬	チャバネ アオカメ ムシ	ツヤアオ カメムシ	クサギカ メムシ	アオクサ カメムシ	チャハマキ	チャノコカ クモンハ マキ	コガシラ アワフキ
4	1	0	0	0	0	0	-	0
	2	-	-	-	-	-	-	-
	3	-	-	-	-	-	-	-
	4	-	-	-	-	-	-	-
	5	-	-	-	-	-	-	-
	6	-	-	-	-	-	-	-
	計	0	0	0	0	0	-	0
5	1	-	-	-	-	-	-	-
	2	-	-	-	-	-	-	-
	3	-	-	-	-	-	-	-
	4	-	-	-	-	-	-	-
	5	-	-	-	-	-	-	-
	6	1	2	0	0	0	-	0
	計	1	2	0	0	0	-	0
6	1	23	11	0	0	0	-	0
	2	5	6	0	0	0	-	0
	3	20	103	5	0	0	-	0
	4	137	261	15	0	0	-	0
	5	76	146	10	0	0	-	9
	6	252	495	35	0	0	-	29
	計	513	1022	65	0	0	-	38
7	1	225	238	28	0	0	-	26
	2	125	139	27	0	0	-	10
	3	54	27	16	0	0	-	1
	4	142	140	74	1	0	-	0
	5	95	52	139	0	0	-	1
	6	166	80	140	0	0	-	0
	計	807	676	424	1	0	-	38
8	1	193	56	118	0	0	-	0
	2	163	62	68	0	0	-	0
	3	158	132	83	0	0	-	0
	4	105	53	35	0	0	-	0
	5	51	17	18	0	0	-	0
	6	73	71	18	0	0	-	0
	計	743	391	340	0	0	-	0
9	1	59	115	14	0	0	-	0
	2	28	41	7	0	0	-	0
	3	21	17	5	0	0	-	0
	4	5	56	4	0	0	-	0
	5	11	97	0	0	0	-	0
	6	2	9	0	0	0	-	0
	計	126	335	30	0	0	-	0
10	1	2	16	0	0	1	-	0
	2	0	28	0	0	1	-	0
	3	1	12	0	0	0	-	0
	4	1	3	0	0	0	-	0
	5	0	4	0	0	0	-	0
	6	0	0	0	0	0	-	0
	計	4	63	0	0	2	-	0
合計		2194	2489	859	1	2	-	76

- : 欠測値

付表2)フェロモントラップによる害虫誘殺状況 (SEトラップ使用)

かき・もも研究所(紀の川市粉河)

月	半旬	ナンヒメシクイ		モモハモグリガ		コスカシバ		チャハマキ		チャノココクモンハマキ	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4	1	21	7.2	22	4.8	0	0.0	0	2.1	1	0.7
	2	10	15.2	33	4.5	0	0.0	0	5.1	6	1.8
	3	7	10.7	14	2.8	0	0.0	1	4.3	2	3.2
	4	3	8.7	11	2.5	0	0.0	0	6.4	3	8.7
	5	6	4.0	3	0.6	0	0.0	1	6.3	4	21.3
	6	4	3.8	21	0.2	0	0.3	0	5.7	27	18.7
	計	51	49.6	104	15.4	0	0.3	2	29.9	43	54.4
5	1	7	7.2	25	4.4	3	1.8	1	8.8	25	52.0
	2	2	4.9	29	16.7	7	2.8	0	4.5	31	35.1
	3	3	1.7	30	11.6	2	1.4	0	3.2	7	19.8
	4	3	1.8	596	13.8	6	1.6	1	0.7	16	9.9
	5	2	5.4	52	10.4	7	1.9	0	1.1	6	4.1
	6	6	17.8	41	4.9	1	2.5	0	0.8	1	2.0
	計	23	38.8	773	61.8	26	12.0	2	19.1	86	122.9
6	1	29	31.0	27	5.7	4	4.0	0	1.3	1	2.6
	2	22	24.9	22	8.3	9	3.4	0	1.7	0	4.4
	3	15	17.6	53	12.2	4	2.8	0	1.9	2	8.5
	4	20	13.7	118	10.3	4	2.8	0	3.1	0	17.2
	5	12	12.5	65	7.1	5	3.3	0	2.9	10	23.6
	6	20	15.8	46	5.1	4	2.0	0	1.8	7	32.7
	計	118	115.5	331	48.7	30	18.3	0	12.7	20	89.0
7	1	36	29.2	24	9.0	7	2.7	0	1.4	22	30.2
	2	15	19.9	55	19.0	13	2.1	0	1.9	11	13.6
	3	11	24.1	224	12.9	2	1.8	0	0.9	5	4.2
	4	9	26.7	69	8.9	4	1.4	0	0.6	3	4.2
	5	29	29.9	90	7.9	6	1.9	0	0.9	7	5.0
	6	34	49.9	166	23.4	2	2.0	0	1.9	6	8.6
	計	134	177.3	628	79.8	34	11.7	0	7.5	54	65.4
8	1	58	43.6	268	13.9	0	2.3	0	1.6	6	20.1
	2	50	30.3	209	8.9	4	2.5	0	2.3	8	11.0
	3	31	36.8	269	4.4	1	4.0	0	2.1	4	7.4
	4	67	39.8	44	5.8	2	2.2	0	1.7	9	7.1
	5	38	33.3	39	6.6	4	2.9	0	0.9	2	2.0
	6	50	34.6	20	11.9	2	3.9	0	1.2	1	1.8
	計	294	218.4	849	51.5	13	17.8	0	9.8	30	49.4
9	1	36	23.4	14	13.1	2	4.4	0	1.9	1	5.1
	2	31	22.0	5	13.1	2	6.0	0	2.5	1	4.6
	3	16	12.4	0	27.2	4	5.1	0	1.4	3	7.6
	4	6	10.7	1	54.9	4	10.0	0	1.7	5	10.6
	5	12	5.5	11	30.1	6	9.1	1	1.1	13	11.9
	6	3	4.1	10	20.9	1	3.1	0	1.4	10	13.4
	計	104	78.1	41	159.3	19	37.7	1	10.0	33	53.2
10	1	7	1.4	9	15.6	2	3.8	0	2.7	16	14.7
	2	5	1.0	2	10.8	2	2.7	0	5.8	9	20.6
	3	0	0.8	1	5.2	5	4.0	0	6.6	7	15.3
	4	2	0.3	0	2.2	2	1.1	1	7.8	10	18.4
	5	0	0.4	0	0.4	2	0.2	0	5.8	8	10.5
	6	0	0.3	0	0.9	0	0.2	0	7.3	8	15.8
	計	14	4.0	12	35.1	13	12.0	1	36.0	58	95.3
合計	738	681.7	2738	451.6	135	109.8	6	125.0	324	529.6	

注) 平年値は平成12~21年の誘殺数から求めた。

付表3)フェロモントラップによる害虫誘殺状況

## モモシンクイガ

月 半旬	紀の川市粉河 (モモ園)		紀の川市 桃山町元 (モモ園)		紀の川市杉原 (ナシ園)		紀の川市東野 (ナシ園)		かつらぎ町 東洪田 (モモ園)		
	本年	平年	本年	平年	本年	前年	本年	前年	本年	平年	
4	1	0	0.0	0	0.0	-	-	-	-	-	-
	2	0	0.0	0	0.0	-	-	-	-	-	-
	3	0	0.0	0	0.0	-	-	-	-	-	-
	4	0	0.0	0	0.0	-	-	-	-	-	-
	5	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	6	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	計	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
5	1	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	2	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	3	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	4	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	5	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	2	-
	6	0	0.1	0	0.0	0	-	0	-	1	-
	計	0	0.1	0	0.0	0	-	0	-	3	-
6	1	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	1	-
	2	0	0.9	0	0.0	0	-	0	-	1	-
	3	0	0.4	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	4	0	0.7	0	0.0	0	-	0	-	10	-
	5	0	0.3	0	0.0	0	-	0	-	7	-
	6	0	0.1	0	0.0	0	3	0	0	3	-
	計	0	2.4	0	0.0	0	3	0	0	22	-
7	1	0	0.0	0	0.0	0	2	0	0	0	-
	2	0	0.0	0	0.0	0	3	0	0	0	-
	3	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	1	-
	4	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	-
	5	0	0.2	0	0.0	0	1	0	0	1	-
	6	0	0.0	0	0.0	0	1	0	0	2	-
	計	0	0.2	0	0.0	0	7	0	0	4	-
8	1	0	0.0	0	0.0	1	0	0	0	1	-
	2	0	0.1	0	0.0	0	0	0	0	0	-
	3	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	-
	4	0	0.0	0	0.3	0	0	0	0	0	-
	5	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	-
	6	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	-
	計	0	0.1	0	0.3	1	0	0	0	1	-
9	1	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	-
	2	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	-
	3	0	0.0	0	0.0	0	0	0	-	0	-
	4	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	5	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	6	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	計	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	-
10	1	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	2	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	3	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	4	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	5	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	6	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
	計	0	0.0	0	0.0	0	-	0	-	0	-
合計	0	2.8	0	0.0	1	10	0	0	30	-	

供試トラップ : 1Cトラップ(~2006年)、SEトラップ(2007年~)

紀の川市粉河の平年値は平成9~14年、平成18~21年の平均

紀の川市桃山町元の平年値は平成18~21年の平均

紀の川市杉原、紀の川市東野は平成21年から、かつらぎ町東洪田は平成22年から調査を開始した。

付表4)黄色粘着トラップによる害虫誘殺状況  
かき・もも研究所(紀の川市粉河)

月 半旬	チャノキイロアザミウマ		カキクダアザミウマ		
	本年	平年	本年	平年	
4	1	0	0.6	0	0.7
	2	1	0.7	0	0.7
	3	0	0.1	0	1.0
	4	0	0.0	1	2.1
	5	0	0.0	0	0.7
	6	0	1.6	0	1.3
	計	1	3.0	1	6.4
5	1	1	1.9	1	1.2
	2	0	2.1	1	1.5
	3	1	2.0	0	0.3
	4	5	4.3	1	1.0
	5	4	9.9	0	1.3
	6	0	5.8	0	9.3
	計	11	25.6	3	14.5
6	1	1	3.8	0	15.0
	2	2	5.0	0	28.0
	3	1	8.2	2	36.7
	4	11	19.0	10	30.2
	5	12	16.5	7	11.8
	6	8	15.3	3	7.8
	計	35	67.8	22	129.5
7	1	3	26.9	4	1.7
	2	30	39.6	2	1.0
	3	27	23.7	1	1.1
	4	17	30.1	0	1.3
	5	5	32.1	0	0.2
	6	13	34.0	0	0.1
	計	95	184.0	7	5.3
8	1	6	39.2	0	0.2
	2	45	21.8	0	0.2
	3	54	24.9	0	0.3
	4	32	24.6	0	0.0
	5	34	26.0	0	0.0
	6	49	29.6	0	0.0
	計	220	163.1	0	0.7
9	1	55	19.2	0	0.0
	2	77	17.5	1	0.0
	3	38	19.7	0	0.0
	4	27	19.5	0	0.1
	5	32	16.2	0	0.2
	6	14	18.7	0	0.1
	計	243	109.2	1	0.4
10	1	23	9.5	0	0.0
	2	6	6.5	0	0.0
	3	1	2.3	0	0.0
	4	3	1.0	0	0.0
	5	0	0.6	0	0.0
	6	0	0.3	0	0.0
	計	33	20.2	0	0.0
合計	638	1001.3	34	143.6	

注) 20×20cmの黄色粘着板1基当たりの表裏合計の虫数を示す。  
平年値は平成12～21年までの平均を示す。

#### 4) ウ メ

##### (1) 生育状況

品種	開花期			発芽期	収穫期*		
	始期	最盛期	終期		始期	最盛期	終期
南高	2/8	2/18	2/24	3/20	6/11	6/14	6/17

\*収穫期は青ウメでの時期

##### (2) 黒星病

###### 果実発病調査

調査項目	調査月日			
	5月8日	5月14日	5月28日	6月24日
発病果率%	2.6	32.0	67.8	79.0
発病度	2.6	8.5	24.3	41.7

注) 品種：南高 5樹、1樹100果調査(無防除)

摘要：果実での初発は5月上旬で、5月中旬から5月下旬にかけて急激に増加し、6月下旬には甚発生となった。

###### 新梢発病調査

調査項目	調査月日		
	7月8日	8月11日	10月29日
発病新梢率%	4.0	12.0	12.8

注) 品種：南高 5樹、1樹50新梢(徒長枝)調査(無防除)

摘要：新梢での発病は7月上旬から認められ、8月下旬にかけて増加し、その後は新たな発病はほとんどなかった。

##### (3) かいよう病

###### 果実発病調査

調査項目	果実発病		
	4月15日	5月1日	5月14日
発病率%	3.8	38.4	49.8
発病度	0.6	6.7	9.2

注) 品種：南高 5樹、1樹100果調査(無防除)

摘要：果実での初発は4月中旬であった。その後、5月上旬にかけて急激に増加し、5月下旬には多発生となった。2年生枝の潜伏越冬病斑は認められなかった。

###### 新梢発病調査

調査項目	調査月日		
	7月8日	8月11日	11月15日
発病新梢率%	5.6	14.0	14.0

注) 品種：南高 5樹、1樹50新梢(徒長枝)調査(無防除)

摘要：新梢での発病は7月上旬から認められ、8月中旬にかけて増加し、その後は新たな発病はほとんどなかった。

## (4) すず斑病

## 果実発病調査

調査項目	調査月日	
	6月14日	6月24日
発病果率%	12.8	54.4
発病度	2.8	21.0

注) 品種：南高 5樹、1樹100果調査(無防除)

摘要：初発は6月中旬で6月下旬かけて急激に増加し、多発生となった。

## (5) ハダニ類

## 発生状況調査

調査月日	100葉あたり 雌成虫数	調査月日	100葉あたり 雌成虫数
4. 20	0.0	7. 26	0.0
27	0.0	8. 2	0.0
5. 5	0.0	9	0.0
11	0.4	16	0.0
17	1.6	20	0.0
22	1.2	25	0.0
28	3.2	9. 1	0.0
31	6.8	8	0.0
6. 4	15.2	14	0.0
7	20.0	21	0.0
10	25.2	27	0.0
16	31.0	10. 1	2.6
22	19.6	7	7.2
28	7.2	13	3.8
7. 5	1.0	19	0.8
12	0.0	26	0.6
20	0.0		

注) 調査地点：うめ研究所内 品種：南高 5樹平均 無防除

摘要：5月上旬から寄生し始め、6月中旬にピークがあり、7月上旬に認められなくなったが、10月上旬に再び寄生し、落葉まで認められた。発生期間を通じて少発生に推移した。



## (6) カメムシ類

誘殺状況調査 (病虫害防除所みなべ駐在 100W水銀灯 1本)

調査時期 月・半月	チャハネアオ カメムシ	ツヤアオ カメムシ	クサギ カメムシ	前記3種の 合計
4. 1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	0	0	0	0
4	0	0	0	0
5	0	2	0	2
6	1	2	0	3
5. 1	58	144	0	202
2	41	391	0	432
3	0	8	0	8
4	9	63	0	72
5	438	1635	4	2077
6	24	54	1	79
6. 1	17	59	1	77
2	150	269	0	419
3	88	662	3	753
4	424	1109	8	1541
5	550	938	34	1522
6	1253	682	71	2006
7. 1	845	429	80	1354
2	498	92	32	622
3	295	128	17	440
4	166	612	28	806
5	339	121	78	538
6	216	115	40	371
8. 1	138	49	40	227
2	110	72	7	189
3	160	83	27	270
4	243	96	40	379
5	200	46	23	269
6	147	25	2	174
9. 1	286	35	6	327
2	242	27	1	270
3	181	60	9	250
4	139	65	8	212
5	111	92	8	211
6	20	4	0	24
10. 1	41	1	0	42
2	47	3	0	50
3	5	1	0	6
4	0	2	0	2
5	0	1	0	1
6	0	0	0	0
11. 1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	0	0	0	0
4	0	0	0	0
5	0	0	0	0
6	0	0	0	0

摘要：チャハネカメムシは4月6半月から10月3半月まで誘殺され、越冬成虫が6月6半月をピークに長期間に極めて多く誘殺された。

ツヤカメムシは4月5半月から10月5半月まで誘殺され、越冬成虫が5月5半月と6月4半月をピークに長期間に極めて多く誘殺された。

## (7) ウメシロカイガラムシ

歩行幼虫発生状況調査（両面テープトラップによる）

調査時期 月・半旬	頭/トラップ/日	調査時期 月・半旬	頭/トラップ/日
4. 1	0.0	7. 1	68.0
2	0.0	2	0.0
3	0.0	3	0.0
4	0.0	4	0.0
5	3.3	5	0.0
6	8.0	6	0.0
5. 1	0.7	8. 1	0.0
2	0.0	2	0.0
3	0.0	3	0.0
4	0.0	4	0.0
5	0.0	5	16.3
6	0.0	6	72.0
6. 1	3.0	9. 1	2.3
2	0.0	2	0.0
3	0.3	3	0.0
4	0.0	4	0.0
5	0.0	5	0.0
6	42.0	6	0.0

注) 調査地点：うめ研究所内 3トラップ平均

摘要：第1世代は4月5半旬から5月1半旬まで、第2世代は6月6半旬から7月1半旬まで、第3世代は8月5半旬から9月1半旬までの発生であった。それぞれの世代の発生ピークは4月6半旬、7月1半旬、8月6半旬であった。

## (8) アメリカシロヒトリ

雄成虫誘殺状況調査（フェロモントラップによる）

調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ
5. 1	0	7. 4	45
2	0	5	109
3	0	6	10
4	0	8. 1	0
5	1	2	0
6	13	3	0
6. 1	6	4	0
2	0	5	1
3	0	6	11
4	0	9. 1	0
5	0	2	0
6	0	3	0
7. 1	0	4	0
2	7	5	0
3	40	6	0

注) 調査地点：みなべ町西本庄現地

摘要：第1世代は5月5半旬から6月1半旬、第2世代は7月2半旬から7月6半旬まで、第3世代は8月5半旬から8月6半旬までの発生であった。第1、第2、第3世代の発生ピークはそれぞれ5月6半旬、7月5半旬、8月6半旬であった。

## 2.巡回調査結果

1)カンキツ  
(1)6月調査  
(16~17日)

2010年

品種	地区	調査園数	黒点病		灰色かび病	かいよう病				ミカンハ			ミウマ	イロアザ	チャノキ	アブラムシ	ハナムグリ	カミキリ	ゴマダラ	ナメクジ	コハン症	
			発病果率	発病度	発病果率	発病果率	発病度	発病葉率	発病度	寄生葉率	100葉♀成虫	春葉被害度	寄生果率	100果当寄生虫	寄生枝率	被害果率	食害	成虫数	被害果率	発生果率		
ウンシュウ	下津	8	3.8	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.4	22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	1.9	0.3	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	32.2	220	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	0.8	0.1	0.0	0.0	0.0	0.8	0.3	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	7.2	2.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	30.6	73	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
ウンシュウ平均	34	3.0	0.7	0.4	0.0	0.0	0.2	0.1	19.2	95	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	
ほ場率			26.5		11.8	0.0		2.9		38.2		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	

ハッサク	平均	5	0.7	0.1	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	15	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		20.0		20.0	0.0		0.0		40.0		0.0		0.0	0.0	20.0		20.0	0.0	0.0	0.0
ナツダイダイ	平均	7	3.3	0.5	0.0	1.0	0.1	8.2	2.1	14.8	30	0.0	1.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		42.9		0.0	14.3		57.1		28.6		14.3		0.0	0.0		0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
ネーブル	平均	4	17.5	3.9	0.0	0.0	0.0	4.8	1.6	35.0	85	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		100.0		0.0	0.0		50.0		75.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
イトカン	平均	4	0.0	0.0	0.0	0.8	0.1	0.4	0.1	10.8	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		0.0		0.0	25.0		25.0		25.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
キヨミ	平均	7	22.4	13.4	0.5	0.0	0.0	0.3	0.2	6.2	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		71.4		14.3	0.0		14.3		42.9		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
シラヌイ	平均	5	37.3	8.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		80.0		0.0	0.0		0.0		20.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中晩柑平均	平均	32	12.9	4.7	0.1	0.1	0.0	0.7	0.3	7.3	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		53.1		6.3	6.3		25.0		37.5		3.1		0.0	0.0	3.1		9.4	0.0	0.0	0.0
柑橘総平均	平均	66	7.8	2.7	0.3	0.1	0.01	0.4	0.2	13.4	56	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		39.4		9.1	3.0		13.6		37.9		1.5		0.0	0.0	1.5		7.6	0.0	0.0	0.0

(2)7月調査  
(13~14日)

2010年

品種	地区	調査園数	黒点病		そうか病		かいよう病				ミカンハダニ		ミウマ	チャノキイロアザ	ハナムグリ	ゴマダラカミキリ		ナメクジ	コハン症	
			発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	寄生葉率	100葉♀虫数	寄生率	100果当寄生虫	被害果率	食害	成虫数	被害果率
ウンシュウ	下津	8	9.6	1.4	3.3	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	17.9	34	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	2.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
	日高	8	17.1	2.4	0.8	0.2	1.3	0.2	4.1	1.2	0.4	0	2.5	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	18.3	3.6	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.2	19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
ウンシュウ平均	34	10.3	1.6	1.1	0.4	0.3	0.04	1.0	0.3	5.7	11	0.8	0.9	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	
ほ場率			44.1		8.8		5.9		5.9		29.4		14.7		0.0		5.9		0.0	0.0

ハッサク	平均	5	9.3	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.2	2.7	11	1.3	1.3	2.0	0.0	0.2	2.0	0.0
	ほ場率		20.0		0.0		0.0		20.0		20.0		20.0		20.0		20.0		40.0
ナツダイダイ	平均	7	7.1	1.2	0.0	0.0	10.5	3.8	12.9	2.7	4.8	9	0.5	0.5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
	ほ場率		71.4		0.0		57.1		85.7		28.6		14.3		0.0		14.3		0.0
ネーブル	平均	4	30.0	6.2	0.0	0.0	3.3	1.2	7.0	2.1	5.0	5	3.3	3.3	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0
	ほ場率		100.0		0.0		25.0		50.0		50.0		25.0		0.0		25.0		0.0
イロカン	平均	3	4.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.9	28.9	106	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	8.9
	ほ場率		100.0		0.0		0.0		66.7		66.7		33.3		0.0		0.0		0.0
キヨミ	平均	7	23.3	7.8	0.0	0.0	11.0	5.1	3.2	1.1	1.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		57.1		0.0		14.3		28.6		14.3		0.0		0.0		0.0		0.0
シラヌイ	平均	5	12.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.6	1.3	1	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		80.0		0.0		0.0		20.0		20.0		40.0		0.0		0.0		0.0
中晩柑平均	平均	31	11.5	2.9	0.0	0.0	2.9	1.3	2.4	0.7	3.9	11	1.4	1.4	0.0	0.0	0.1	0.0	0.9
	ほ場率		67.7		0.0		19.4		45.2		29.0		19.4		3.2		9.7		6.5

柑橘総平均	平均	65	10.9	2.2	0.6	0.2	1.5	0.6	1.6	0.5	4.8	11	1.1	1.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.4
	ほ場率		55.4		4.6		12.3		24.6		29.2		16.9		1.5		7.7		3.1

(3)8月調査  
(18~19日)

2010年

品種	地区	調査園数	黒点病		そうか病		かいよう病				ミカンハ			ミウマ		チャノキ		ハナムグリ		カミキリ		ゴマダラ		ナメクジ		コハン症	
			発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	寄生葉率	100当雌虫	春葉被害度	寄生果率	100当寄生中	被害果率	食害	成虫数	被害果率	発生果率	被害果率	発生果率			
ウンシュウ	下津	7	14.8	2.4	0.0	0.0	0.5	0.5	0.1	0.0	34.8	141	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	3.8	0.7	0.0	0.0	1.3	0.2	0.6	0.2	32.5	88	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	28.9	6.2	0.0	0.0	0.6	0.1	0.3	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ウンシュウ平均	33	9.5	1.8	0.0	0.0	0.5	0.2	0.2	0.05	17.7	56	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
ほ場率		45.5		0.0		12.1		12.1		60.6			0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0	

ハッサク	平均	4	25.8	18.0	0.0	0.0	1.7	0.5	2.5	0.4	9.2	30	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		50.0		0.0		25.0		25.0		50.0			0.0		25.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
ナツダイダイ	平均	7	4.8	0.7	0.0	0.0	12.4	4.1	7.8	1.8	9.5	20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		57.1		0.0		57.1		85.7		42.9			0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
ネーブル	平均	4	26.7	11.0	0.0	0.0	7.5	2.7	4.0	0.9	30.8	101	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		75.0		0.0		50.0		75.0		50.0			25.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
イロカン	平均	4	2.5	0.8	0.0	0.0	3.3	0.7	1.9	0.3	0.8	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4
	ほ場率		50.0		0.0		50.0		75.0		25.0			0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		50.0
キヨミ	平均	7	13.3	5.7	0.0	0.0	7.1	2.4	2.9	0.8	24.3	70	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		71.4		0.0		14.3		42.9		71.4			0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
シラヌイ	平均	5	3.3	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.5	8.7	12	0.0	3.3	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		20.0		0.0		0.0		40.0		40.0			20.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
中晩柑平均	平均	31	7.3	2.9	0.0	0.0	3.0	1.0	1.7	0.4	11.0	31	0.0	0.6	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4
	ほ場率		54.8		0.0		32.3		58.1		48.4			6.5		3.2		0.0		0.0		0.0		0.0		6.5

柑橘総平均	平均	64	8.4	2.4	0.0	0.0	1.7	0.6	0.9	0.2	14.4	44	0.0	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	ほ場率		50.0		0.0		21.9		34.4		54.7			3.1		1.6		0.0		0.0		0.0		0.0		3.1

(4)10月調査 病害  
(12~13日)

2010年

品種	地区	調査園数	黒点病		そうか病		かいよう病				褐色腐敗病	緑かび病
			発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病葉率	発病度	発病果率	発病果率
ウンシュウ	下津	8	16.3	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
	有田	12	6.9	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
	日高	8	22.9	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.4	0.0	2.5
	西牟婁	6	18.9	7.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
ウンシュウ平均		34	15.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	1.3
ほ場率			67.6		0.0		0.0		5.9		0.0	38.2

ハッサク	平均	5	13.3	5.9	0.0	0.0	1.3	0.2	0.4	0.1	0.0	0.0
	ほ場率		20.0		0.0		20.0		20.0		0.0	0.0
ナツダイダイ	平均	7	14.8	2.8	0.0	0.0	11.4	3.4	9.8	2.1	0.0	0.0
	ほ場率		71.4		0.0		57.1		85.7		0.0	0.0
ネーブル	平均	4	40.0	8.3	0.0	0.0	12.5	3.7	2.9	0.7	0.0	0.0
	ほ場率		100.0		0.0		75.0		50.0		0.0	0.0
イロカン	平均	4	2.5	0.4	0.0	0.0	1.7	0.5	1.4	0.3	0.0	0.0
	ほ場率		50.0		0.0		25.0		50.0		0.0	0.0
キヨミ	平均	7	11.9	4.7	0.0	0.0	13.3	6.9	0.8	0.2	0.0	0.0
	ほ場率		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0
シラヌイ	平均	5	2.7	0.4	0.0	0.0	2.7	0.4	0.3	0.1	0.0	0.7
	ほ場率		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0
中晩柑平均		32	8.3	2.2	0.0	0.0	5.1	2.1	0.8	0.2	0.0	0.1
	ほ場率		37.5		0.0		28.1		34.4		0.0	0.0
柑橘総平均		66	11.8	2.8	0.0	0.0	2.5	1.0	0.6	0.1	0.0	0.7
	ほ場率		53.0		0.0		13.6		19.7		0.0	19.7

(4)10月調査 虫害  
(12~13日)

2010年

品種	地区	ミカンハ			ロチャノキ マザミウ				ハナムグリ	ヤノネカイ ガラムシ	夜蛾	コナカイガ ラムシ	カミキリ	ゴマダラ	ナメクジ	ヤニ果	コハン症
		寄生葉率	100 葉当 ♀成虫	春葉 被害度	果頂部		果梗部										
					被害 果率	被害 度	被害 果率	被害 度									
ウンシュウ	下津	2.5	5	57.3	4.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	4.2	6	46.0	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	2.1	2	30.3	5.0	0.8	0.8	0.1	0.0	0.4	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	1.1	1	49.7	13.9	7.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ウンシュウ平均		2.7	4	45.6	4.8	1.7	0.2	0.0	0.0	0.3	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ほ場率		32.4			38.2		2.9		0.0	5.9	11.8	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0

ハッサク	平均	0.0	0	20.1	18.0	4.4	4.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率	0.0			100.0		40.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0
ナツダイダイ	平均	0.0	0	42.0	2.4	0.6	5.2	1.8	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
	ほ場率	0.0			14.3		28.6		0.0	28.6	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0
ネーブル	平均	12.5	23	80.0	5.8	1.5	8.3	2.5	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率	50.0			75.0		75.0		0.0	25.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0
イロカン	平均	3.3	7	71.3	2.5	0.4	0.8	0.1	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9
	ほ場率	50.0			50.0		25.0		0.0	25.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0
キヨミ	平均	5.2	10	39.6	10.0	2.9	11.4	2.7	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
	ほ場率	0.0			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0
シラヌイ	平均	3.3	5	25.3	23.3	6.6	0.7	0.1	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
	ほ場率	0.0			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0
中晩柑平均	平均	3.6	7	31.5	6.9	1.9	3.8	0.9	0.1	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
	ほ場率	12.5			34.4		25.0		0.0	12.5	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	18.8
柑橘総平均	平均	3.2	5	38.8	5.8	1.8	1.9	0.5	0.1	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
	ほ場率	22.7			36.4		13.6		0.0	9.1	6.1	0.0	0.0		0.0	0.0	9.1

2)かき

(1)5月調査(11、13日)

「富有」

地区名	園番号	調査場所		炭そ病 発病新梢率 %	うどんこ病		灰色かび病 発病新梢率 %	フジコナ <sup>*1</sup> 寄生花蕾率 %	カキクダ <sup>*2</sup> 被害葉率 %	マイマイガ 被害葉率 %	ハダニ <sup>*3</sup> 被害葉率 %
		市町村	字		発病葉率 %	発病度					
伊都	1	橋本市	柏原	0	0	0.0	2	0	0	2	0
	2		市脇	0	0	0.0	0	0	0	1	0
	3		有岡	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	4		山田	0	0	0.0	0	0	0	0	1
	5	九度山町	広良	0	0	0.0	2	0	0	0	0
	6		入郷	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	7	橋本市	嵯峨谷	0	0	0.0	4	0	0	0	0
	8	かつらぎ町	広浦	0	0	0.0	0	2	0	0	1
	9		丁ノ	0	0	0.0	0	0	1	0	0
	10		西飯降	0	0	0.0	0	0	0	1	0
	11		西洪田	0	0	0.0	0	0	0	0	0
那賀	1	紀の川市	野上	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	2		最上	0	0	0.0	10	0	0	0	1
	3		調月	0	0	0.0	0	12	0	0	0
海草	1	紀美野町	赤木	0	0	0.0	0	0	0	0	2
	2		鎌滝	0	0	0.0	2	2	0	0	9
	3		三尾川	0	0	0.0	6	0	4	0	0
平均				0.0	0.0	0.0	1.5	0.9	0.3	0.2	0.8
発生園数				0	0		3	3	2	3	5
園率(%)				0.0	0.0		35.3	17.6	11.8	17.6	29.4

「平核無」「刀根早生」

地区名	園番号	調査場所		品種	うどんこ病		灰色かび病 発病新梢率 %	フジコナ <sup>*1</sup> 寄生花蕾率 %	カキクダ <sup>*2</sup> 被害葉率 %	チャノキ <sup>*4</sup> 被害果率 %	マイマイガ 被害葉率 %	ハダニ <sup>*3</sup> 被害葉率 %	ハダニ <sup>*3</sup> 被害花蕾率 %
		市町村	字		発病葉率 %	発病度							
伊都	1	橋本市	柏原	刀根	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	2		市脇	平核無	0	0.0	0	- <sup>*5</sup>	0	-	0	0	0
	3		有岡	刀根	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	4		南馬場	平核無	0	0.0	2	0	0	0	0	0	0
	5	九度山町	広良	刀根	0	0.0	2	12	0	0	0	0	0
	6		入郷	刀根	0	0.0	0	0	0	0	1	0	0
	7	橋本市	嵯峨谷	平核無	0	0.0	0	0	0	0	1	0	0
	8	かつらぎ町	広浦	平核無	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	9		柏木	刀根	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	10		丁ノ	平核無	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	11		兄井	平核無	0	0.0	0	-	0	-	1	0	0
	12		西洪田	刀根	0	0.0	0	12	0	0	0	0	0
那賀	1	紀の川市	野上	刀根	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	2		最上	平核無	0	0.0	0	-	0	-	1	0	0
	3		調月	平核無	0	0.0	0	16	0	0	2	0	0
海草	1	紀美野町	赤木	平核無	0	0.0	0	8	0	0	0	0	0
	2		鎌滝	刀根	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
平均					0.0	0.0	0.2	3.4	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0
発生園数					0		2	4	0	0	5	0	0
園率(%)					0.0		11.8	28.6	0.0	0.0	29.4	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

\*1 : フジコナカイガラムシ

\*2 : カキクダアザミウマ

\*3 : カンザワハダニ

\*4 : チャノキイロアザミウマ

\*5 : 園番号伊都2、11、那賀2は霜害のため、花蕾の調査を中止した。



## (2)6月調査(11、15日)

「富有」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		灰色かび病		へたムシ *1 被害果率	フジコナ *2 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	カキクダ *3 被害葉率	さび果症 被害果率
			発病葉率	発病度	発病果率	発病葉率					
		%	%			%	%	%	%	%	%
伊都	1	0	0	0.0	0	0	8	0	0	0	0
	2	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	2
	4	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	1	0.1	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	7	0	0	0.0	0	1	0	0	0	0	0
	8	0	1	0.1	0	1	0	8	2	1	0
	9	0	0	0.0	2	0	0	0	0	0	0
	10	0	2	0.2	0	0	0	0	2	0	0
	11	0	0	0.0	0	0	0	0	2	0	0
那賀	1	0	1	0.1	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	2	0.2	0	1	0	0	4	0	0
	3	0	0	0.0	4	0	0	24	2	0	0
海草	1	0	8	0.8	0	1	0	0	0	0	0
	2	0	6	0.6	0	0	0	16	0	0	0
	3	0	0	0.0	2	0	0	0	10	2	0
平均	0.0	1.2	0.1	0.5	0.2	0.5	2.8	1.3	0.2	0.1	
発生園数	0	7		3	4	1	3	6	2	1	
園率(%)	0.0	41.2		17.6	23.5	5.9	17.6	35.3	11.8	5.9	

「平核無」「刀根早生」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		灰色かび病		フジコナ *2 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	カキクダ *3 被害葉率	チャノキ *4 被害果率	ハダニ *5 被害果率
			発病葉率	発病度	発病果率	発病葉率					
		%	%			%	%	%	%	%	%
伊都	1	0	0	0.0	0	0	2	0	0	0	0
	2	- *6	0	0.0	-	0	-	-	0	-	-
	3	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0.0	0	0	2	0	0	0	0
	7	0	0	0.0	0	0	0	2	0	0	0
	8	0	0	0.0	0	0	0	0	1	0	0
	9	0	0	0.0	0	0	0	2	0	0	0
	10	0	0	0.0	0	0	0	0	1	0	0
	11	-	0	0.0	-	0	-	-	0	-	-
	12	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
那賀	1	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	2	-	0	0.0	-	0	-	-	0	-	-
	3	0	0	0.0	2	0	2	4	0	0	0
海草	1	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0.0	2	0	0	0	0	0	0
平均	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.4	0.6	0.1	0.0	0.0	
発生園数	0	0		2	0	3	3	2	0	0	
園率(%)	0.0	0.0		14.3	0.0	21.4	21.4	11.8	0.0	0.0	

100葉、50果調査

\*1 : カキノヘタムシガ

\*2 : フジコナカイガラムシ

\*3 : カキクダアザミウマ

\*4 : チャノキイロアザミウマ

\*5 : カンザワハダニ

\*6 : 「平核無」「刀根早生」の園番号伊都2、11、那賀2は霜害のため、果実の調査を中止した。

## (3)7月調査(13、14日)

「富有」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		すす点病 発病果率	*1 ヘタムシ 被害果率	*2 フジコナ 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	*3 カキクダ 被害果率	*4 コガシラ 被害果率	さび果症 被害果率	カメムシ類 被害果率
			発病葉率	発病度								
		%	%		%	%	%	%	%	%	%	%
伊都	1	0	0	0.0	0	6	2	0	0	0	4	0
	2	0	0	0.0	0	0	0	2	0	0	0	0
	3	0	0	0.0	0	0	0	2	0	0	6	0
	4	0	0	0.0	4	2	0	2	0	0	0	0
	5	0	3	0.3	0	0	6	0	0	0	0	0
	6	0	2	0.2	0	0	2	0	0	0	0	0
	7	0	1	0.1	28	0	0	0	0	0	2	0
	8	0	7	0.7	16	0	4	0	4	0	0	0
	9	0	1	0.1	2	0	2	2	0	0	4	0
	10	0	19	2.3	0	0	20	0	0	0	2	0
	11	0	2	0.2	0	0	2	18	0	0	2	0
那賀	1	0	57	10.2	0	0	10	0	0	0	2	0
	2	0	13	1.3	2	0	6	26	0	2	2	0
	3	0	31	4.6	0	0	28	4	0	0	0	0
海草	1	0	49	9.5	0	0	2	0	0	0	0	0
	2	0	18	2.0	0	0	32	0	0	0	2	0
	3	0	5	0.5	22	4	16	8	2	0	0	0
平均	0.0	12.2	1.9	4.4	0.7	7.8	3.8	0.4	0.1	1.5	0.0	
発生園数	0	13		6	3	13	8	2	1	9	0	
園率(%)	0.0	76.5		35.3	17.6	76.5	47.1	11.8	5.9	52.9	0.0	

「平核無」「刀根早生」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		すす点病 発病果率	*2 フジコナ 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	*3 カキクダ 被害果率	*5 チャノキ 被害果率	*6 ハダニ 被害果率	カメムシ類 被害果率
			発病葉率	発病度							
		%	%		%	%	%	%	%	%	%
伊都	1	0	0	0.0	0	0	0	18	0	0	0
	2	-*7	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-
	3	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0.0	8	0	2	0	0	0	0
	5	0	0	0.0	0	2	0	0	0	0	0
	6	0	0	0.0	0	0	0	0	22	0	0
	7	0	0	0.0	22	2	0	0	0	0	0
	8	0	8	0.8	0	2	0	0	2	0	0
	9	0	2	0.2	0	0	0	0	0	0	0
	10	0	3	0.3	0	0	0	0	0	0	0
	11	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-
	12	0	0	0.0	0	2	2	0	6	0	0
那賀	1	0	3	0.5	0	0	0	2	0	0	
	2	-	3	0.3	-	-	-	-	-	-	
	3	0	6	0.6	0	10	4	2	10	0	0
海草	1	0	5	0.5	0	2	0	0	0	0	
	2	0	0	0.0	0	2	0	0	0	0	
平均	0.0	1.8	0.2	2.1	1.6	0.6	0.1	4.3	0.0	0.0	
発生園数	0	8		2	7	3	1	6	0	0	
園率(%)	0.0	47.1		14.3	50.0	21.4	7.1	42.9	0.0	0.0	

100葉、50果調査

\*1 : カキノヘタムシガ

\*2 : フジコナカイガラムシ

\*3 : カキクダアザミウマ

\*4 : コガシラアワフキ

\*5 : チャノキイロアザミウマ

\*6 : カンザワハダニ

\*7 : 「平核無」「刀根早生」の園番号伊都2、11、那賀2は霜害のため、果実の調査を中止した。

## (4)8月調査(10、12日)

「富有」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		角斑落葉病 発病葉率	円星落葉病 発病葉率	すす点病 発病果率	*1 ヘタムシ 被害果率	*2 フジコナ 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	*3 コガシラ 被害果率	さび果症 被害果率	カメムシ類 被害果率
			発病葉率	発病度									
		%	%		%	%	%	%	%	%	%	%	%
伊都	1	0	0	0.0	0	0	2	2	4	10	0	0	2
	2	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	3	0	0	0.0	0	0	2	0	8	2	6	2	78
	4	0	1	0.1	0	0	2	0	0	0	0	0	18
	5	0	18	3.8	0	0	0	0	2	2	0	0	0
	6	0	11	1.3	0	0	0	0	2	0	2	2	6
	7	0	0	0.0	0	0	84	0	0	0	2	0	0
	8	0	27	3.3	0	0	52	0	24	4	2	0	0
	9	0	6	0.6	0	0	8	0	4	0	4	2	0
	10	0	34	4.8	0	0	4	2	36	0	2	0	14
	11	0	2	0.2	0	0	0	0	0	24	2	0	4
那賀	1	0	71	16.4	0	0	0	0	4	0	0	4	0
	2	0	26	2.6	0	0	0	2	8	28	0	2	0
	3	0	63	20.1	0	0	0	2	32	6	0	0	0
海草	1	0	82	20.9	0	0	0	0	4	0	0	0	6
	2	0	25	2.9	0	0	0	2	34	4	0	0	10
	3	0	24	4.0	0	0	64	8	10	6	0	0	50
平均		0.0	22.9	4.8	0.0	0.0	12.8	1.1	10.1	5.1	1.2	0.8	11.1
発生園数		0	13		0	0	8	6	26	9	7	6	9
園率(%)		0.0	76.5		0.0	0.0	47.1	35.3	76.5	52.9	41.2	35.3	52.9

「平核無」「刀根早生」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		角斑落葉病 発病葉率	円星落葉病 発病葉率	すす点病 発病果率	*2 フジコナ 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	*1 ヘタムシ 被害果率	*4 チャノキ 被害果率	カメムシ類 被害果率
			発病葉率	発病度								
		%	%		%	%	%	%	%	%	%	%
伊都	1	0	0	0.0	0	0	0	0	2	0	24	2
	2	- <sup>*5</sup>	0	0.0	0	0	-	-	-	0	-	-
	3	0	0	0.0	0	0	0	2	2	0	10	4
	4	0	0	0.0	0	0	14	0	0	0	2	0
	5	0	1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	2	0.2	0	0	0	2	0	0	60	0
	7	0	0	0.0	0	0	24	0	2	0	2	0
	8	0	2	0.2	0	0	2	2	0	0	0	0
	9	0	0	0.0	0	0	0	2	0	0	14	0
	10	0	2	0.2	0	0	2	0	0	0	16	0
	11	-	12	3.9	0	0	-	-	-	0	-	0
	12	0	1	0.1	0	0	0	2	2	0	12	0
那賀	1	0	11	1.3	0	0	0	2	0	0	14	0
	2	-	2	0.2	0	0	-	-	-	0	-	0
	3	0	44	2.2	0	0	2	26	2	0	18	0
海草	1	0	3	0.3	0	0	0	2	0	0	8	0
	2	0	0	0.0	0	0	2	0	0	0	6	0
平均		0.0	3.4	0.5	0.0	0.0	3.3	2.9	0.7	0.0	13.3	0.4
発生園数		0	10		0	0	6	8	5	0	12	2
園率(%)		0.0	58.8		0.0	0.0	42.9	57.1	35.7	0.0	85.7	14.3

100葉、50果調査

\*1 : カキノヘタムシガ

\*2 : フジコナカイガラムシ

\*3 : コガシラアワフキ

\*4 : チャノキイロアザミウマ

\*5 : 「平核無」「刀根早生」の園番号伊都2、11、那賀2は霜害のため、果実の調査を中止した。

## (5)9月調査(15、17日)

「富有」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		角斑落葉病		円星落葉病		すす点病 発病果率	へたムシ <sup>*1</sup> 被害果率	フジコナ <sup>*2</sup> 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	カメムシ類 被害果率	ヨトウ <sup>*3</sup> 被害葉率
			発病葉率	発病度	発病葉率	発病度	発病葉率	発病度						
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
伊都	1	0	2	0.2	30	6.0	0	0.0	6	4	14	16	16	0
	2	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0	0	0	0	2
	3	0	0	0.0	3	0.5	0	0.0	6	0	16	2	64	1
	4	0	0	0.0	7	1.3	0	0.0	12	0	2	6	44	1
	5	0	16	3.3	0	0.0	0	0.0	0	0	14	2	0	1
	6	0	17	2.1	12	2.3	0	0.0	0	0	10	4	4	5
	7	0	3	0.3	19	4.2	0	0.0	86	0	0	10	0	0
	8	0	17	2.4	11	4.2	0	0.0	56	2	18	4	0	0
	9	0	16	1.8	13	2.5	0	0.0	2	0	2	4	2	0
	10	0	24	3.2	25	5.2	0	0.0	8	0	32	6	12	0
	11	0	2	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0	0	22	0	0
那賀	1	0	72	16.5	4	0.7	0	0.0	0	0	4	12	4	0
	2	2	37	8.6	1	0.2	0	0.0	4	74	10	28	32	0
	3	0	56	15.2	4	1.2	0	0.0	8	2	26	0	2	1
海草	1	0	63	18.0	0	0.0	0	0.0	8	0	12	0	6	4
	2	0	28	4.2	0	0.0	0	0.0	0	0	36	2	16	7
	3	0	35	13.7	59	17.2	0	0.0	80	16	18	6	48	1
平均	0.1	22.8	5.3	11.1	2.7	0.0	0.0	16.4	5.8	12.6	7.3	14.7	1.4	
発生園数	1	14		12		0		12	5	14	14	12	9	
園率(%)	5.9	82.4		70.6		0.0		70.6	29.4	82	82.4	70.6	52.9	

「平核無」「刀根早生」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		角斑落葉病		円星落葉病		すす点病 発病果率	へたムシ <sup>*1</sup> 被害果率	フジコナ <sup>*2</sup> 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	カメムシ類 被害果率	ヨトウ <sup>*3</sup> 被害葉率
			発病葉率	発病度	発病葉率	発病度	発病葉率	発病度						
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
伊都	1	0	0	0.0	8	1.8	0	0.0	4	0	0	0	0	1
	2	- <sup>*4</sup>	0	0.0	1	0.2	0	0.0	-	-	-	-	-	1
	3	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	4	4
	4	0	0	0.0	2	0.3	0	0.0	12	0	0	0	2	0
	5	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	12	0	0	2
	6	0	3	0.3	0	0.0	0	0.0	2	0	0	0	0	6
	7	0	0	0.0	4	0.7	0	0.0	46	0	0	0	2	0
	8	0	8	0.8	4	1.2	0	0.0	14	2	2	4	0	1
	9	0	2	0.2	0	0.0	0	0.0	8	0	4	0	0	0
	10	0	1	0.1	1	0.2	0	0.0	2	0	0	0	0	3
	11	-	1	0.1	15	5.8	0	0.0	-	-	-	-	-	0
	12	0	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0	12	6	0	0
那賀	1	0	3	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0	4	2	0	1
	2	-	12	1.4	0	0.0	0	0.0	-	-	-	-	-	0
	3	0	12	2.0	2	0.3	0	0.0	4	0	16	4	0	2
海草	1	0	2	0.2	0	0.0	0	0.0	2	0	0	2	0	4
	2	0	0	0.0	5	0.8	0	0.0	12	0	0	4	2	4
平均	0.0	2.6	0.3	2.5	0.7	0.0	0.0	7.6	0.1	3.6	1.6	0.7	1.8	
発生園数	0	10		9		0		10	1	6	7	4	12	
園率(%)	0.0	58.8		52.9		0.0		71.4	7.1	42.9	42.9	28.6	70.6	

100葉、50果調査

\*1：カキノヘタムシガ

\*2：フジコナカイガラムシ

\*3：ハスモンヨトウ

\*4：「平核無」「刀根早生」の園番号伊都2、11、那賀2は霜害のため、果実の調査を中止した。

## (6)10月調査(13、15日)

「富有」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		角斑落葉病		円星落葉病		すす点病 発病果率	*1 ヘタムシ 被害果率	*2 フジコナ 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	カメモシ類 被害果率
			発病葉率	発病度	発病葉率	発病度	発病葉率	発病度					
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
伊都	1	0	0	0.0	25	6.2	54	40.2	8	12	4	16	18
	2	0	1	0.1	2	0.3	0	0.0	18	0	2	10	0
	3	0	0	0.0	24	5.5	11	4.7	22	2	10	4	82
	4	0	0	0.0	6	1.5	28	15.5	2	0	0	4	66
	5	0	2	0.2	16	4.2	0	0.0	0	0	6	2	0
	6	0	15	2.4	13	4.0	0	0.0	2	0	2	4	8
	7	0	0	0.0	39	7.8	5	1.7	78	0	0	2	0
	8	0	25	5.4	27	7.8	0	0.0	84	2	4	2	6
	9	0	2	0.2	19	4.2	0	0.0	4	0	14	8	4
	10	4	45	16.2	29	9.5	1	0.2	12	0	46	6	26
	11	0	2	0.2	1	0.2	0	0.0	0	0	4	6	16
那賀	1	0	76	24.9	3	0.5	0	0.0	0	0	14	2	0
	2	2	41	6.8	26	5.0	1	0.2	68	66	0	4	68
	3	2	64	28.0	21	6.7	0	0.0	16	0	36	6	6
海草	1	2	54	11.4	3	0.5	0	0.0	24	0	10	0	30
	2	0	52	10.1	5	0.8	0	0.0	18	0	56	4	22
	3	0	35	10.1	94	49.3	19	3.8	92	0	18	18	64
平均		0.6	24.4	6.8	20.8	6.7	7.0	3.9	26.4	4.8	13.3	5.8	24.5
発生園数		4	13		17		7		14	4	14	16	13
園率(%)		23.5	76.5		100		41.2		82.4	23.5	82.4	94.1	76.5

100葉、50果調査

\*1 : カキノヘタムシガ

\*2 : フジコナカイガラムシ

3) もも  
(1)4月調査(13日)

地区名 園番号	調査場所		品 種	せん孔細菌病 発病枝率	モモハモグリガ 被害葉率	ナシ <sup>*1</sup> 被 害 枝 率	ア ブ ラ ム シ 類 寄生新梢率	カイガラムシ <sup>*2</sup> 寄生枝率	
	市町村	字							
				%	%	%	%	%	
那賀	1	紀の川市	杉原	紅清水	0	0	0	0	1
	2	遠方	日川	白鳳	0	0	0	0	4
	3	嶋	白鳳	白鳳	0	0	0	0	0
	4	長田中	白鳳	白鳳	0	0	0	1	2
	5	元	清水	白桃	0	0	0	0	0
	6	市場	清水	白桃	0	0	0	0	46
	7	段	清水	白桃	0	0	0	0	1
	8	段	清水	白桃	0	0	0	0	1
伊都	9	かつらぎ町	兄井	白鳳	0	0	0	0	1
	10	東	洪田	白鳳	0	0	0	0	2
平 均				0.0	0.0	0.0	0.1	5.7	
発生園数				0	0	0	1	7	
園率(%)				0.0	0.0	0.0	10.0	70.0	

100葉、100枝調査

\*1 : ナシヒメシンクイ

\*2 : クワシロカイガラムシ、ウメシロカイガラムシ

(2)5月調査(12、14日)

地区名 園番号	調査場所		品 種	せん孔細菌病 発病枝率	うどんこ病 寄生果率	モモハモグリガ 被害葉率	ハダニ類 寄生葉率	ナシ <sup>*1</sup> 被 害 枝 率	ア ブ ラ ム シ 類 寄生新梢率	カイガラムシ <sup>*2</sup> 寄生枝率	コスカシバ 被害箇所数
	市町村	字									
				%	%	%	%	%	%	%	樹当たり
那賀	1	紀の川市	杉原	紅清水	0	0	0	0	0	0	0.0
	2	遠方	日川	白鳳	0	0	0	0	0	2	0.0
	3	嶋	白鳳	白鳳	0	0	0	0	0	0	0.7
	4	長田中	白鳳	白鳳	0	0	2	0	0	0	0.0
	5	元	清水	白桃	0	0	1	0	0	0	0.0
	6	市場	清水	白桃	0	0	1	0	0	0	70
	7	段	清水	白桃	0	0	2	0	0	0	2
	8	段	清水	白桃	20	0	0	0	0	0	0
伊都	9	かつらぎ町	兄井	白鳳	0	0	1	0	0	0	0.0
	10	東	洪田	白鳳	0	0	1	0	0	4	0.5
平 均				2.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	7.8	0.5
発生園数				1	0	6	0	0	0	4	5
園率(%)				10.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	50.0

100葉、50果、50新梢 コスカシバ:樹高1m以下調査

\*1 : ナシヒメシンクイ

\*2 : クワシロカイガラムシ、ウメシロカイガラムシ

## (3)6月調査(11、15日)

地区名 園番号	せん孔細菌病		モモハモグリガ 被害葉率	ハダニ類 寄生葉率	ナシヒメ <sup>*1</sup> 被害枝率	アブラムシ類 寄生新梢率	カイガラムシ <sup>*2</sup> 寄生枝率	カメムシ類 被害果率
	発病葉率	発病果率						
	%	%	%	%	%	%	%	%
那 賀	1	0	—	0	0	0	0	0
	2	0	—	0	0	0	0	0
	3	0	—	0	0	0	0	0
	4	1	—	0	0	0	2	0
	5	1	2	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	6	0
	7	0	0	0	0	0	0	0
	8	19	14	0	0	0	0	0
伊都	9	0	—	1	0	0	0	0
	10	0	—	0	0	0	0	0
平均	2.1	4.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0
発生園数	3	2	1	0	0	0	2	0
園率(%)	30.0	50.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査 - は有袋のため未調査

\*1 : ナシヒメシンクイ

\*2 : クワシロカイガラムシ、ウメシロカイガラムシ

## (4)7月調査(10、14日)

地区名 園番号	せん孔細菌病		黒星病 発病果率	灰星病 被害果率	モモハモグリガ 被害葉率	ハダニ類 寄生葉率	ナシヒメ <sup>*1</sup> 被害枝率	アブラムシ類 寄生新梢率	カイガラムシ <sup>*2</sup> 寄生枝率	カメムシ類 被害果率
	発病葉率	発病果率								
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
那 賀	1	0	0	0	0	17	2	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	85	2	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	4	4	0	0	1	0	0	0	0
	5	7	2	0	0	0	0	0	0	0
	6	3	0	0	0	0	1	0	0	0
	7	0	0	0	0	0	65	0	0	0
	8	56	52	0	0	0	0	0	0	0
伊都	9	0	0	0	1	35	2	0	0	0
	10	0	0	0	0	15	0	0	0	0
平均	7.0	5.8	0.0	0.0	0.2	21.8	0.6	0.0	0.0	0.0
発生園数	47	3	0	0	2	6	3	0	0	0
園率(%)	40.0	30.0	0.0	0.0	20.0	60.0	30.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

\*1 : ナシヒメシンクイ

\*2 : クワシロカイガラムシ、ウメシロカイガラムシ

## (5)8月調査(10、12日)

地区名 園番号	せん孔細菌病	モモハモグリガ被害葉率	ハダニ類寄生葉率	ナシ <sup>*1</sup> 被害枝率	アブラムシ類寄生新梢率	カイガラムシ <sup>*2</sup> 寄生枝率	
	%	%	%	%	%	%	
那賀	1	2	0	87	28	0	0
	2	0	0	100	18	0	0
	3	0	0	40	10	0	0
	4	19	9	5	14	0	0
	5	7	0	8	8	0	0
	6	3	0	23	48	0	0
	7	1	1	66	36	0	0
	8	72	0	11	6	0	0
伊都	9	2	10	61	24	0	0
	10	0	14	71	20	0	2
平均	10.6	3.4	47.2	20.6	0.0	0.2	
発生園数	7	4	10	10	0	1	
園率(%)	70	40.0	100	100	0.0	10.0	

100葉、50果、50新梢調査。

\*1 : ナシヒメシンクイ

\*2 : クワシロカイガラムシ、ウメシロカイガラムシ



## 5) ウメ

(1) 4月調査(2、3日)

調査品種：南高

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		すす斑病	アブラムシ類	ウメシカガラムシ	その他の病害虫等
	園No.	字名	発病枝率	病斑数／発病枝	発病枝率	病斑数／発病枝	発病枝率	被害新梢率	寄生枝率	
みなべ町	1	東岩代1	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0	2.0	せん孔病有
みなべ町	2	東岩代2	0.0	0.0	0.0	0.0	92.0	0.0	2.0	
みなべ町	3	東岩代3	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0	0.0	
みなべ町	4	東本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	4.0	
みなべ町	5	東本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	58.0	0.0	20.0	
みなべ町	6	東本庄3	0.0	0.0	0.0	0.0	68.0	0.0	2.0	
みなべ町	7	西本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	70.0	0.0	26.0	
みなべ町	8	西本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	44.0	0.0	14.0	
みなべ町	9	井戸が谷1	0.0	0.0	0.0	0.0	72.0	0.0	6.0	
みなべ町	10	井戸が谷2	0.0	0.0	0.0	0.0	78.0	0.0	8.0	
みなべ町	11	埴田1	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0	0.0	
みなべ町	12	埴田2	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0	2.0	
みなべ町	13	晩稲1	0.0	0.0	0.0	0.0	78.0	0.0	0.0	
みなべ町	14	晩稲2	0.0	0.0	0.0	0.0	46.0	0.0	2.0	
みなべ町	15	晩稲3	0.0	0.0	0.0	0.0	44.0	0.0	2.0	
みなべ町	16	晩稲4	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	2.0	
みなべ町	17	岩代1	2.0	1.0	0.0	0.0	62.0	0.0	10.0	
みなべ町	18	岩代2	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	14.0	
みなべ町	19	高城1	0.0	0.0	0.0	0.0	92.0	0.0	4.0	
みなべ町	20	高城2	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	0.0	8.0	
みなべ町	21	清川1	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0	2.0	
みなべ町	22	清川2	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0	4.0	
田辺市	1	下三栖1	0.0	0.0	0.0	0.0	76.0	0.0	16.0	せん孔病有
田辺市	2	下三栖2	6.0	1.7	0.0	0.0	90.0	0.0	24.0	せん孔病少
田辺市	3	上秋津1	2.0	1.0	0.0	0.0	90.0	0.0	2.0	
田辺市	4	上秋津2	0.0	0.0	0.0	0.0	68.0	0.0	28.0	
田辺市	5	団栗	4.0	1.0	0.0	0.0	84.0	0.0	10.0	
田辺市	6	中芳養	0.0	0.0	0.0	0.0	78.0	0.0	26.0	
田辺市	7	津志野	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0	20.0	
田辺市	8	秋津川1	4.0	3.0	0.0	0.0	92.0	0.0	14.0	
田辺市	9	秋津川2	0.0	0.0	0.0	0.0	88.0	0.0	10.0	
田辺市	10	秋津川3	8.0	1.8	0.0	0.0	94.0	0.0	0.0	
田辺市	11	上芳養1	0.0	0.0	0.0	0.0	86.0	0.0	24.0	
田辺市	12	上芳養2	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	0.0	14.0	
	平均		0.8	0.3	0.0	0.0	78.9	0.0	9.5	
	発生園数		6		0		34	0	30	
	発生園率(%)		17.6		0.0		100	0.0	88.2	

## (2) 6月調査(2、3日)

調査品種：南高

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		うどんこ病	灰色かび病	すす斑病	ウツロハカラムシ	ハダニ類		コスガハ	アブラムシ類	その他の病害虫等
	園No.	字名	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病果率	発病枝率	寄生枝率	被害葉率	虫数/100葉	被害カ所数/5樹	被害新梢率	
みなべ町	1	東岩代1	0.0	0.0	6.0	1.3	0.0	0.0	58.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	2	東岩代2	0.0	0.0	6.0	1.2	0.0	0.0	66.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	3	東岩代3	0.0	0.0	5.0	0.8	0.0	3.0	72.0	0.0	5.0	9.0	0.0	0.0	
みなべ町	4	東本庄1	0.0	0.0	4.0	0.8	0.0	1.0	10.0	6.7	13.0	37.0	0.0	0.0	
みなべ町	5	東本庄2	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	4.0	23.3	30.0	150.0	0.0	0.0	
みなべ町	6	東本庄3	0.0	0.0	7.0	1.5	0.0	0.0	70.0	0.0	9.0	51.0	0.0	0.0	
みなべ町	7	西本庄1	0.0	0.0	8.0	1.3	0.0	0.0	74.0	0.0	5.0	1.0	0.0	3.0	
みなべ町	8	西本庄2	0.0	0.0	11.0	2.0	0.0	1.0	4.0	10.0	12.0	1.0	0.0	0.0	
みなべ町	9	井戸が谷1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	3.3	3.0	5.0	0.0	0.0	
みなべ町	10	井戸が谷2	0.0	0.0	5.0	0.8	0.0	2.0	92.0	0.0	18.0	17.0	0.0	0.0	
みなべ町	11	埴田1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	70.0	0.0	12.0	42.0	0.0	0.0	
みなべ町	12	埴田2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	36.0	0.0	7.0	14.0	3.0	0.0	
みなべ町	13	晩稲1	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	50.0	0.0	10.0	11.0	0.0	0.0	
みなべ町	14	晩稲2	1.0	0.2	4.0	0.7	0.0	2.0	76.0	0.0	3.0	9.0	0.0	0.0	
みなべ町	15	晩稲3	0.0	0.0	10.0	1.8	0.0	1.0	12.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	16	晩稲4	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	1.0	4.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	17	岩代1	0.0	0.0	15.0	2.8	0.0	0.0	92.0	0.0	4.0	1.0	0.0	0.0	
みなべ町	18	岩代2	0.0	0.0	24.0	6.3	0.0	0.0	80.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	19	高城1	1.0	0.2	4.0	0.7	0.0	0.0	70.0	0.0	14.0	75.0	0.0	0.0	
みなべ町	20	高城2	0.0	0.0	5.0	0.8	0.0	5.0	72.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	
みなべ町	21	清川1	2.0	0.3	6.0	1.0	0.0	0.0	100.0	10.0	8.0	8.0	2.0	0.0	
みなべ町	22	清川2	0.0	0.0	10.0	1.8	0.0	2.0	90.0	6.7	10.0	17.0	0.0	0.0	
田辺市	1	下三栖1	3.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	3.3	4.0	58.0	0.0	0.0	
田辺市	2	下三栖2	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	2.0	100.0	0.0	95.0	多	0.0	0.0	
田辺市	3	上秋津1	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	0.0	38.0	0.0	18.0	30.0	0.0	0.0	
田辺市	4	上秋津2	0.0	0.0	4.0	0.7	0.0	1.0	64.0	0.0	22.0	108.0	0.0	1.0	
田辺市	5	団栗	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	2.0	82.0	6.7	8.0	78.0	0.0	0.0	
田辺市	6	中芳養	1.0	0.3	8.0	1.3	0.0	2.0	58.0	20.0	31.0	365.0	0.0	0.0	
田辺市	7	津志野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	78.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
田辺市	8	秋津川1	0.0	0.0	20.0	4.8	0.0	0.0	78.0	0.0	11.0	25.0	1.0	0.0	
田辺市	9	秋津川2	0.0	0.0	21.0	3.8	0.0	2.0	38.0	0.0	1.0	4.0	0.0	0.0	
田辺市	10	秋津川3	0.0	0.0	17.0	3.5	0.0	1.0	82.0	3.3	8.0	20.0	5.0	0.0	
田辺市	11	上芳養1	0.0	0.0	4.0	0.7	0.0	0.0	100.0	0.0	12.0	12.0	1.0	0.0	
田辺市	12	上芳養2	0.0	0.0	10.0	1.8	0.0	2.0	76.0	6.7	16.0	51.0	0.0	0.0	
	平均		0.3	0.1	6.4	1.3	0.0	0.9	64.6	3.9	11.6	36.4	0.4	0.1	
	発生園数		6		27		1	17	34	16	28		5	2	
	発生園率(%)		17.6		79.4		2.9	50.0	100	47.1	82.4		14.7	5.9	